

わたしたち足利 自然

市民環境レポーター調査結果報告書
令和5年度版



目 次

I 調査の概要

- 1 調査の目的 1
- 2 レポーター数 2
- 3 調査の方法 2

II 調査結果

- 1 身近な生き物調査結果
 - 鳥 4
 - 植 物 12
 - 昆 虫 20
 - 水 辺 の 生 物 28
- 2 探そう！気になるいきものたち調査結果 36
- 3 新・珍発見報告 41

III 資 料 編

- 1 レポーター名簿 52
- 2 みんなの意見・感想 53
- 3 レポーターからの画像鑑定依頼 66

【表紙の説明】

上 段 左 ヤマユリ

上 段 右 ササゴイ

下 段 左 マガモ (オス)

下 段 右 ショウリョウバッタ (幼虫)

I 調査の概要

1 調査の目的

本市では、環境保全意識の啓発活動の一環として、平成5（1993）年度から当事業を実施しており、令和4（2022）年度をもって30周年を迎えました。

身近な自然、生き物の調査・観察を通して自然に親しみ、自然を大切にする心を育むとともに、環境全般に対する関心を高めていただくことを目的としています。

また、この調査は足利市の自然の状況を理解するためにも重要な調査です。レポーターの皆さんの調査結果をまとめると、足利市の自然の「いま」をうかがい知ることができます。皆さんから数多くの情報が寄せられ、足利の自然の豊かさを感じる一方で、自然が失われていくのに伴って棲み処を失い、なかなか市内では見られなくなってしまった生き物がいたり、地球温暖化の影響でかつては市内には生息していなかった生き物が増えたりと、様々な環境問題の影響が本市の自然・生態系にも及んでいる状況も読み取れます。本市では、こうした調査結果から得られた情報を環境行政に役立てています。

郷土足利の豊かな自然を守り継いでいくためには、一人ひとりが自然を守るために何ができるのか考え、行動につなげていくことが大切です。この調査をきっかけに、一人でも多くの方が地域の自然に親しみを持ち、大切に守っていただけますと幸いです。



2 レポーター数

今回の調査では、90名のレポーターの方に参加していただきました。このうち66名から調査票が提出され、概ね1～4メッシュ、多い方では10メッシュ以上の調査結果をご報告いただきました。

《レポーター数の推移》(単位：人)

合計(延べ)人

平成5年度	平成6年度	平成7年度	平成8年度	平成9年度
216	237	179	270	187
平成10年度	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度
147	180	207	278	292
平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度
305	294	378	290	244
平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
167	329	355	301	256
平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
269	251	243	243	132
平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
143	164	135	125	125
令和5年度				
90				

3 調査の方法

①調査対象種(32種類)



「鳥」「植物」「昆虫」「水辺の生物」の4項目各8種、計32種の身近な生き物を調査対象種とし、レポーターの方々に自由に調査していただきました。調査結果の詳細は4～35ページの『生き物分布図』に記載のとおりです。

《調査対象種32種》

鳥	アオバズク・シジュウカラ・カワセミ・オオヨシキリ コサギ・ヒバリ・ツバメ・オナガ
植物	外来タンポポ・在来タンポポ・シロバナタンポポ ネジバナ(モジズリ)・ヤマユリ・ヨシ(アシ) オモダカとアギナシ・ガマズミ
昆虫	アゲハ・ハグロトンボ・アキアカネ・アブラゼミ・ヒグラシ オオカマキリ・エンマコオロギ・ナナホシテントウ
水辺の生物	どじょう・アメリカザリガニ・サワガニ・アメンボ アズマヒキガエル・ウシガエル(食用ガエル) トウキョウダルマガエル・ニホンアマガエル(アマガエル)

【生き物分布図の見方】

生き物分布図は、レポーターの方々から提出された調査票に基づき、その結果をメッシュごとに次のように表示しました。

- ・生き物が見つかったメッシュ（確認数）  印で表示
 - ・生き物が見つからなかったメッシュ  印で表示
- } (報告数)

※『生き物分布図』は各メッシュ内で確認できたか否かを示すもので、生息(生育)数が多いか、少ないかを表すものではありません。

②調査メッシュ

市内を1km四方ごとに区切った全212メッシュを調査していただきます。今年度報告のなかったメッシュにも生き物たちが生息する可能性がありますので、今後の調査が期待されます。

③調査の期間

主に令和5年4月～10月までの7ヶ月間、日常生活や外出時などに調査をしていただきました。

(※この報告書には、昨年度の調査結果報告書に掲載されなかった令和4年11月～令和5年3月の調査結果も掲載されています。)

④調査対象種以外の報告

【探そう！気になるいきものたち 調査結果】

なかなか出会えないレアな生き物、市内での分布状況に注目したい生き物など、「気になる」生き物を集めたコーナー『探そう！気になるいきものたち』の調査も行っていました。こちらの調査結果は36～40ページに記載してあります。

【新・珍発見報告】

調査対象種・気になるいきものたち以外の生き物を見つけた場合、『新・珍発見』として報告して頂きました。皆さんから寄せられた報告は、41～49ページの『新・珍発見報告一覧』に掲載してあります。

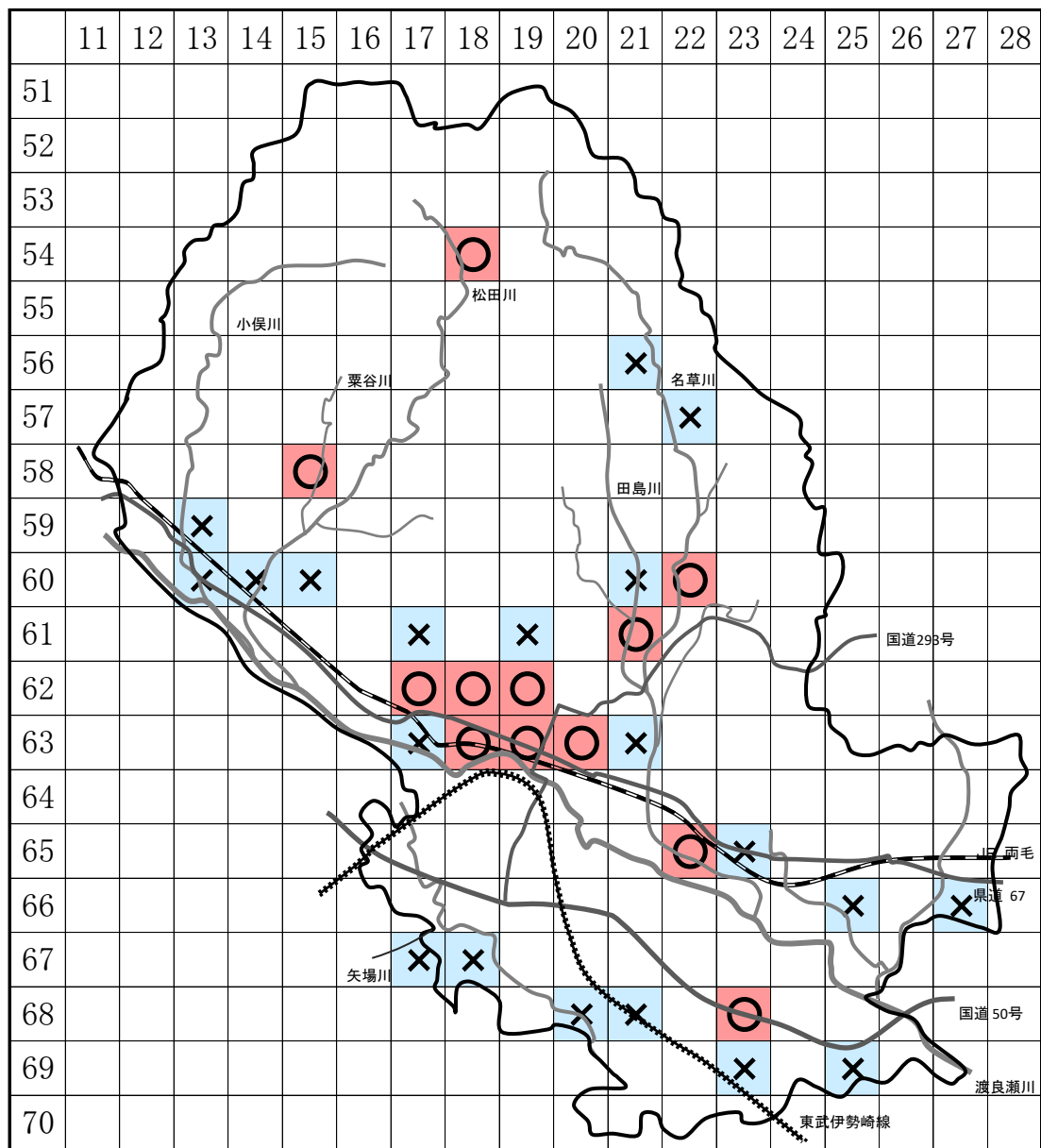
(※ペットとして飼育されている生き物や鉢植えになっている植物など、野生でないものは調査対象外です。)

Ⅱ 調査結果

1 身近な生き物調査結果

アオバズク	確認数： 12 メッシュ
	報告数： 32 メッシュ
	2022年度 10/28 2021年度 13/35

※過年度 確認数/報告数



ハトぐらいの大きさ
でフクロウの仲間。青
葉の茂る頃に飛来する
なつどりである。胸から腹
にかけてまだら模様で
あるが、全体的にこげ
茶色である。神社や
寺、公園などの林で、
日中はほとんど動かな
いが、夜になると蛾や
その他の昆虫をねらっ
て活動する。よくとお
る声で「ホッホー、
ホッホー」と鳴き続け
る。

かんさつてきき
観察適期
5月～10月

- ・生き物が見つかったメッシュ ○ 印で表示
- ・生き物が見つからなかったメッシュ × 印で表示

調査結果

夜行性の鳥の為に、なかなか観察時間帯に発見しにくいと思います。渡来してすぐの頃は朝・晩「ホッホ、ホッホ」と鳴いています。これをたよりに神社や寺、屋敷林等で太い古木の樹洞や幹の割目等をさがしてみてください。

今年は河南地区（久保田町）での報告がありました。来年も来てくれることを期待しています。

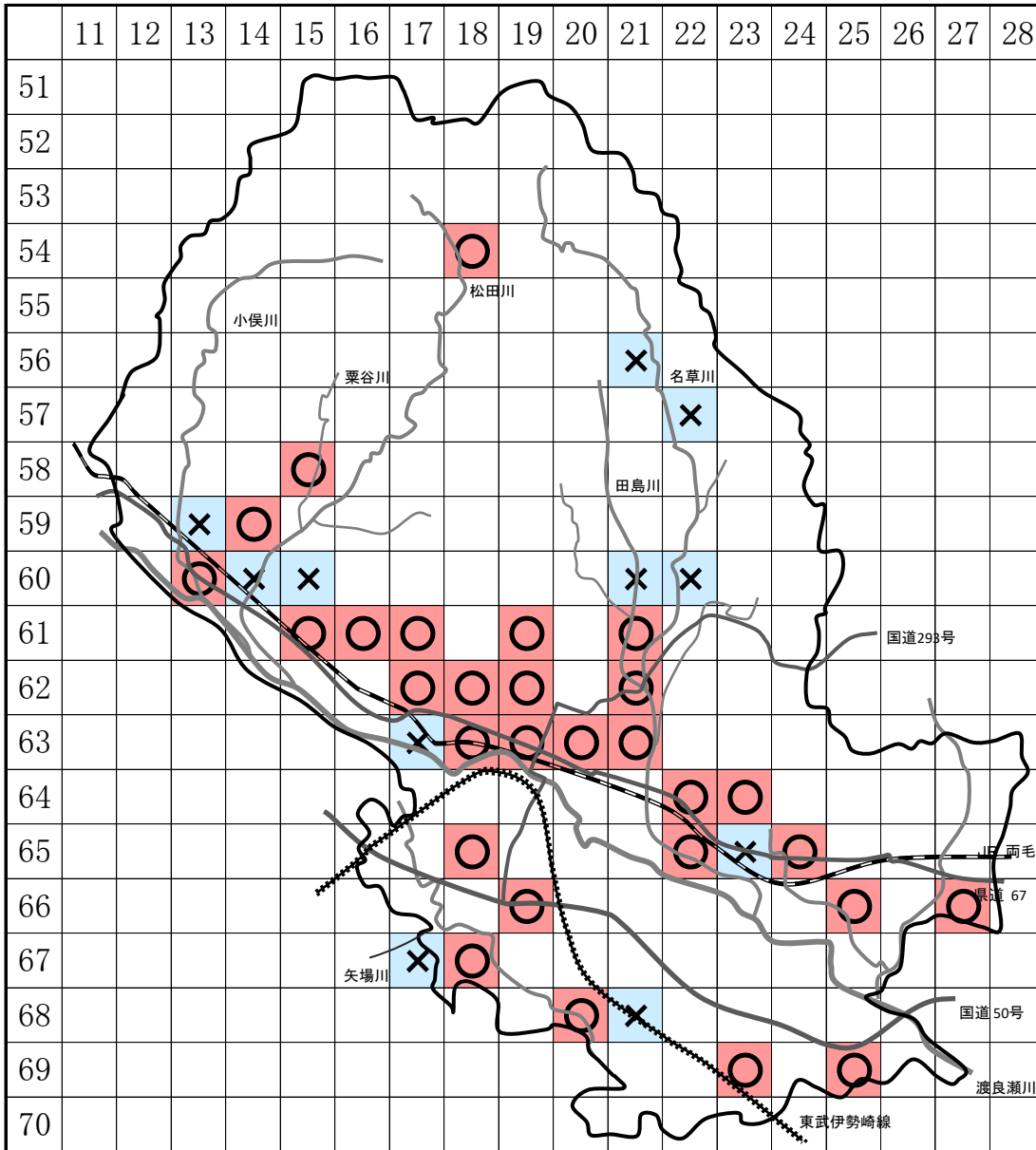
シジュウカラ

確認数： 29 メッシュ

報告数： 40 メッシュ

2022年度 33/39 2021年度 37/45

※過年度 確認数/報告数



スズメぐらいの^{おお}大き
さで、^{はやし}林や^{じゆく}樹木のある
^{こうえん}公園などで^{ふつう}普通に見ら
れる。^{あたま}頭が黒く、ほお
が白く、のどから^{はら}腹に
かけて^{くろ}黒いネクタイを
しているように見え
る。^{せなか}背中は^{はいろ}灰色で^{みどり}緑が
かっている。「ツツ
ピー、ツツピー」とさ
えずり、「チーチー、
ジュクジュク」とも^な鳴
く。とても^{うご}動きが^{はや}速
く、時々^{ときどき}庭にも^{あらわ}現れ
る。

かんさつてきき
観察適期
ねん かん
年 間

・生き物が見つかったメッシュ ○ 印で表示

・生き物が見つからなかったメッシュ × 印で表示

調査結果

スズメぐらいの^{おお}大き
さで「ツピー、ツピー」と^な鳴き、^{かっぱつ}活発に^{いどう}移動します。のどから^{たて}縦の^{くろ}黒いネク
タイ^{もよう}模様と^せ背の^{りよく}緑黄色の^{はいろ}羽色が^{とくちよう}特徴で^{とり}かわいい鳥です。

^{しな}市内どこでも見られているようです。^{さんかんぶ}山間部の^{ふか}深いところは別ですが、^{べつ}観察できな^{かんさつ}かった^{ばしよ}場所でも
^{じかんたい}時間帯や^{きせつ}季節を変えてみると^あ会えると思^{おも}います。

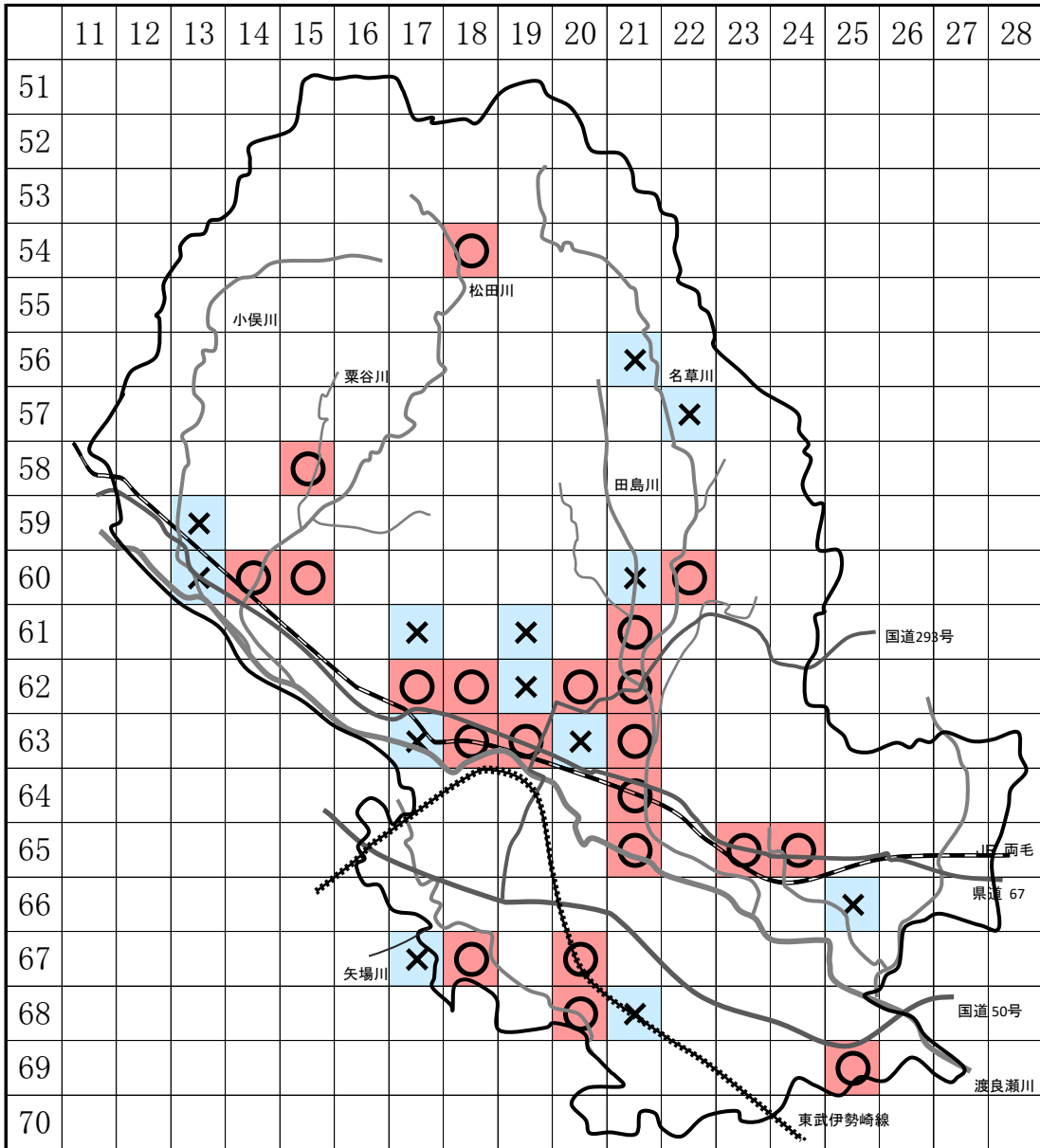
カワセミ

確認数： 21 メッシュ

報告数： 34 メッシュ

2022年度 23/35 2021年度 25/38

※過年度 確認数/報告数



スズメよりやや^{おお}大きい。くちばしが^{なが}長く背^せ中^{なか}がコバルトブルーで、^{はら}腹がオレンジ^{いろ}色の^{うつく}美しい鳥である。水^{みづ}辺^べに^{せいそく}生息し、^き木^きの^{えだ}枝^{えだ}や^くクイ^くイ^いに^と止まって^と小魚^{こさかな}をねらい、^とダイビングして^と捕らえる。^{すいめん}水面^{すいめん}すれすれに^{ちよくせんてき}直線的^とに飛び、

「チーツ」あるいは^{じてんしゃ}「ツイー」と^{おん}自転車の^{こえ}ブレーキ音^なのような^な声^{こえ}で鳴く。

かんさつ^{かん}き^{かん}き^き
観^{ねん}察^{かん}適^{かん}期^{ねん}
年^{ねん}間^{かん}

・生き物が見つかったメッシュ ○ 印で表示
 ・生き物が見つからなかったメッシュ × 印で表示

調査結果

^{はら}腹^{いろ}のオレンジ色^せ・背^{いろ}のコバルトブルー。生^いきた^{ほうせき}宝^{ほう}石^{せき}といわ^{よう}れる^{うつく}様^{とり}に^{むかし}美^{せいりゅう}しい^{とり}鳥^{とり}です。昔^{むかし}は^{せいりゅう}清^{せいりゅう}流^{せいりゅう}の^{とり}鳥^{とり}と

い^いわ^いれ^いて^いま^いし^まが^い、^{きんねん}近^と年^{とし}は^と都^し市^{ちやう}鳥^か化^かして、^{どの}ど^{かせん}の^み河^み川^みでも^{よう}見^{よう}ら^{よう}れる^{よう}様^{よう}に^{よう}な^{よう}り^{よう}ま^{よう}し^{よう}た^{よう}。

^{かくにん}確^{げんしやう}認^{かせん}メ^みッ^みシュ^みは^{まちなか}減^{すいろ}少^{ふく}しま^{ふく}し^{ふく}ま^{ふく}が^{ふく}、^{どの}ど^{かせん}の^み河^み川^みでも^{まちなか}見^{すいろ}ら^{ふく}れ^{ふく}て^{ふく}い^{ふく}る^{ふく}よう^{ふく}です^{ふく}（^{まちなか}街^{すいろ}中^{ふく}の^{ふく}水^{ふく}路^{ふく}も^{ふく}含^{ふく}め^{ふく}て）。

^{はっけん}発^み見^{とり}すると^みまた^{とり}見^{とり}た^{とり}く^{とり}なる^{とり}鳥^{とり}です^{とり}ね。

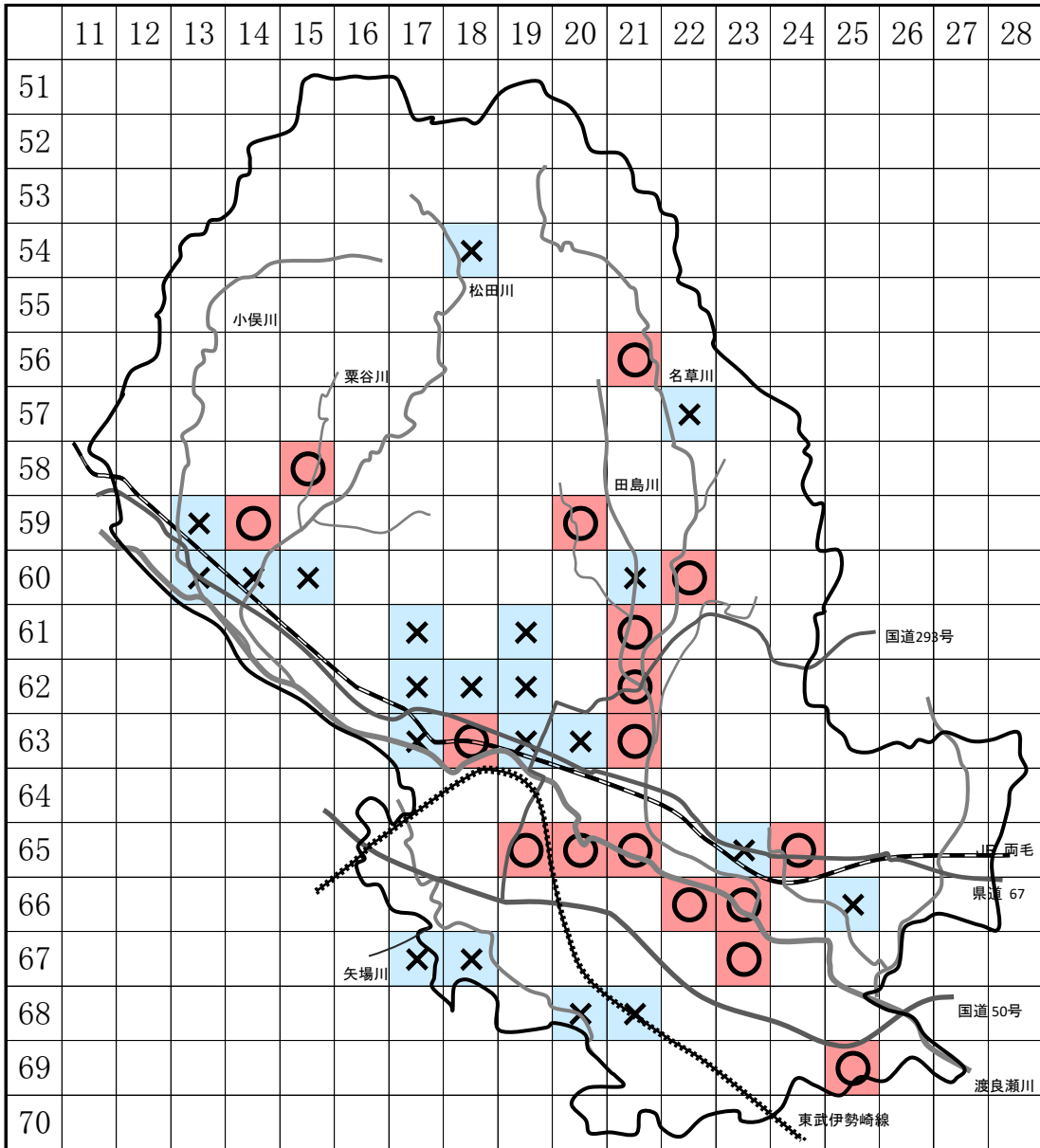
オオヨシキリ

確認数： 17 メッシュ

報告数： 38 メッシュ

2022年度 23/39 2021年度 22/42

※過年度 確認数/報告数



スズメより^{おお}大きい^{なつ}夏鳥で、4月末から5月にかけて、水辺の^{みずべ}開けた^{ひら}ヨシ原（アシ原）に^ひ飛来する。背中が^{せなか}褐色、^{むね}胸から^{はら}腹にかけて^{たんかつ}淡褐色の^{しよく}自立^{めだ}たない鳥である。^{みとお}見通しのよい、^{ぼしよ}ほぼ決まった^き場所

「ギョギョシ、ギョギョシ」と^{おお}大きな^{こえ}声で鳴き続けるが、8月になるとほとんど^な鳴かなくなる。

かんさつてきき
観察適期
がつ がつ
5月～8月

- 生き物が見つかったメッシュ ○ 印で表示
- 生き物が見つからなかったメッシュ × 印で表示

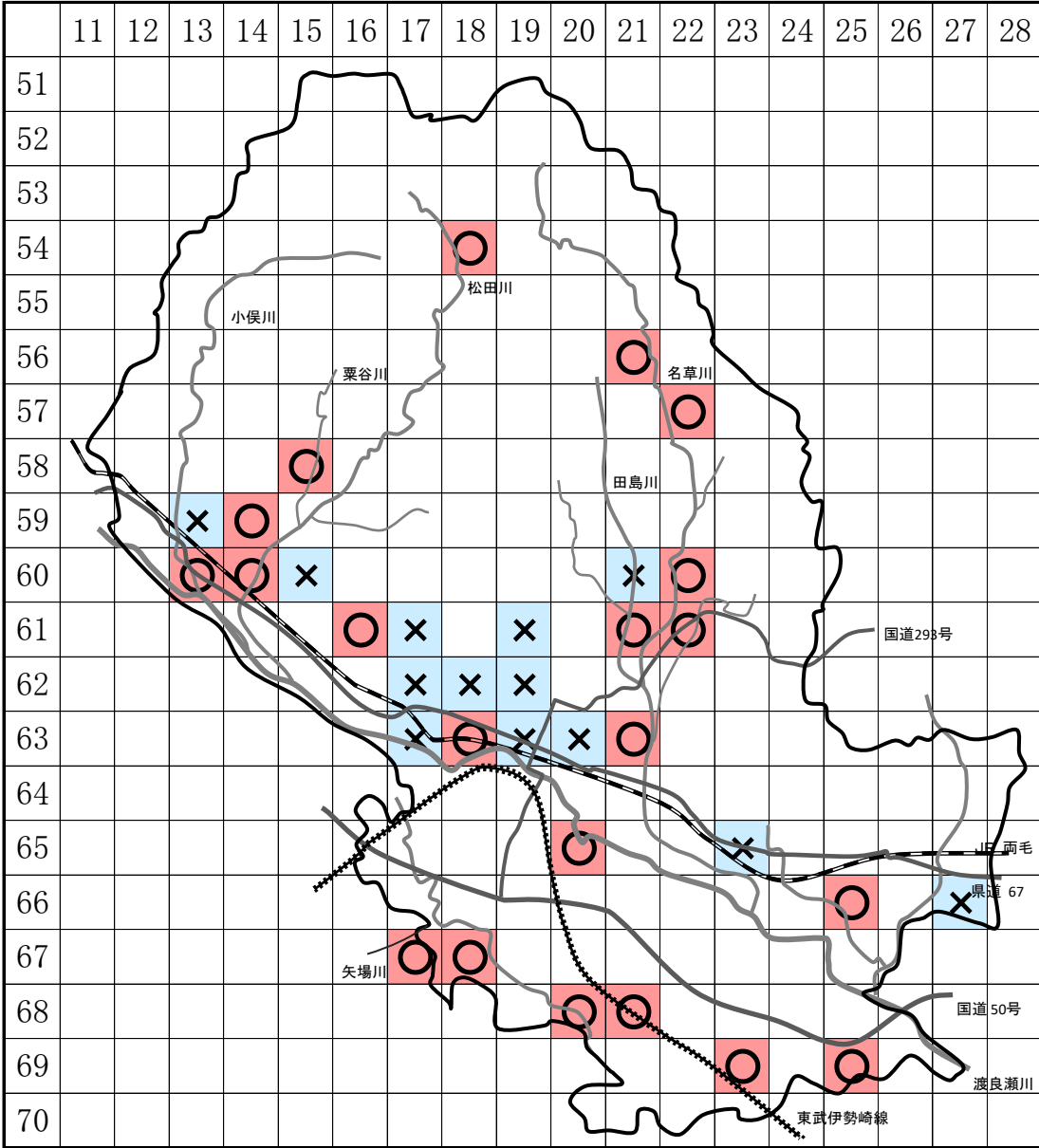
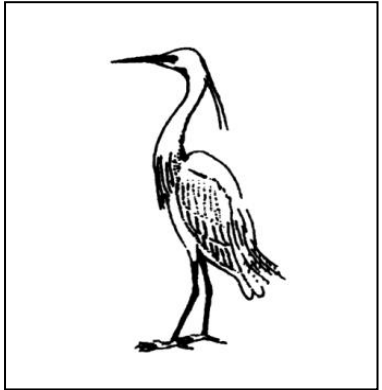
調査結果

4月下旬頃よりヨシ（アシ）等にとまり「ギョギョシー、ギョギョシー」と鳴き続け縄張りを主張します。昨年・一昨年と^{つづ}続けて^{げきげん}激減しており、今年も17メッシュと^{さいあく}最悪の^{じょうたい}状態です。

非常に減少の^{はげ}激しい^{けいこう}傾向にある鳥だと思ひます。今後も^{おも}環境の^{こんご}変化等を^{かんきょう}鑑み、^{へんかとう}注視して^{かんが}いきたいと思ひます。

コ サ ギ	確認数： 21 メッシュ
	報告数： 34 メッシュ
	2022年度 23/34 2021年度 37/42

※過年度 確認数/報告数



カラスよりもやや大
きく、四季を通して見
られる普通の白サギで
ある。くちばしが黒
く、白サギ類の中では
コサギだけが足指が黄
色である。川や沼、水
田、湿地などで小魚や
アメリカザリガニ、カ
エルなどを捕らえる。

かんさつてきき
観察適期
ねん かん
年 間

- ・生き物が見つかったメッシュ ○ 印で表示
- ・生き物が見つからなかったメッシュ × 印で表示

調査結果

メッシュのばらつきは気になりますが（蓮台寺川が×）、各河川で見られている様です。
毎年同じお願いですが、サギ類はダイサギ、チュウサギ、アマサギ、アオサギ等色々います。
ぜひ識別を気にして観察してみてください。

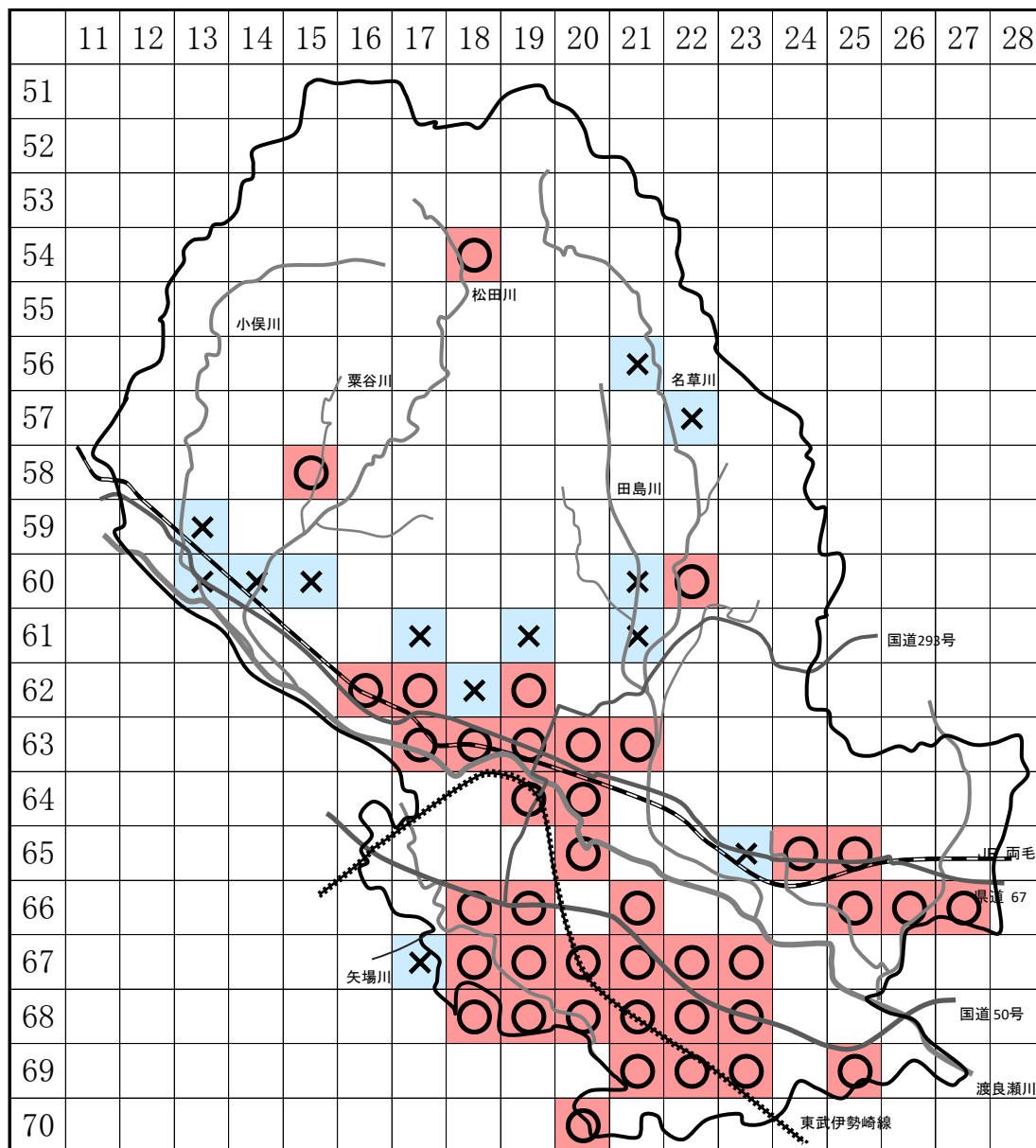
ヒバリー

確認数： 39 メッシュ

報告数： 52 メッシュ

2022年度 26/39 2021年度 29/37

※過年度 確認数/報告数



スズメより少し大き
く、広々とした河原や
農耕地などにすむ。色
はスズメより少し淡い
褐色だが模様は似てい
る。早春から大空高く
舞い上がり、宙に留ま
りながら「ピーチュ
ク、ピーチュク」と長
く鳴き続ける。地上で
は頭の羽毛を立ててい
る時が多く、虫や草の
種子をあさっている。

かんさつできき
観察適期
ねん かん
年 間

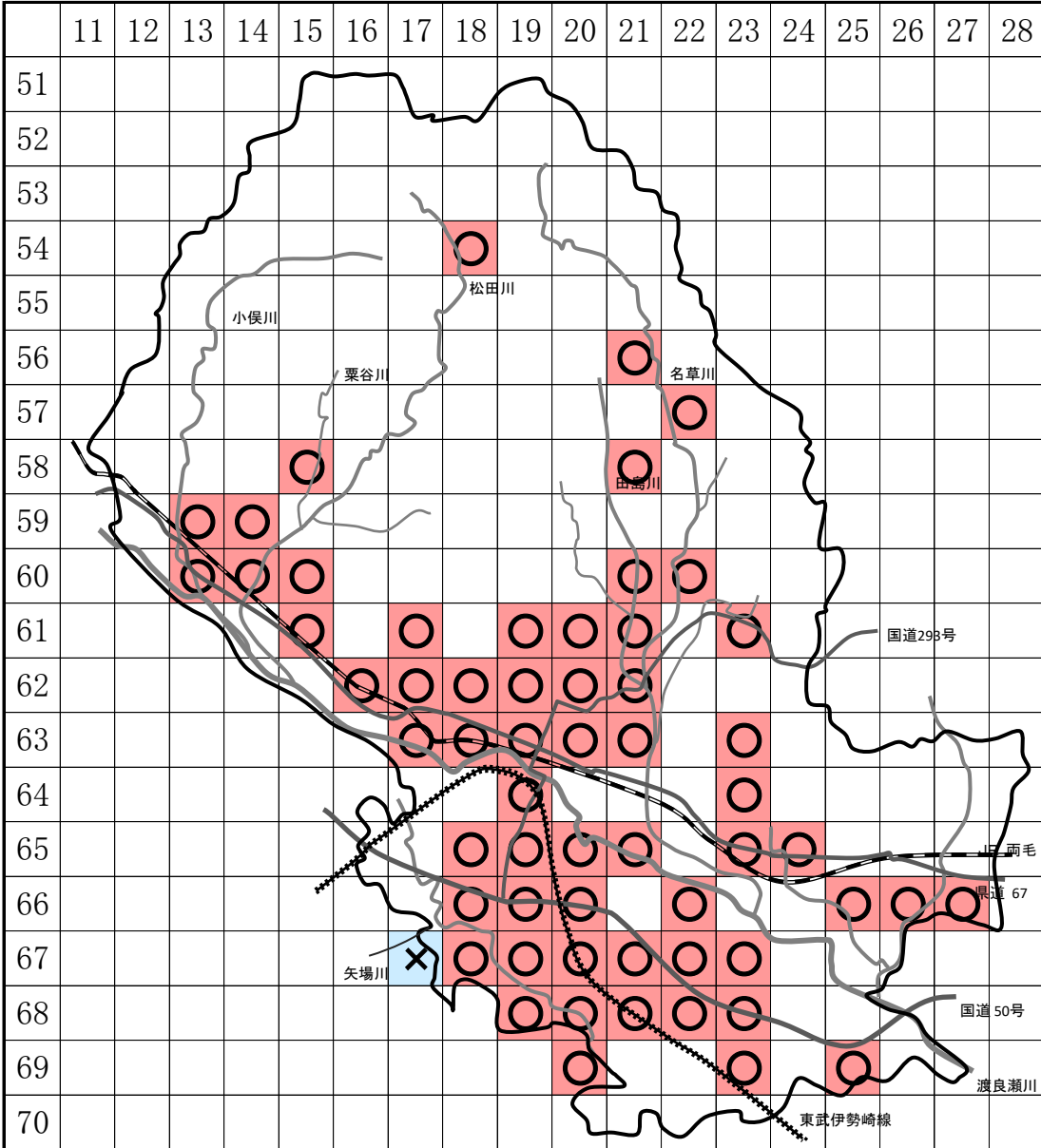
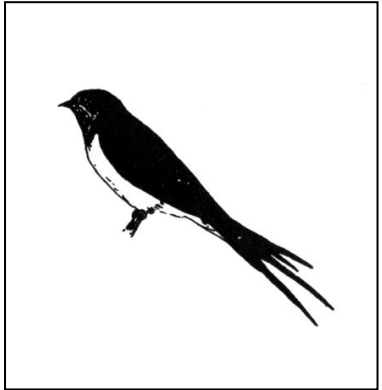
- 生き物が見つかったメッシュ ○ 印で表示
- 生き物が見つからなかったメッシュ × 印で表示

調査結果

ひら ばしよ くさち のうこうち かせんじき かんさつ てんたか な だれ
開けた場所（草地・農耕地・河川敷など）で観察できます。天高く鳴いているのは誰でもわかりま
すね。
かなんちく はじ しないぜんたい あんてい み おも
河南地区を始め、市内全体で安定して見られているように思います。

ツバメ	確認数： 59 メッシュ
	報告数： 60 メッシュ
	2022年度 55/56 2021年度 53/53

※過年度 確認数/報告数



ひとひと ^{あい}愛され、^{した}親しまれてきた夏鳥である。のどが ^{あかちいろ}赤茶色で ^せ背なか ^{くろ}く、^おお ^{なが}なが ^{ふた}ふたつに分かれている。毎年3月末から4月にかけて飛来し、軒先に土で巣を作り繁殖し、9月ごろ南へ渡っていく。

ツバメに似た、腰の白いイワツバメや、腰が茶色のコシアカツバメも見られるので、注意して観察しよう。

かんさつてきき
観察適期
がつ がつ
4月～10月

- ・生き物が見つかったメッシュ ○ 印で表示
- ・生き物が見つからなかったメッシュ × 印で表示

調査結果

ことし ^{かくにんほうこく}今年も99%の確認報告でした。

あしかが ^{かんさつ}足利ではどこでも観察できる、夏の代表的な益鳥です。

さいきん ^す最近 ^{すく}は巣が少なくなっている傾向なのが心配です。

みな ^{ほうこく}皆さんの報告を楽しみにしています。

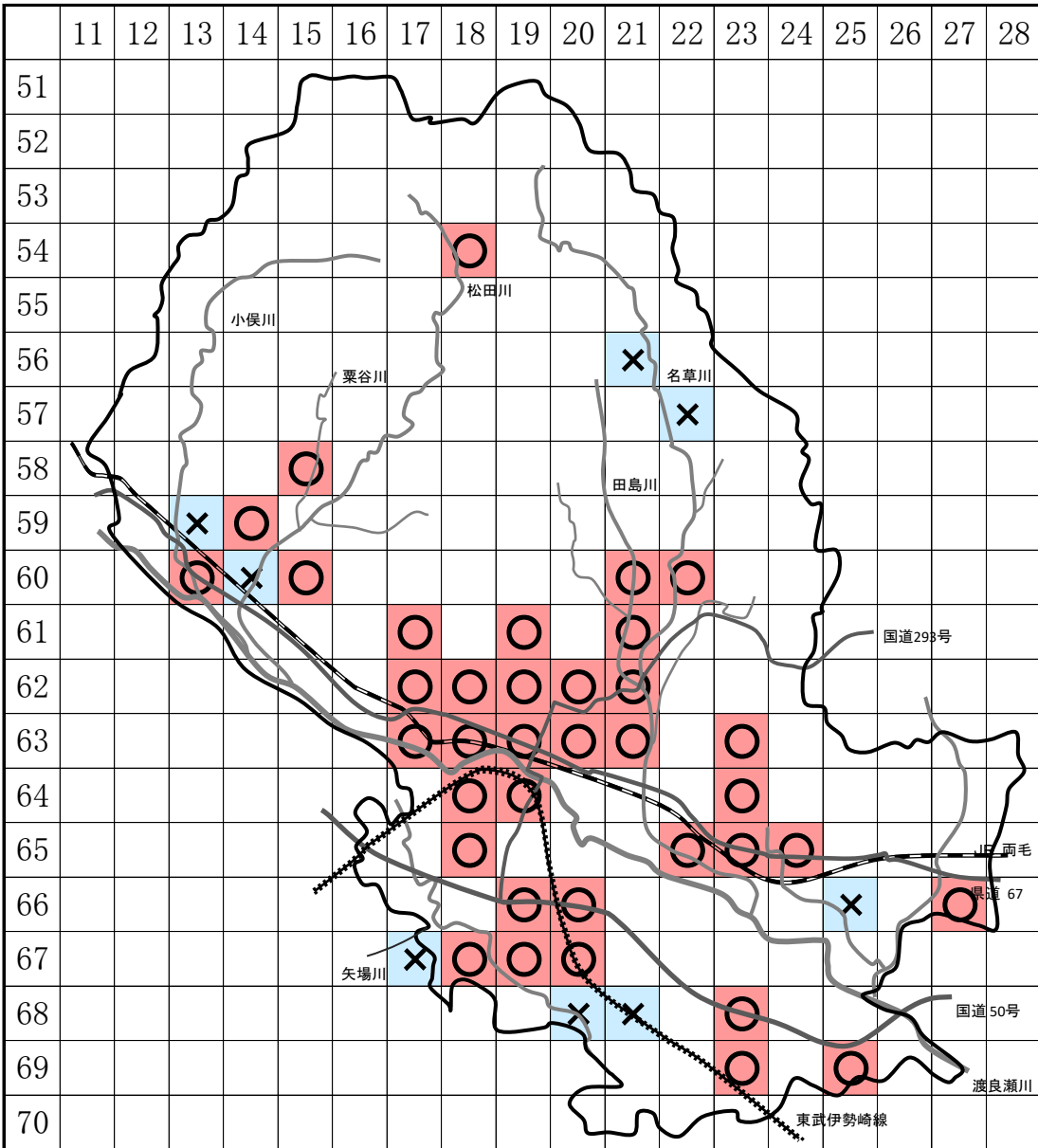
オ ナ ガ

確認数： 37 メッシュ

報告数： 45 メッシュ

2022年度 39/44 2021年度 43/48

※過年度 確認数/報告数



キジバトくらいのおお
 大ききで、頭が黒く、背
 中が灰色で、水色の尾
 羽が名前のとおりなが
 のが特徴である。樹の
 多い市街地や村落の樹
 上に巣を作り、昆虫や
 木の実を食べている。
 年中、「ゲーイ、ギユ
 ギユ」と鳴きながら、
 十数羽の集団で行動
 し、関東地方ではふつ
 うに見られる。

かんさつてきき
観察適期
 ねん かん
年間

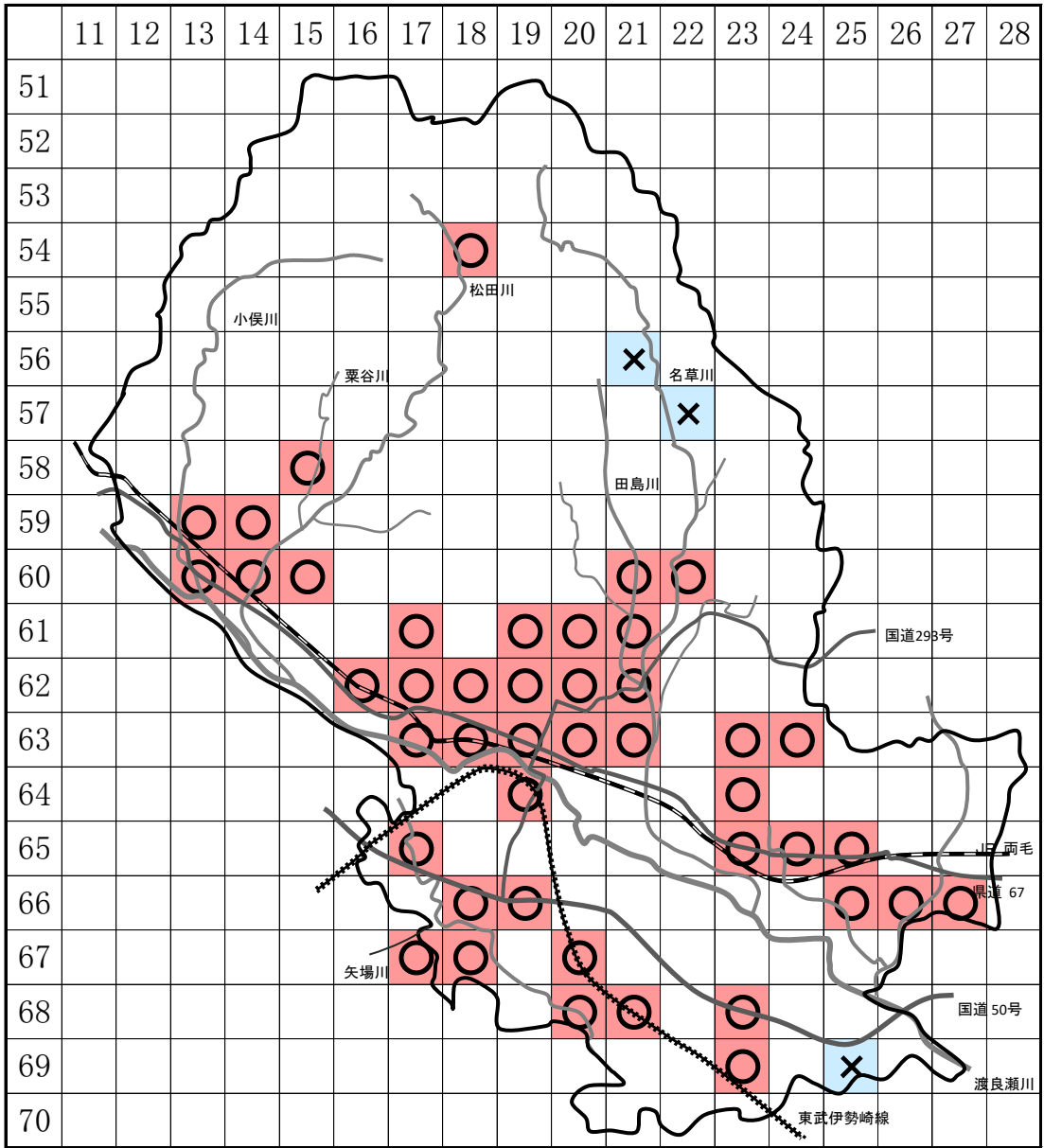
- ・生き物が見つかったメッシュ ○ 印で表示
- ・生き物が見つからなかったメッシュ × 印で表示

調査結果

特徴のある鳴声で、5~10羽くらいでの群れで移動しています。声はダミ声ですが、姿は黒い頭に
 背は灰色・水色の尾羽できれいな鳥です。
 市内全体で観察されていますね。

<small>が い ら い</small> 外来タンポポ <small>セイヨウタンポポ</small> <small>アカミタンポポ</small>	確認数： 44 メッシュ
	報告数： 47 メッシュ
	2022年度 48/49 2021年度 55/57

※過年度 確認数/報告数



はなの色がきいろでそうほう
 花の色が黄色で総苞
せん
 片がそりかえるもの。
 どちらもヨーロッパ原
さん
 産で明治時代に日本に
はい
 入ってきた。アカミタ
な とお かじつ
 ンポポは名の通り果実
あかみ おお しゆるい
 が赤味を帯びる種類だ
 が、セイヨウタンポポ
くべつ
 と区別しにくいので、
がいらい
 まとめて外来タンポポ
 とする。花は主に春に
はな おも はる
 咲くが、夏や秋にも咲
なつ あき
 いているものがある。

かんさつてきき
観察適期
はな がつ がつ
 (花) 4月～5月

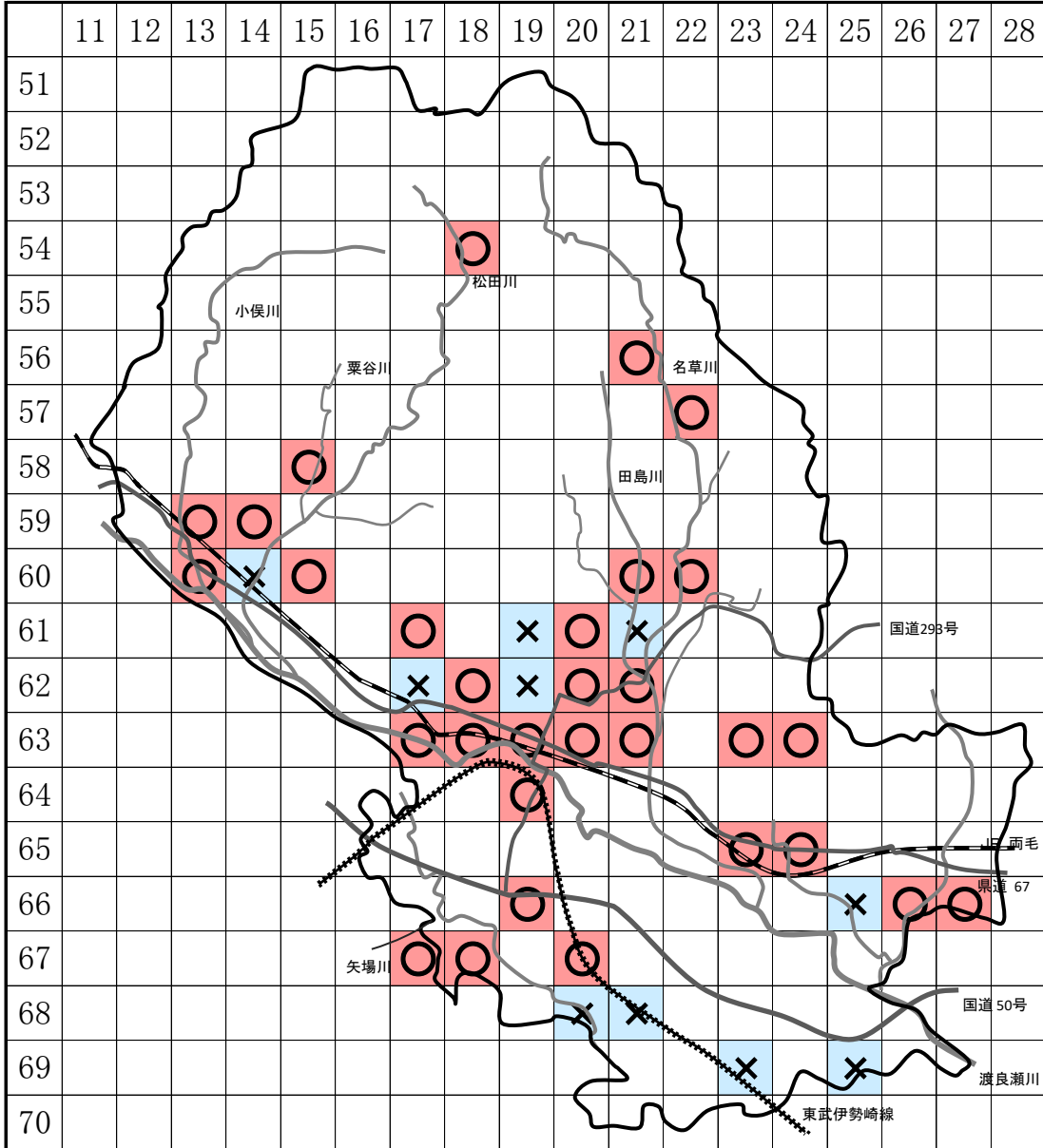
- ・生き物が見つかったメッシュ ○ 印で表示
- ・生き物が見つからなかったメッシュ × 印で表示

調査結果

ちょうさ
 調査をしたメッシュで、ひじょう たか 非常に高い確率で確認が来ていますが、としか 都市化が進んでいるのかと思
すず
 います。
くうはく
 空白のメッシュも多おおくありますので、じねんど 次年度はその辺りの調査結果にも興あ味があります。
あ
ちようさけつ
きようみ

ざいらい 在来タンポポ ニホンタンポポ(エゾタンポポ) カントウタンポポ	確認数： 31 メッシュ
	報告数： 41 メッシュ
	2022年度 32/42 2021年度 35/48

※過年度 確認数/報告数



はなが黄色で総苞片が
 そりかえらないもの。
 従来、足利付近のものはエゾタンポポとカントウタンポポの2種類と考えられていたが、最近の研究でニホンタンポポとしてまとめたほうがよい事が分かった。

花の開き方が明るさによって変わるので、くもった日などに注意してみたい。

観察適期
 (花) 4月～5月

- 生き物が見つかったメッシュ ○ 印で表示
- 生き物が見つからなかったメッシュ × 印で表示

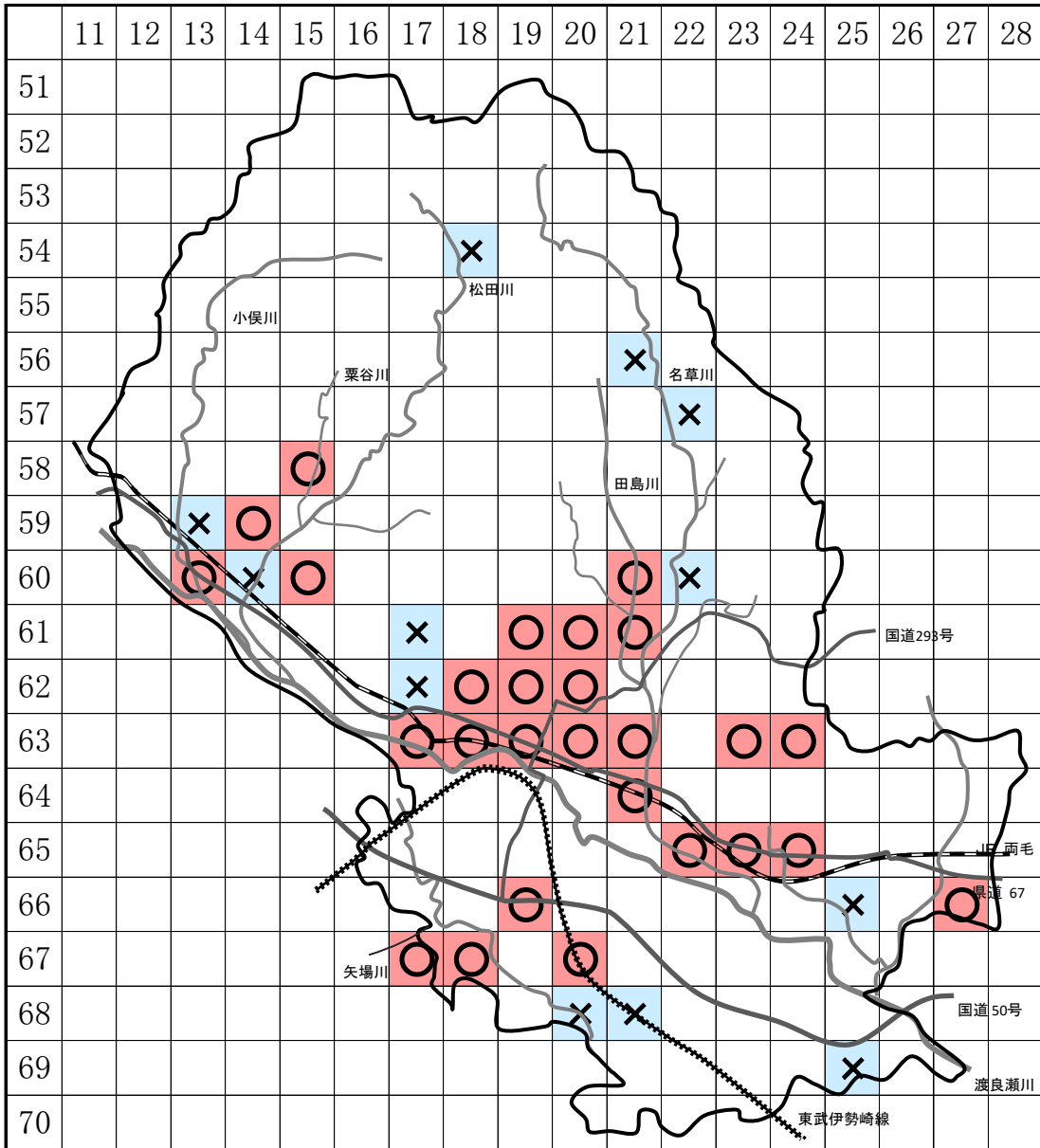
調査結果

過去4年間、出現率に大きな変化は見られませんでしたので、生育環境は比較的安定していると思います。

河南地域で確認できなかったメッシュが少し多いので気になります。

シロバナタンポポ	確認数： 27 メッシュ
	報告数： 39 メッシュ
	2022年度 26/37 2021年度 31/48

※過年度 確認数/報告数



花が白色（中心付近がやや黄色味を帯びる）なのはこの一種だけである。
 昔から日本にあった種（在来種）であるが、よく自立つので黄ばなし種と区別して調べてみよう。ただし、総苞片がそりかえるので開花時以外では外来タンポポとの区別に注意したい。

観察適期
 (花) 4月～5月

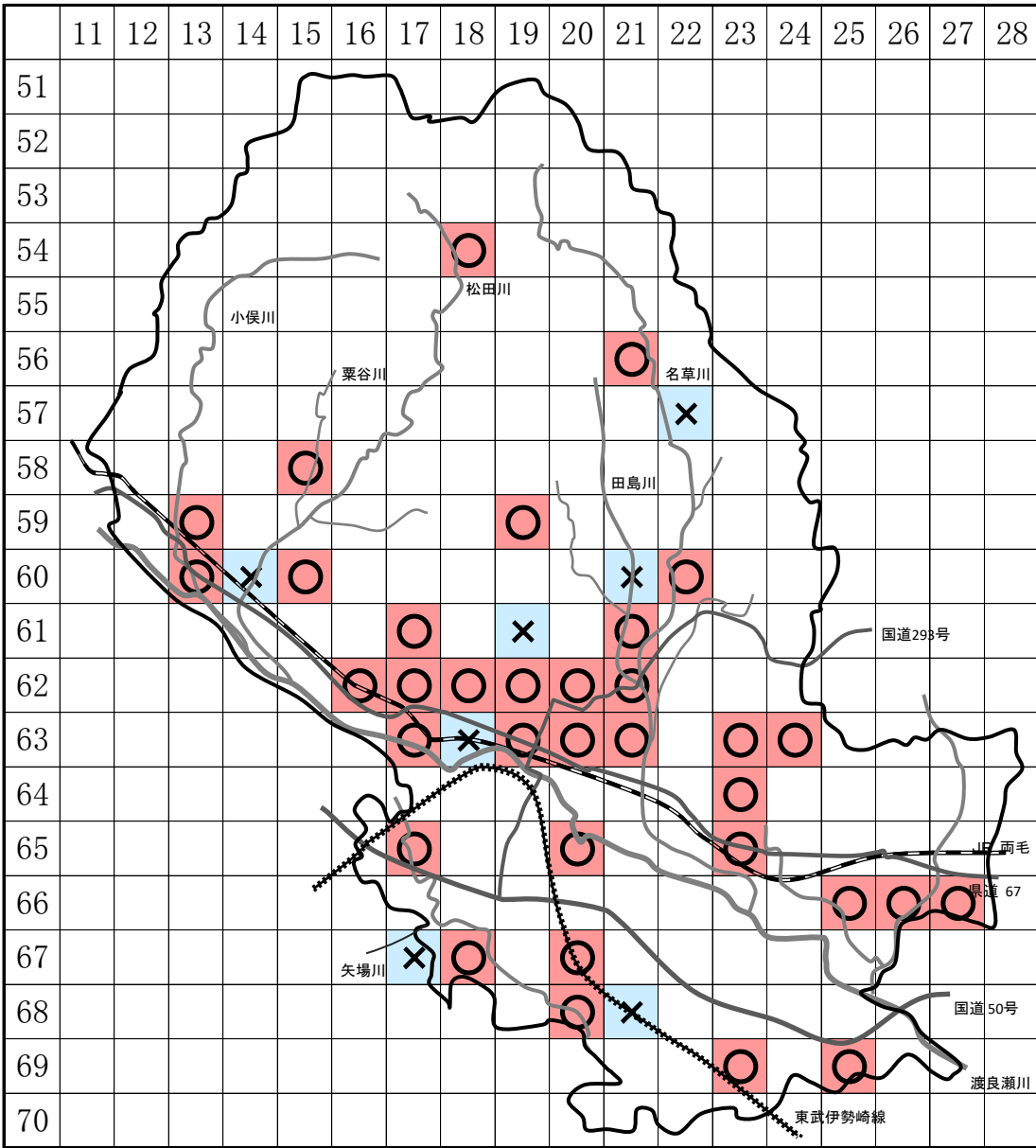
- ・生き物が見つかったメッシュ ○ 印で表示
- ・生き物が見つからなかったメッシュ × 印で表示

調査結果

ここ数年、出現率は60%～70%で推移していますが、それなりに生育環境は安定していると思います。
 前年度は河南地域は確認数0でしたが、今年度は4メッシュで確認できましたので嬉しく思っています。

ネジバナ (モジズリ)

確認数： 34 メッシュ
 報告数： 41 メッシュ
 2022年度 30/38 2021年度 37/47
 ※過年度 確認数/報告数



野の草地、河原の土手、芝生の中などに生える愛らしい多年草。茎は高さ10~30cmで、まっすぐ立ち、上の方に「らせん」状に淡紅色の5mmほどの花をつける。名前はこの花のつき方からついたものである。

かんさつてきき
観察適期
 (花) 6月~8月

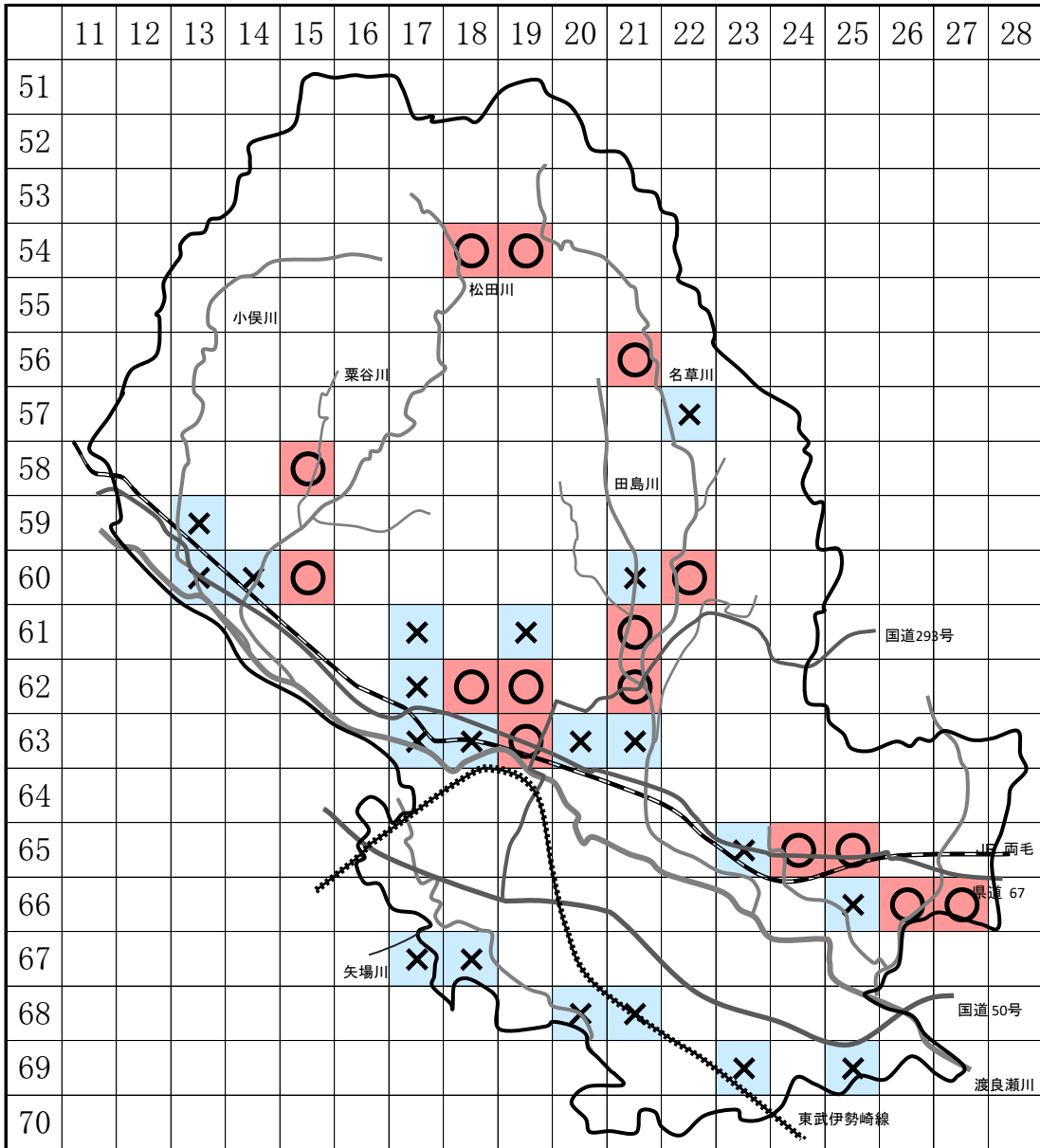
- 生き物が見つかったメッシュ ○ 印で表示
- 生き物が見つからなかったメッシュ × 印で表示

調査結果

ラン科植物の中では、比較的人の身近な芝生や丈の低い草地、土手の斜面に生育しています。出現率も70%~80%で安定している様です。

ヤマユリ	確認数： 15 メッシュ
	報告数： 35 メッシュ
	2022年度 22/34 2021年度 18/36

※過年度 確認数/報告数



やまの はやし の 林のふちなど
 の、主に傾斜した草む
 らに生える多年草。高
 さは1mぐらい。花は白
 く内側に赤い斑点があ
 り、直径20～25cmで、
 日本の中で最
 大。強い香りがあり7
 ～8月に咲く。地下に
 鱗茎があり食用にす
 る。

かんさつてきき
観察適期
 (花) 7月～9月

- 生き物が見つかったメッシュ ○ 印で表示
- 生き物が見つからなかったメッシュ × 印で表示

調査結果

2020年～2023年の4年間で今年度は最も少ない確認数になりました。
 確認数の少なさが今後も続くのか、または今年度だけの事なのかを注目したいと思います。

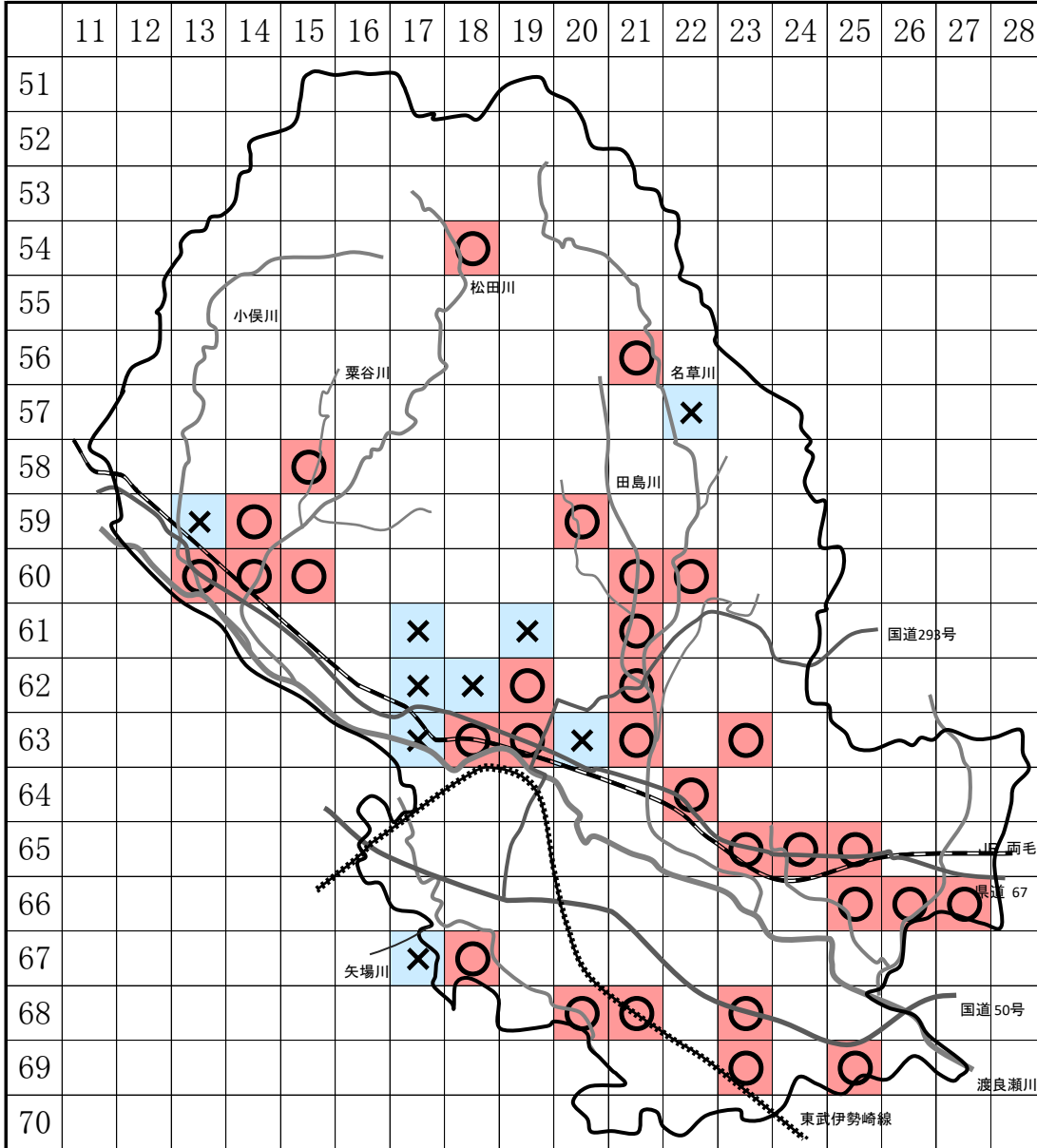
ヨシ (アシ)

確認数： 30 メッシュ

報告数： 39 メッシュ

2022年度 33/38 2021年度 38/43

※過年度 確認数/報告数



いけぬま、かわぎし、しっち
池や沼、川岸、湿地
に生える大型の多年
草。

ふと、ちかけい
太い地下茎をのぼし
群生する。1.5~3mの
丈夫な茎は「よしず」
を作るのに用いられ
る。8~10月に大型の
ススキのような穂をつ
ける。

かんさつてきき
観察適期
年間

・生き物が見つかったメッシュ ○ 印で表示

・生き物が見つからなかったメッシュ × 印で表示

調査結果

ぜんねんど
前年度よりも確認数は少し減少しましたが、まだ出現率は安定していると思います。
ちしょう、かわぎし
池沼や川岸などに群生します。ススキやオギ等と間違わないように調査してください。

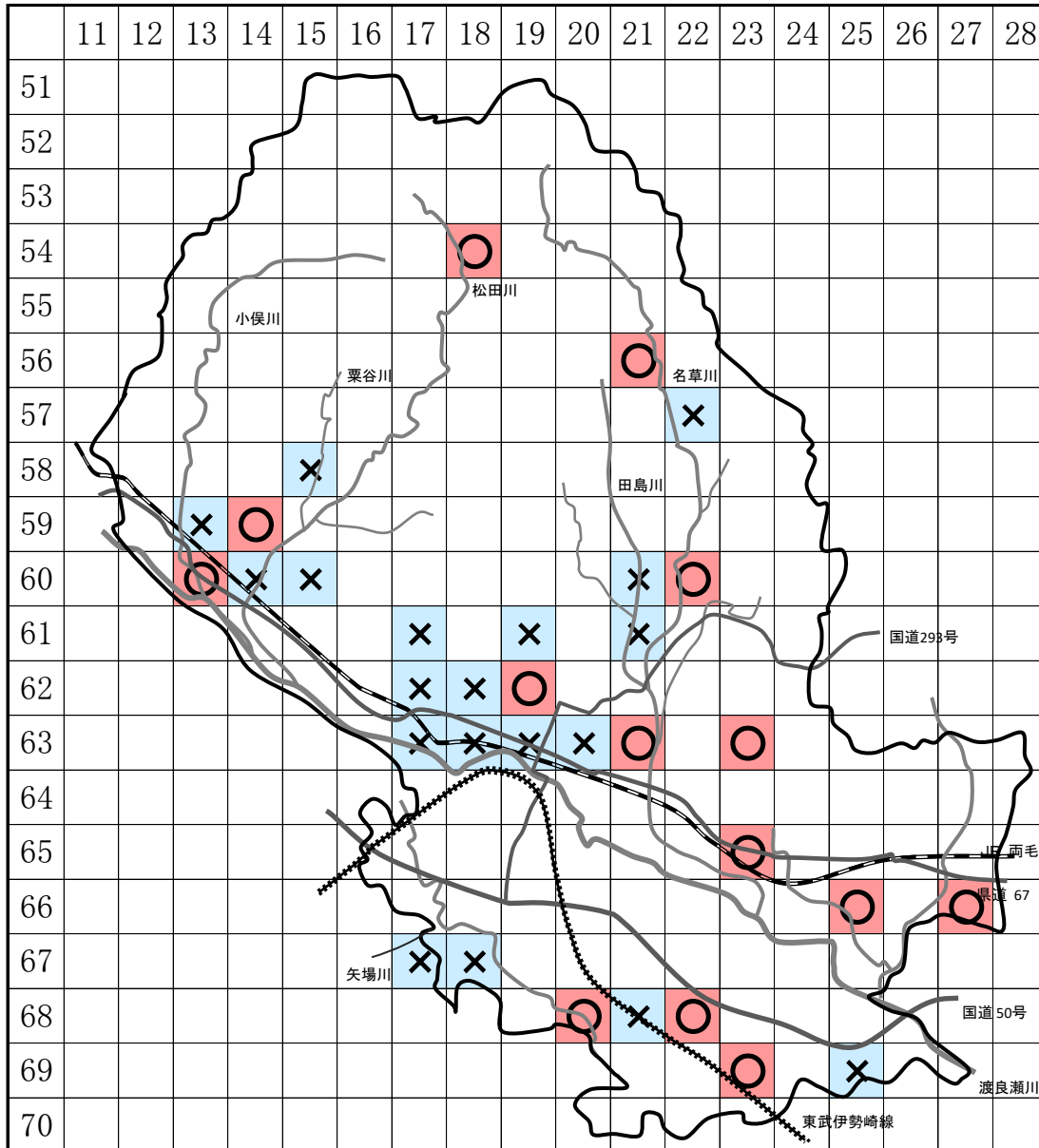
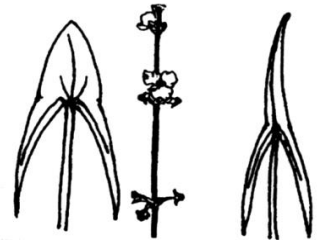
オモダカとアギナシ

確認数： 14 メッシュ

報告数： 33 メッシュ

2022年度 18/35 2021年度 19/35

※過年度 確認数/報告数



すいでん ようすいろ めまの水田や用水路、沼のへりなどに生える。花は夏～秋に咲き、白い花弁が3枚でよく自立つ。葉は矢じり型、アギナシの方が細いが遠くから見ただけでは区別しにくい。どちらも同じような環境に生える水生植物の代表的なものとしてまとめて調査する。

かんさつてきき
観察適期
(花) 7月～9月

・生き物が見つかったメッシュ ○ 印で表示

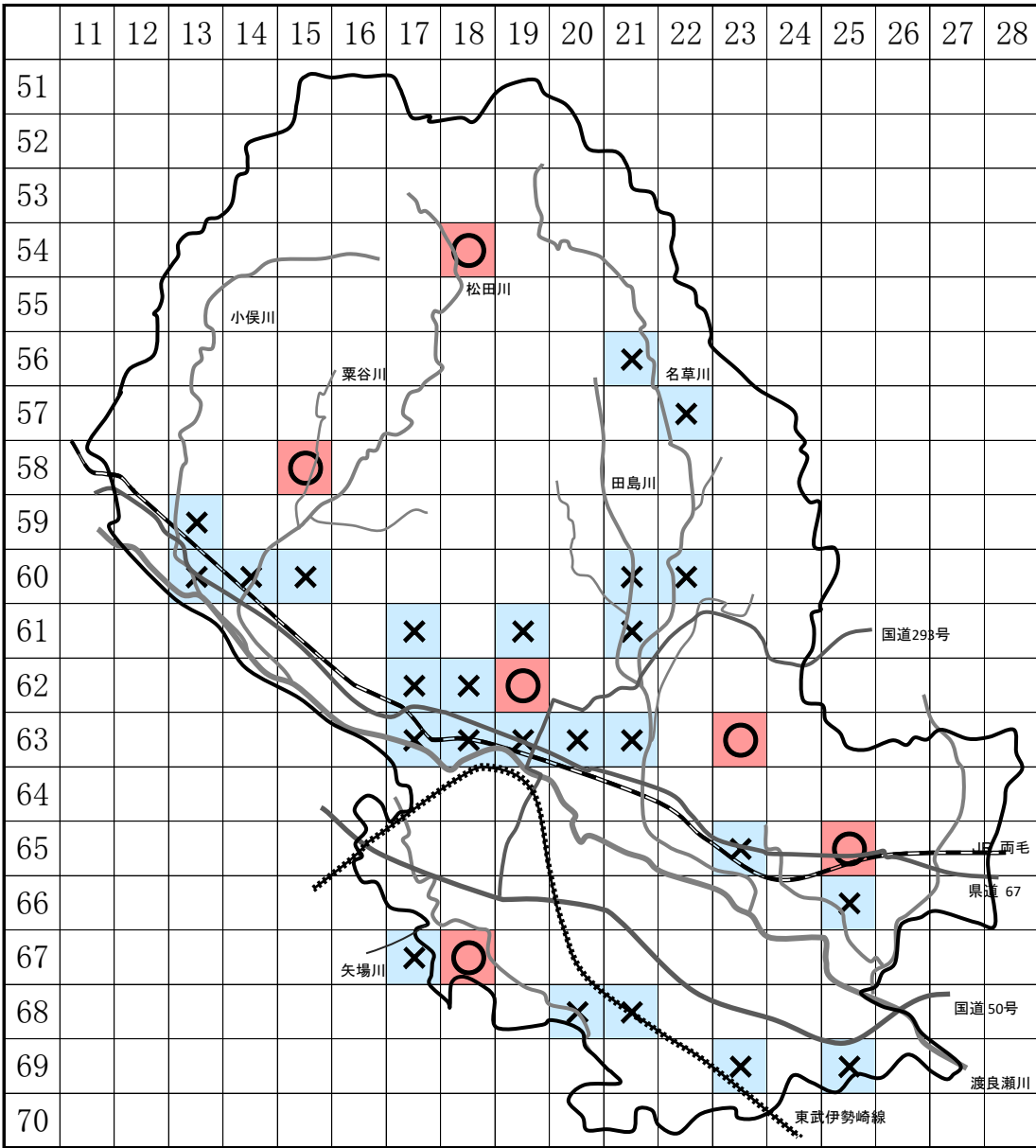
・生き物が見つからなかったメッシュ × 印で表示

調査結果

過去3年間と比較すると、今年度は出現率が初めて40%台になりました。理由はいろいろと考えられると思いますが、もう少し推移を見守りたいと思います。田や流れの緩い水路等に特徴的な葉と、夏に白い花を咲かせます。

ガ マ ズ ミ	確認数： 6 メッシュ
	報告数： 31 メッシュ
	2022年度 16/33 2021年度 18/39

※過年度 確認数/報告数



やまの 野の 林の なかに
 は 生える 高さ2~3mの 落
 よういぼく 葉低木。5~6月ごろ、
 えださき 枝先に 白い花が 集まっ
 て 咲く。10月には、
 5mmほどの 卵形の実が
 あか 赤く、後に 黒っぽく 熟
 し、甘酸っぱくて 食べ
 られる。

かんさつてきき
観察適期
 (花) 5月 (実) 10月

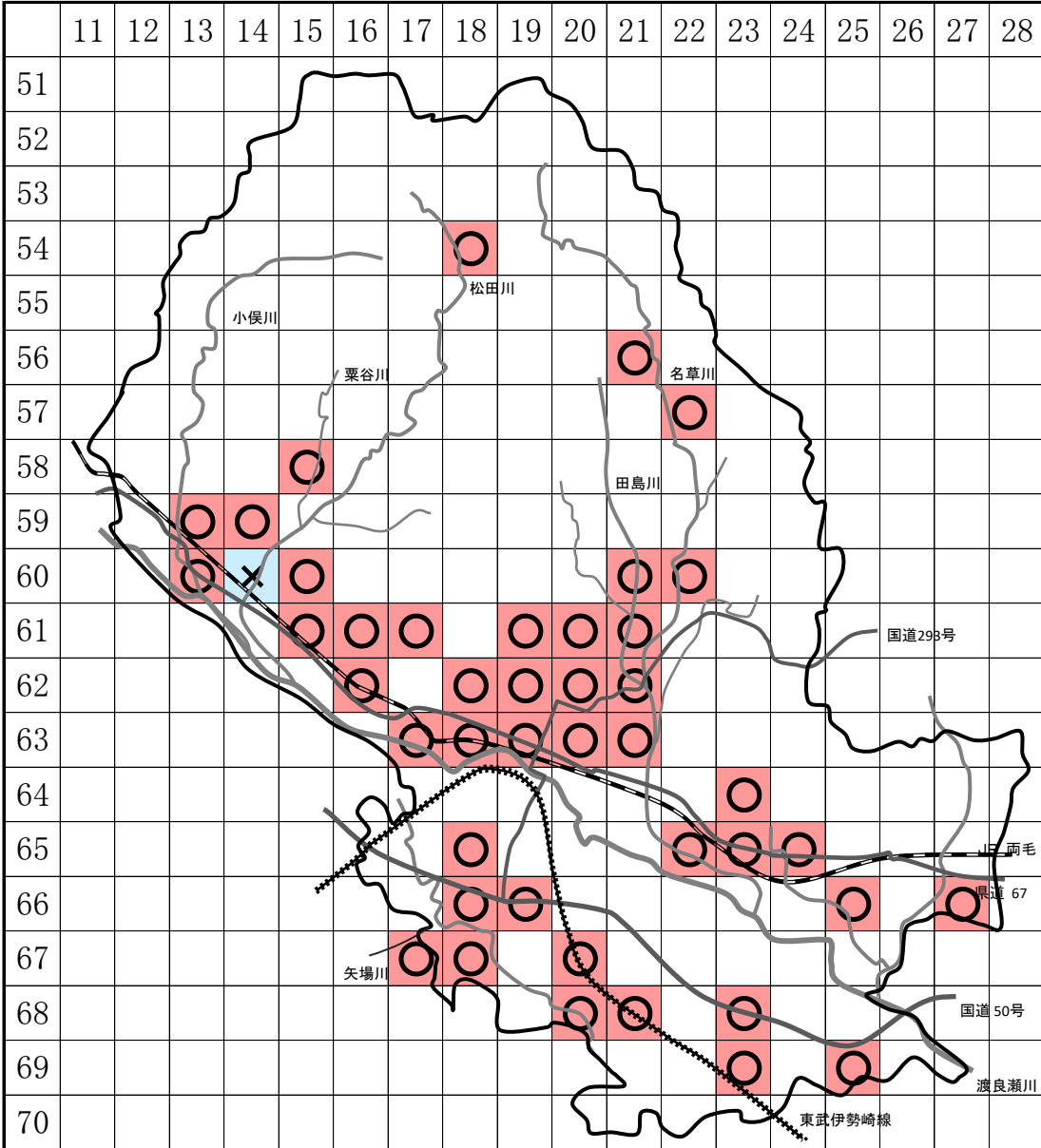
- ・生き物が見つかったメッシュ ○ 印で表示
- ・生き物が見つからなかったメッシュ × 印で表示

調査結果

ぜんねんどかくにん
 前年度確認できたいくつかのメッシュで今年度は確認できませんでした。
 おお やま きゅうりょうち せいいく
 多くは山や丘陵地に生育するので、山間部が調査の対象になるとおもいますが、5月頃の花期と10月
 ころ あか み みのが ちょうさ ねが
 頃の赤い実を見逃さないで調査をお願いします。

<h1 style="font-size: 2em;">アゲハ</h1> <p style="font-size: 1.2em;">ナミアゲハ</p>	確認数： 43 メッシュ
	報告数： 44 メッシュ
	2022年度 45/45 2021年度 53/53

※過年度 確認数/報告数



ナミアゲハともいわれているアゲハで、春型と夏型がある。春型は小さく夏型は大きい。幼虫はサンショウ・カラタチ・ミカンなどの木で成長する。このチョウによく似ているものにキアゲハがいるが、これは濃い黄色をしている。どちらもごくふうに見られるチョウである。

かんさつてきき
観察適期
 がつ がつ
3月～10月

- ・生き物が見つかったメッシュ ○ 印で表示
- ・生き物が見つからなかったメッシュ × 印で表示

調査結果

これまで同様市内各地で確認されました。山間部では植生遷移の初期段階（先駆植物）に出現する主要な食草のひとつであるカラスザンショウと好んで蜜を吸いに訪れるクサギが市内山間部を中心に多く見られることもあり、毎年安定した個体数を維持しているようです。

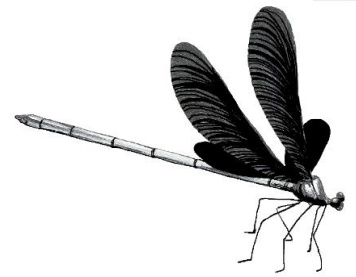
ハグロトンボ

確認数： 47 メッシュ

報告数： 53 メッシュ

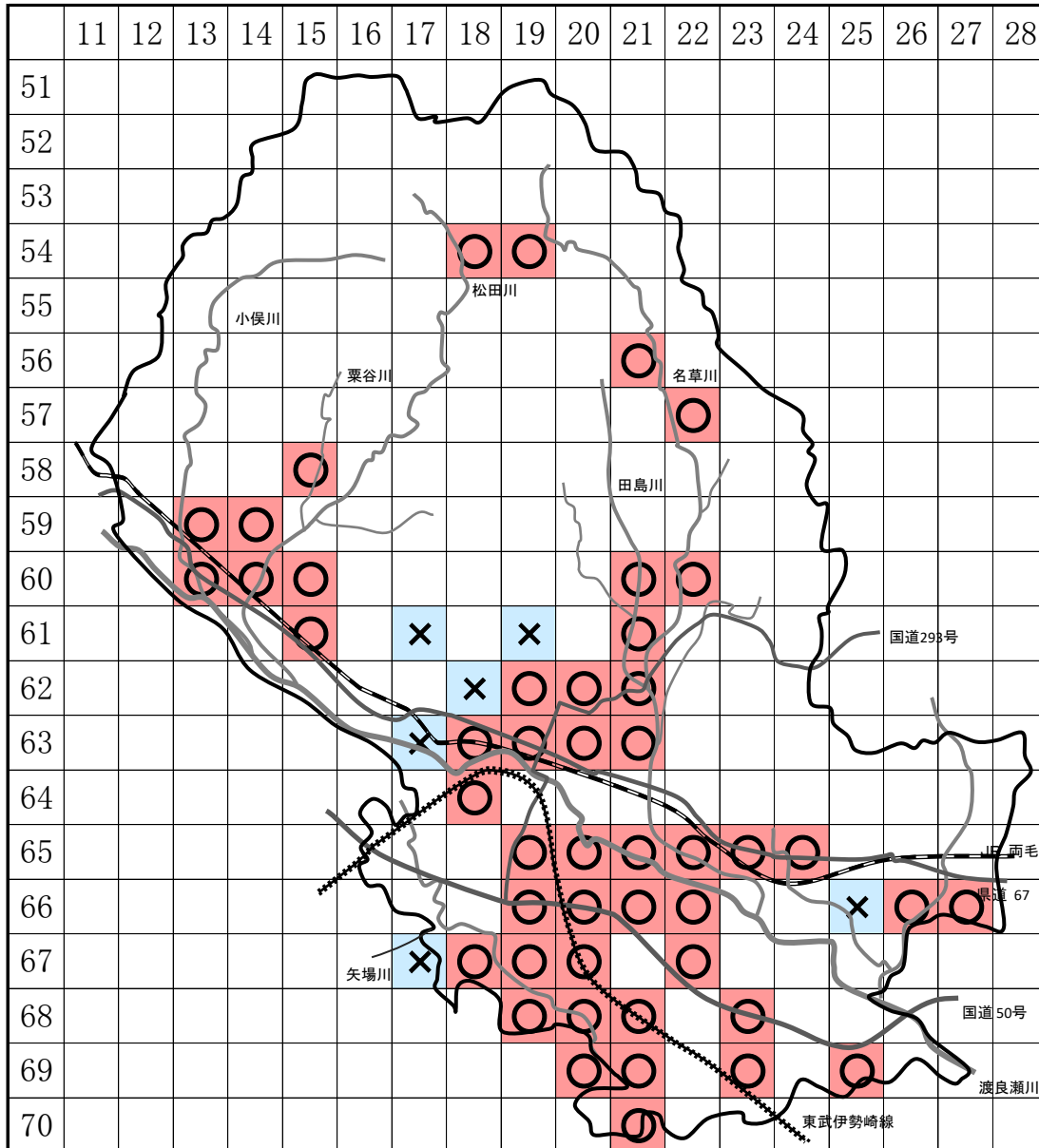
2022年度 49/50 2021年度 43/47

※過年度 確認数/報告数



大きさは約5.4～6.8cm。細長く黒っぽい翅を持ったヒラヒラと飛ぶトンボ。多くは河川に近い場所に生息しており、川の近くにある草原や林などでもみることができる。

観察適期
5月～10月



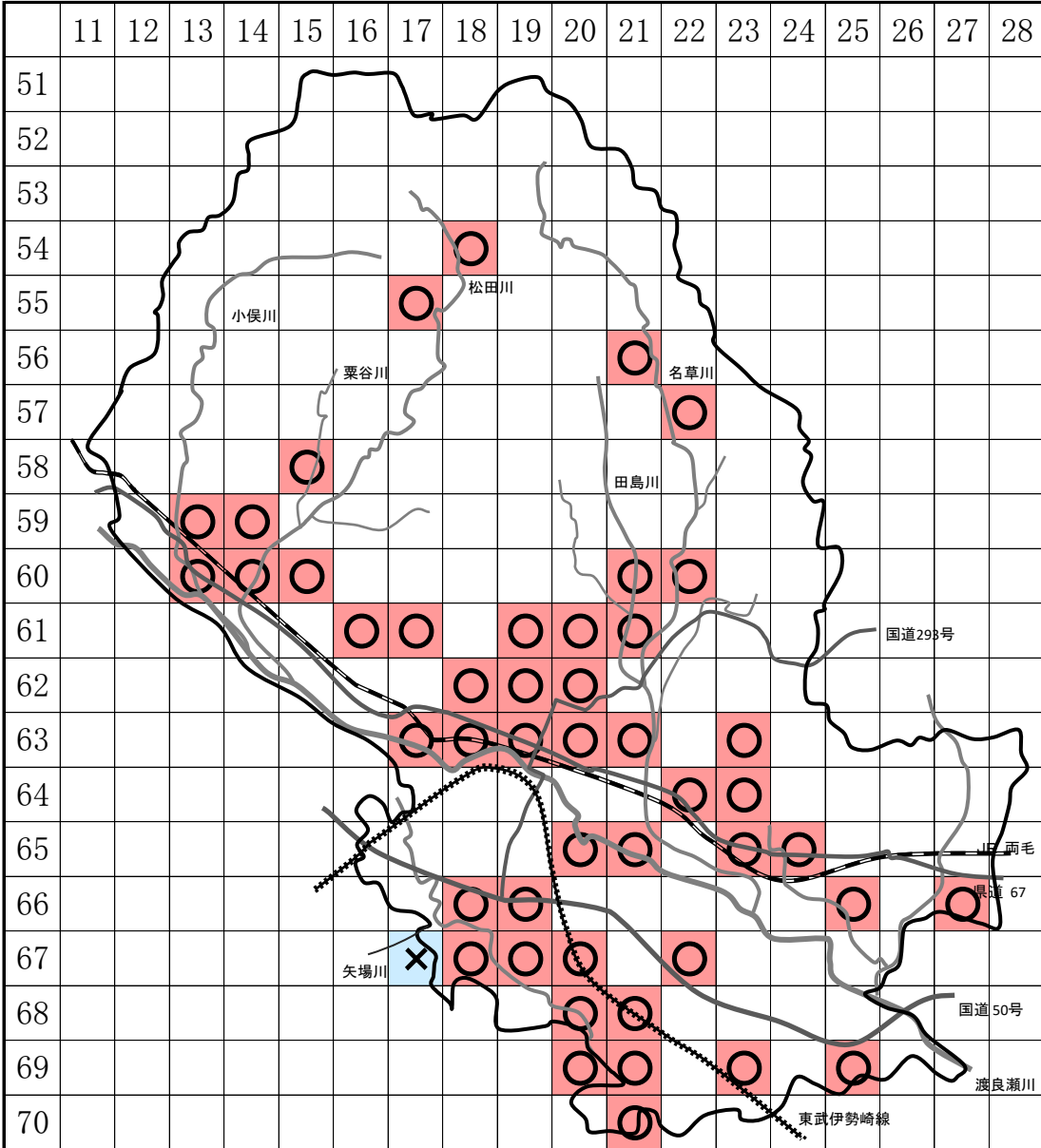
- ・生き物が見つかったメッシュ ○ 印で表示
- ・生き物が見つからなかったメッシュ × 印で表示

調査結果

これまで同様足利市では広い範囲に生息していることがわかりました。特に河南地区にも引き続きいることがわかりました。しかもうれしいことにたくさんの報告がありました。主に河川の下流域に住み、やや汚染された水域にもいるようです。2023年現在、青森県・東京都・神奈川県では絶滅危惧種となっています。黒いとんぼで動作が緩慢で見つけ易く、水質の変化にも敏感に反応することから環境指標として適した昆虫であると言えます。

<h1>アキアカネ</h1>	確認数： 47 メッシュ
	報告数： 48 メッシュ
	2022年度 46/47 2021年度 43/43

※過年度 確認数/報告数



初夏に羽化した成虫は山へと移動し、秋に平地に降りてくる。移動をするトンボとしてよく知られる。何百匹のトンボが飛び交い、電線に止まっているアキアカネの行列を見たのははや過去のことになってしまった。数は1000分の1に減少したと言われている。

観察適期
7月～10月

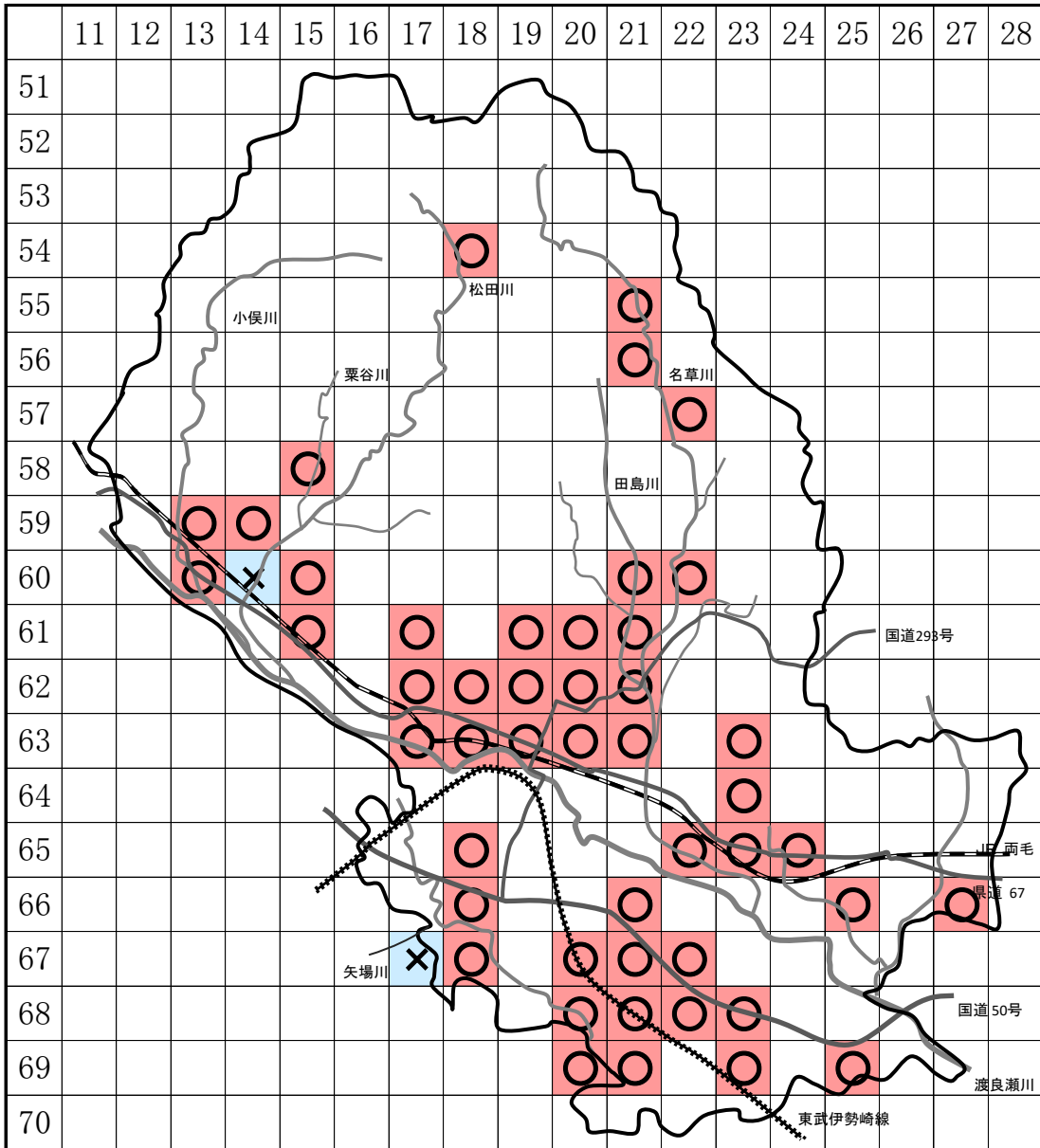
- ・生き物が見つかったメッシュ ○ 印で表示
- ・生き物が見つからなかったメッシュ × 印で表示

調査結果

昨年同様市内各地で確認されましたが、様々な理由により確実に減少していることは間違いありません。中でも減少に追い打ちをかけたのが1990年代後半からイネ苗といっしょに水田に持ち込まれた農薬の箱処理剤とみられています。それでも足利市に生息する数種のアカトンボのなかで最も多く見られるのがアキアカネです。2023年現在、鹿児島県・宮崎県・長崎県・山口県・香川県・岡山県・兵庫県・大阪府・三重県・富山県の10府県で絶滅危惧種となっています。

<h1>アブラゼミ</h1>	確認数： 48 メッシュ
	報告数： 50 メッシュ
	2022年度 47/47 2021年度 49/50

※過年度 確認数/報告数



セミの中^{なか}では、最^ももふつうの種^{しゅるい}類^{るい}である。からだいろくろく、はねちやいろであり、はらしろいこな粉^{こな}のようなものがついてる。

7月^{がつ}から8月^{がつ}にかけておおはっせい多く発生し、ギーギーと大きな音^{おと}を出す。ヌケガラという^{おと}と、このセミのものをみかけることが多い。

かんさつてきき
観察適期
7月^{がつ}～8月^{がつ}

- ・生き物が見つかったメッシュ ○ 印で表示
- ・生き物が見つからなかったメッシュ × 印で表示

調査結果

これまで同様市内各地で確認されました。足利市では最^もも数^{かず}が多いセミで、発生場所も広^{おほ}い範囲^{はんい}にわたっています。特にちょっとした樹林地^{じゆりんち}でも見^みられ、都会^{とがい}でも最^もも多^{おほ}いセミです。

足利市の分布状況は山間部^{さんかんぶ}では少^{すく}ないようで、このことは他のセミには好適^{こうてき}でもアブラゼミにとっては好適^{こうてき}な環境^{かんきやう}ではないことを意味^{いみ}しているようです。

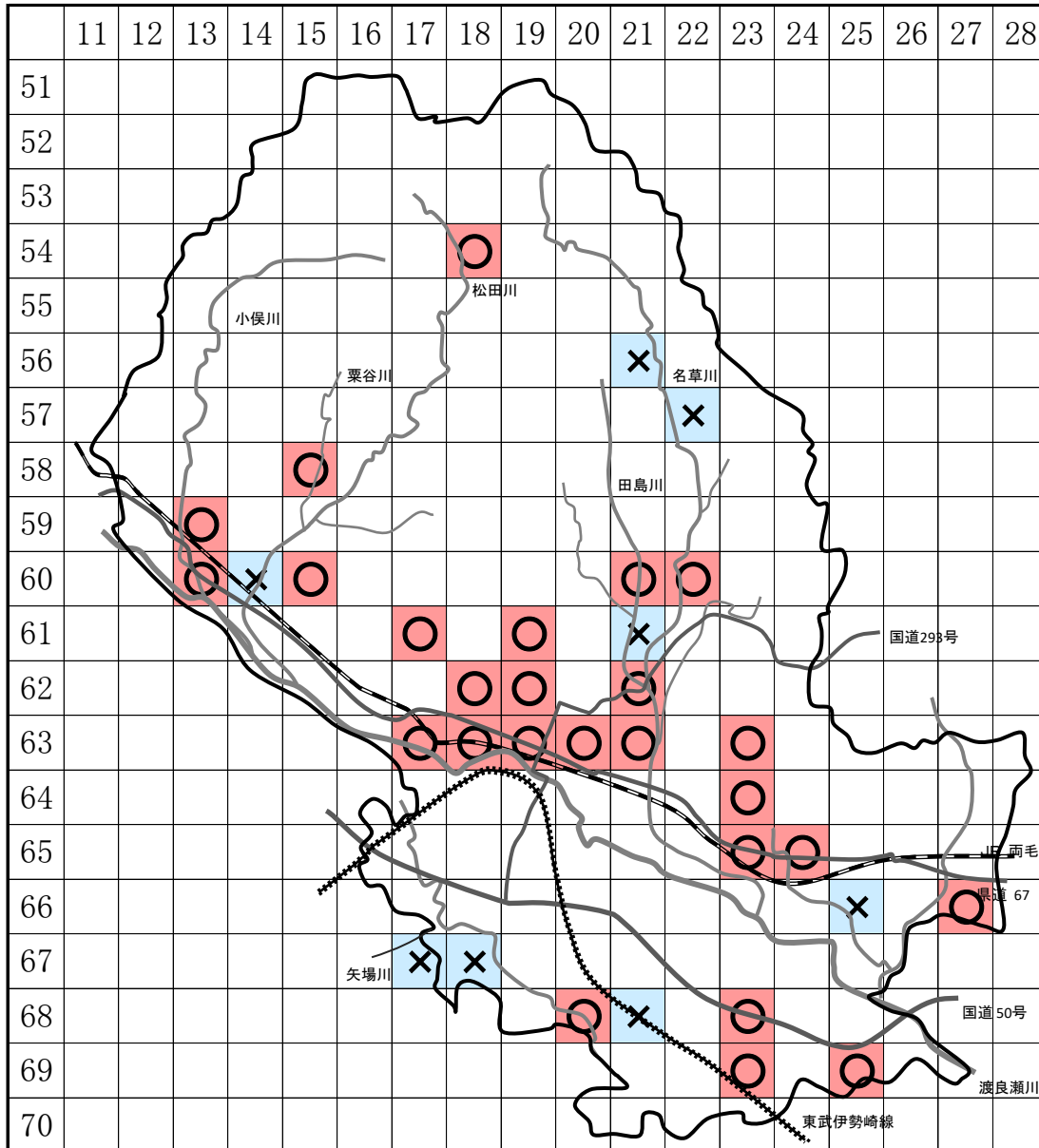
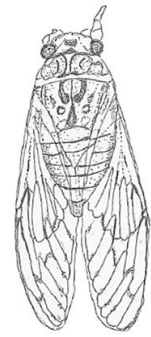
ヒ グ ラ シ

確 認 数 : 26 メッシュ

報 告 数 : 34 メッシュ

2022年度 31/37 2021年度 32/40

※過年度 確認数/報告数



かっしやくじ くろいろ みどりいろ
 褐色地に黒色と緑色
 はんもん
 の斑紋があるセミ。山
 ち うすぐら はやし おお
 地の薄暗い林に多い
 が、じゆうたくち こうえん
 が、住宅地の公園にも
 いる。

おもに ゆうがた そうちよう
 おもに夕方と早朝に

「カナカナカナカ
 ナ・・・」と哀調のあ
 こえ な やかん
 る声で鳴く。夜間には
 ともしび と
 灯火にも飛んでくる。

かんさつてきき
観察適期
 がつ がつ
 6月～9月

・生き物が見つかったメッシュ ○ 印で表示

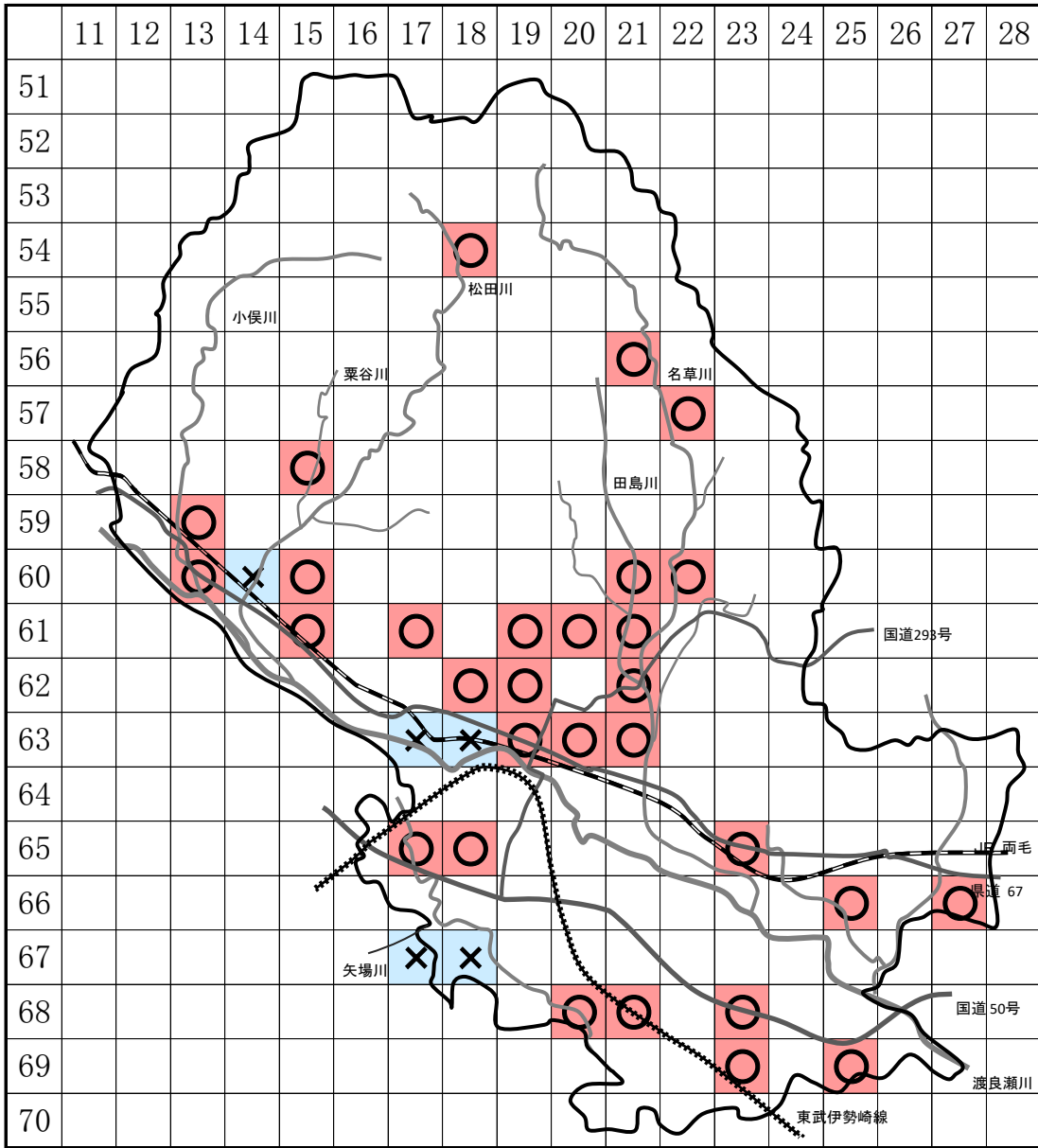
・生き物が見つからなかったメッシュ × 印で表示

調 査 結 果

さくねん より やや すく 少ないながら あしががし ひろ 幅広い範囲に せいそく 生息していることが わ 分かりました。都会ではヒグ
 ラシの この 好む環境がなくなり、な ぎこえ をきけなくなった場所もあるようです。さくねん 同様よろこ
 ばしいこと
 に かなんちいき 河南地域でも けつこうせいそく 結構棲息していることが わ 分かりました。ヒグラシの この 好むまとまった樹林が維持され
 ていることだと思 います。2023年現在、ほっかいどう 北海道と とうきやうと 東京都で ぜつめつ きくしゆ
 絶滅危惧種となっています。

<h1>オオカマキリ</h1>	確認数： 30 メッシュ
	報告数： 35 メッシュ
	2022年度 38/41 2021年度 39/41

※過年度 確認数/報告数



体長は8cmほどあり、カマキリの中で一番大きい。色は緑色で、カマのような前足で生きている虫をとらえて食べる。

【見分け方】

<p>オオカマキリ たまご (卵塊)</p> <p>丸みがある</p> <p>うしろ翅</p> <p>黒い部分が多い</p> <p>カマの付け根 きいろ 黄色</p>	<p>チョウセンカマキリ</p> <p>ほそなが細長い</p> <p>透明</p> <p>カマの付け根 しめいろ 朱色</p>
--	---

観察適期 8月～10月

- ・生き物が見つかったメッシュ ○ 印で表示
- ・生き物が見つからなかったメッシュ × 印で表示

調査結果

昨年よりは約10メッシュ少ない報告がありました。この原因が何なのかはわかりません。しかしこれまで同様市内各地に広く生息していることが確認されました。個体数が減っている傾向であることから数は減っているものと思われます。大きなカマキリは「オオカマキリ」と「チョウセンカマキリ」の2種いて、慣れないと区別は難しいのですが、区別点に分かれば意外と簡単に見分けられます。足利市で見られるのはオオカマキリが殆どです。チョウセンカマキリは開けた草地を好むようです。

エンマコオロギ

確認数： 42 メッシュ

報告数： 51 メッシュ

2022年度 41/43 2021年度 34/40

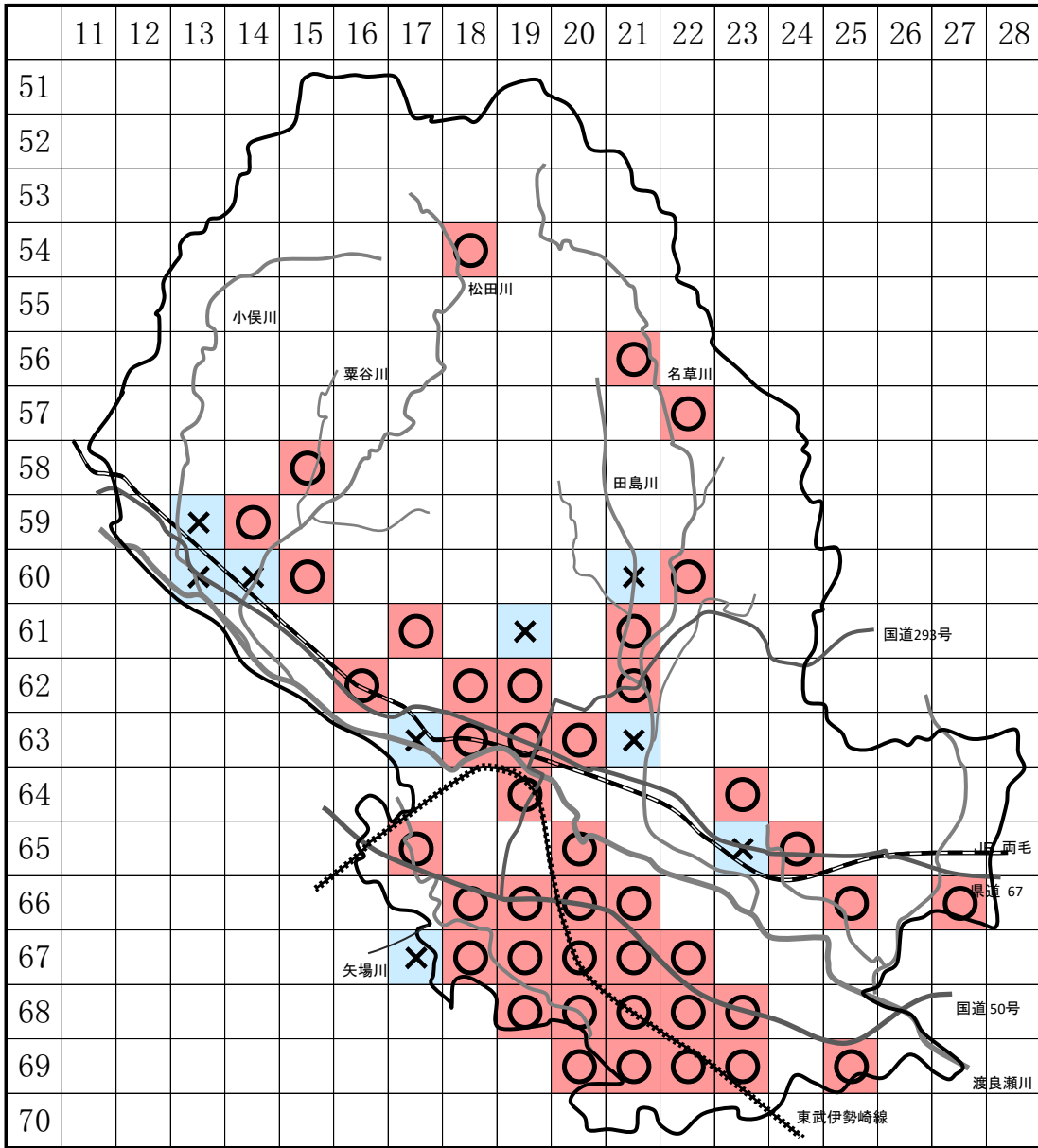
※過年度 確認数/報告数



からだは^{ちやかつしよく}茶褐色で2
～3cmの^{おお}大きさであ
る。4月ごろ^{がつ}出て^で数回^{すうかい}
だ^だっ^だび^だ
脱皮をくりかえして8
月ごろ^{がつ}成虫になる。
^{せいちゆう}

ほかにミツカドコオ
ロギ・オカメコオロギ
などがある。

かんさつてきき
観察適期
がつ がつ
8月～10月



・生き物が見つかったメッシュ ○ 印で表示
・生き物が見つからなかったメッシュ × 印で表示

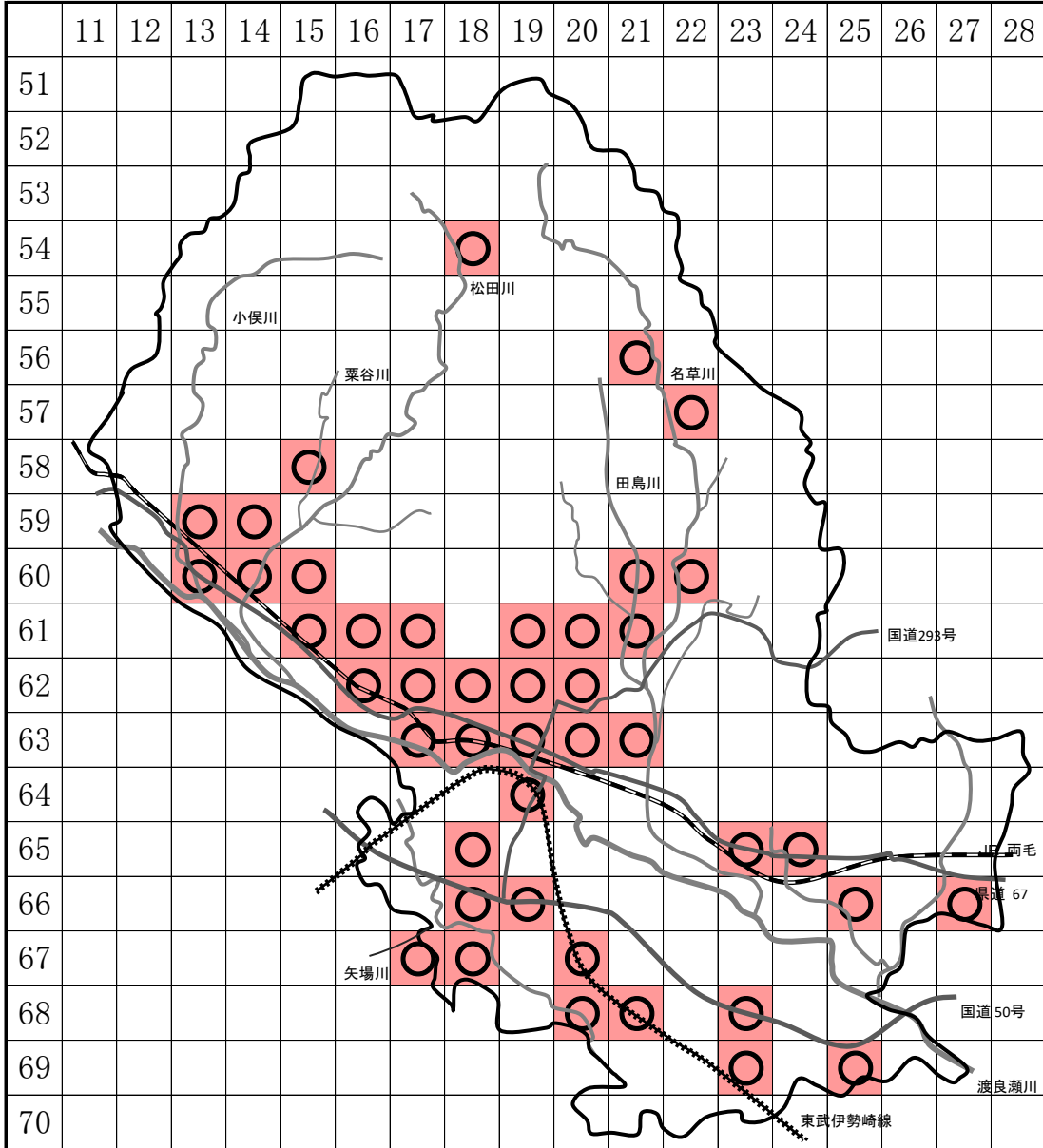
調査結果

これまで^{どうようしない}同様市内各地に^{かくち}広く^{ひろ}生息していることが^{せいそく}確認されました。原^{はら}っぱや^{はたけ}畑、^{みちばた}道端などに^{ひろ}広く
生息し、^{あしががし}足利市では^{もつと}最も^{ふつう}普通に見られる^みコオロギのひとつです。^{あんてい}安定した^{こたいすう}個体数を^{いじ}維持しているもの
の^{おも}と思われます。

ナナホシテントウ

確認数： 43 メッシュ
 報告数： 43 メッシュ
 2022年度 51/51 2021年度 47/47

※過年度 確認数/報告数



おおよそ大きさは1cmぐらいで、赤い色の中に7つの斑紋がある。幼虫・成虫は、アブラムシを食べる。ほかにナミテントウ・アカボシテントウなど多くの種類がある。つまんだりすると、からだから黄色い液体を出し、この液には臭みと苦味があり、鳥などの捕食者に対しては効果がある。赤い地に黒い点を持つ目立つ模様は、捕食者に対する警告色になっている。

観察適期
 3月～11月

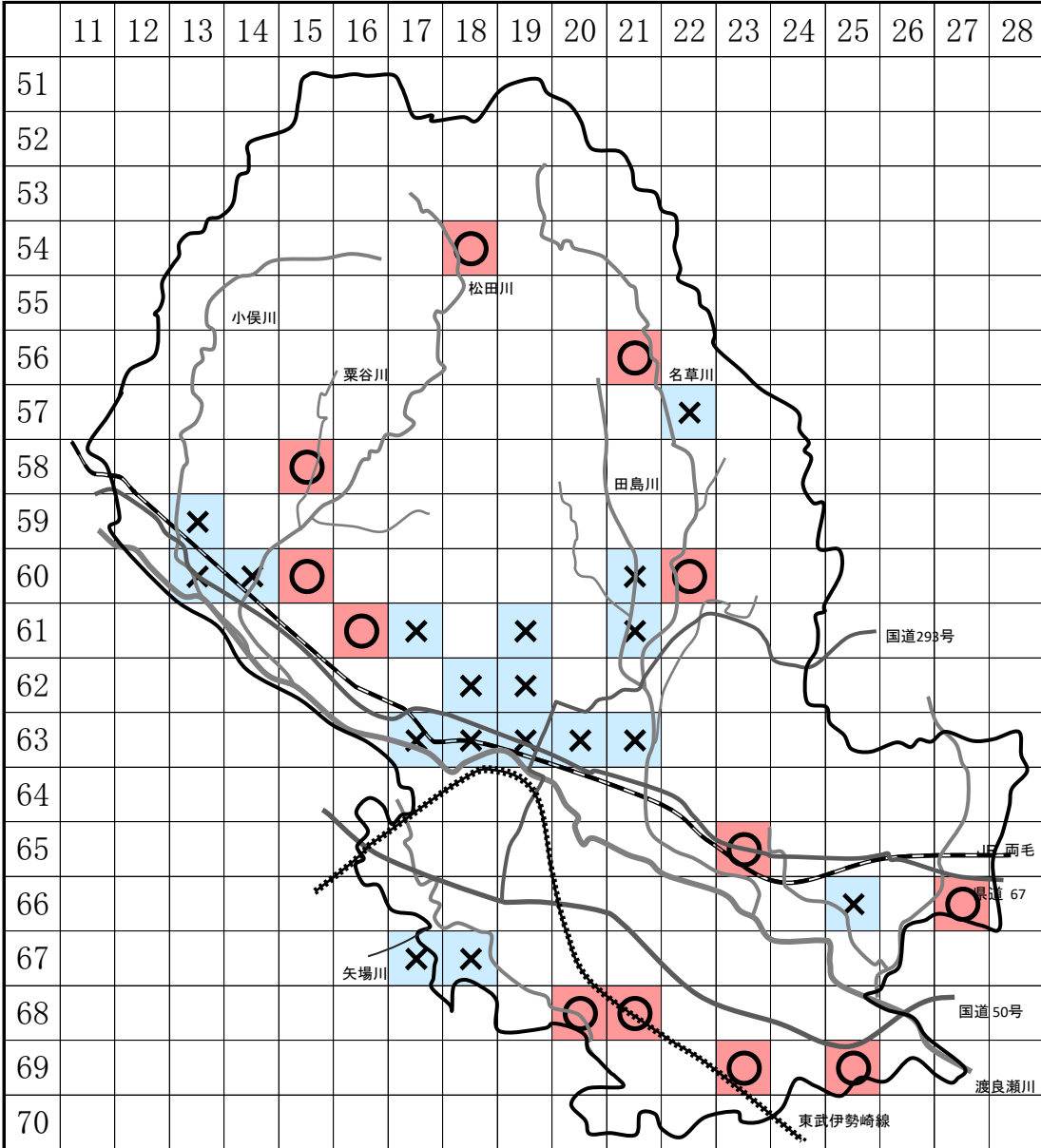
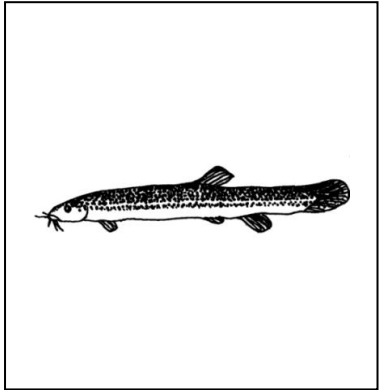
- 生き物が見つかったメッシュ ○ 印で表示
- 生き物が見つからなかったメッシュ × 印で表示

調査結果

昨年より少ないながら足利市の広い範囲に生息していることが分かりました。日当たりの良い草地、畑地の周辺、庭などいろいろなところでよく見られます。年に2回発生して成虫で冬を越し、夏には夏眠をします。初冬でも暖かい日はよく見ることが出来ます。毎年安定した個体数を維持しているものと思われま

ど じ よ う	確 認 数 : 12 メッシュ
	報 告 数 : 30 メッシュ
	2022年度 12/30 2021年度 19/32

※過年度 確認数/報告数



しょうどうぶつや藻類などを食べる雑食性で、5月から7月が産卵期。雄のほうが雌よりやや小さく胸ビレが比較的長いようである。

えらでの呼吸の他に腸での呼吸もできるため、直接水の表面から空気を吸い込むようすがみられる。さらに、皮膚でも呼吸できるため水がない渇水期には、泥の中で過ごす。

かんさつてきき
観察適期
がつ がつ
4月～10月

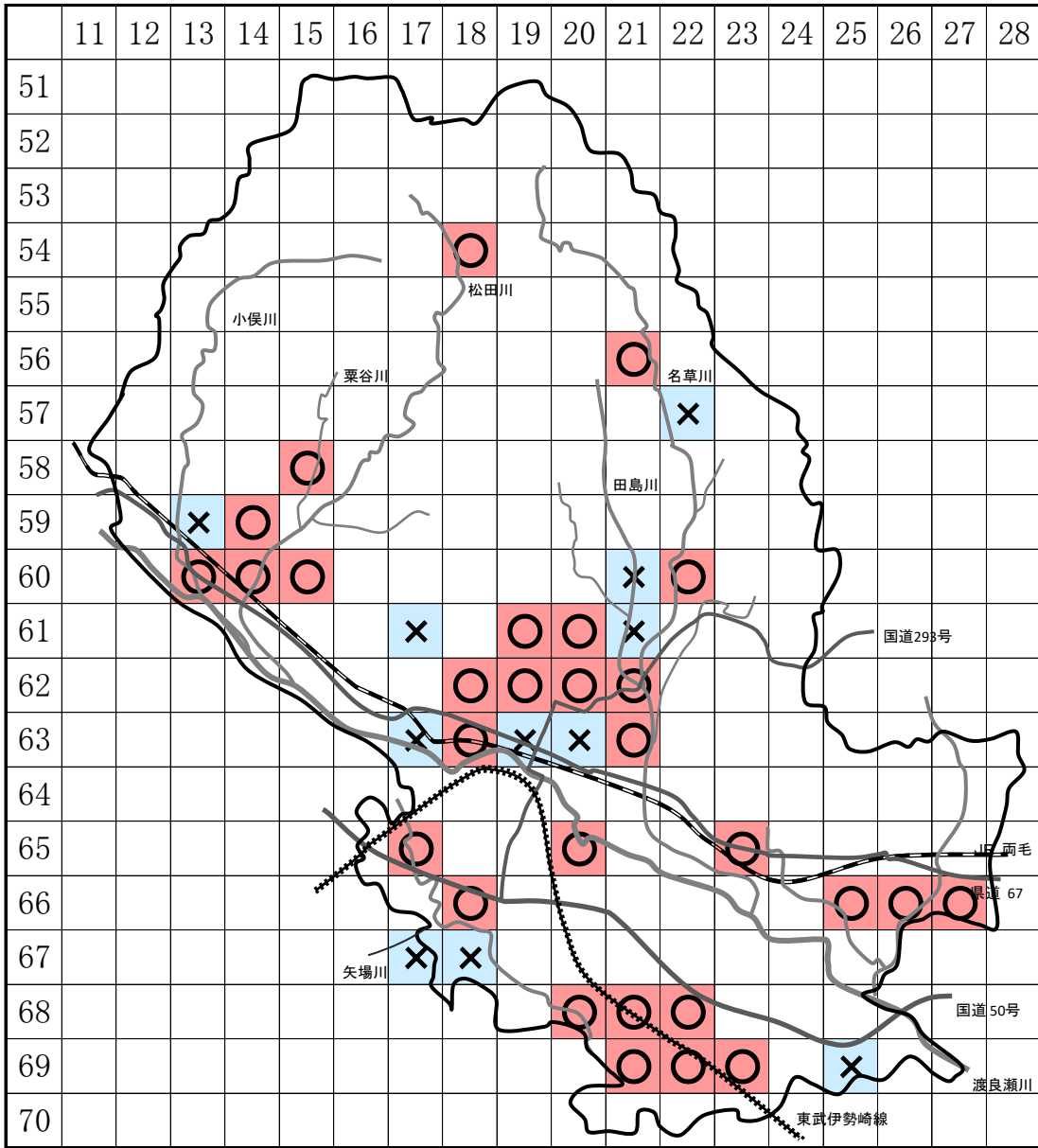
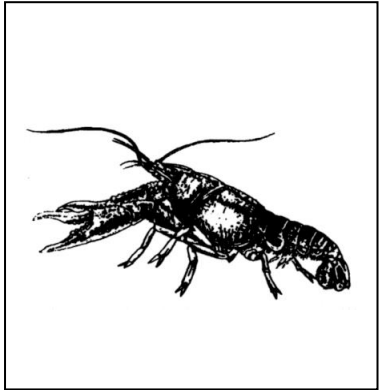
- ・生き物が見つかったメッシュ ○ 印で表示
- ・生き物が見つからなかったメッシュ × 印で表示

調 査 結 果

とくに、市の中心部から北部にかけて、生息域が減ってきている様子が見られることが心配です。一方で、国道50号線より南の地区を調査していただき、4メッシュで発見報告があったことはいずれも素晴らしいと思います。継続して複数年にわたって同じメッシュを調査していただいているレポーターの方がいらっしゃるのことがわかります。引き続き今後も調査をお願いします。

アメリカザリガニ	確認数： 29 メッシュ
	報告数： 40 メッシュ
	2022年度 30/38 2021年度 33/40

※過年度 確認数/報告数



しょうわのはじめ、食用として輸入され全国に広まった。いわゆる“帰化動物”の代表。(ただザリガニというと日本特産の種類で、アメリカザリガニよりやや小さい。北海道・東北北部の水のきれいな河川・湖沼にすむ。)

2023年6月1日から条約に基づき特定外来生物に指定。

かんさつてきき 観察適期
5月～10月

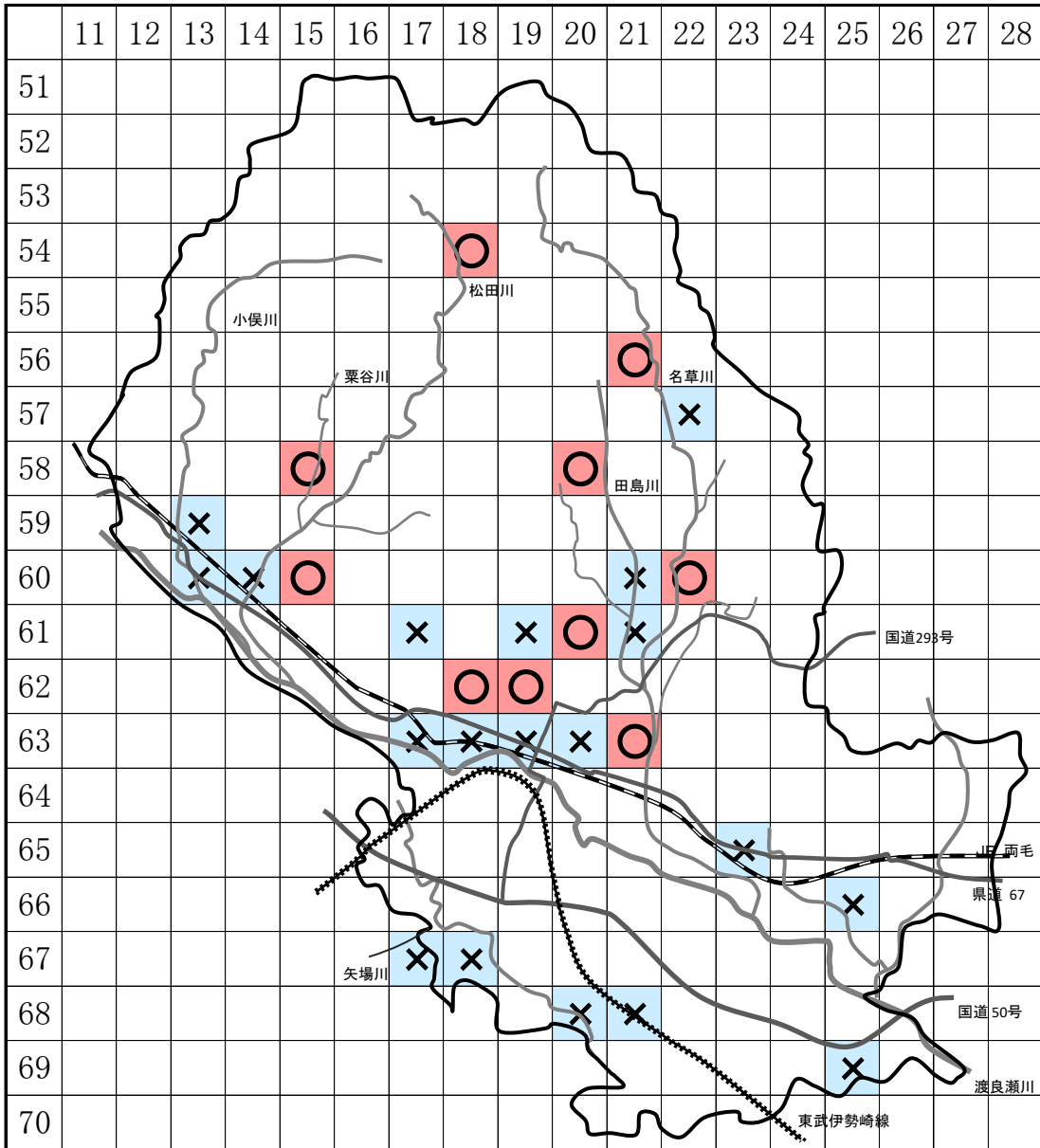
- ・生き物が見つかったメッシュ ○ 印で表示
- ・生き物が見つからなかったメッシュ × 印で表示

調査結果

今まで常に発見されていたメッシュで、発見できなかった場所が数カ所あり、心配です。河川の周囲で日陰を作る植物の減少なども見られ、気温上昇と合わせて夏の水温上昇を引き起こしている可能性が高く、他の生物によって食べられてしまうなど、様々な要因が重なって、個体数が減ってきていると思われます。

サ ワ ガ ニ	確 認 数 : 10 メッシュ
	報 告 数 : 29 メッシュ
	2022年度 9/31 2021年度 11/31

※過年度 確認数/報告数



にほん 日本ではただ一種の
淡水産のおなじみのカ
ニである。水のきれい
な小川や山地の溪流に
見られる。甲の色は茶
褐色、うす青色、うす
黄色などの変化があ
る。近年、水の汚れが
進み、次第に生息場所
がせばめられてきてい
る。

かんさつてきき
観察適期
5月～10月

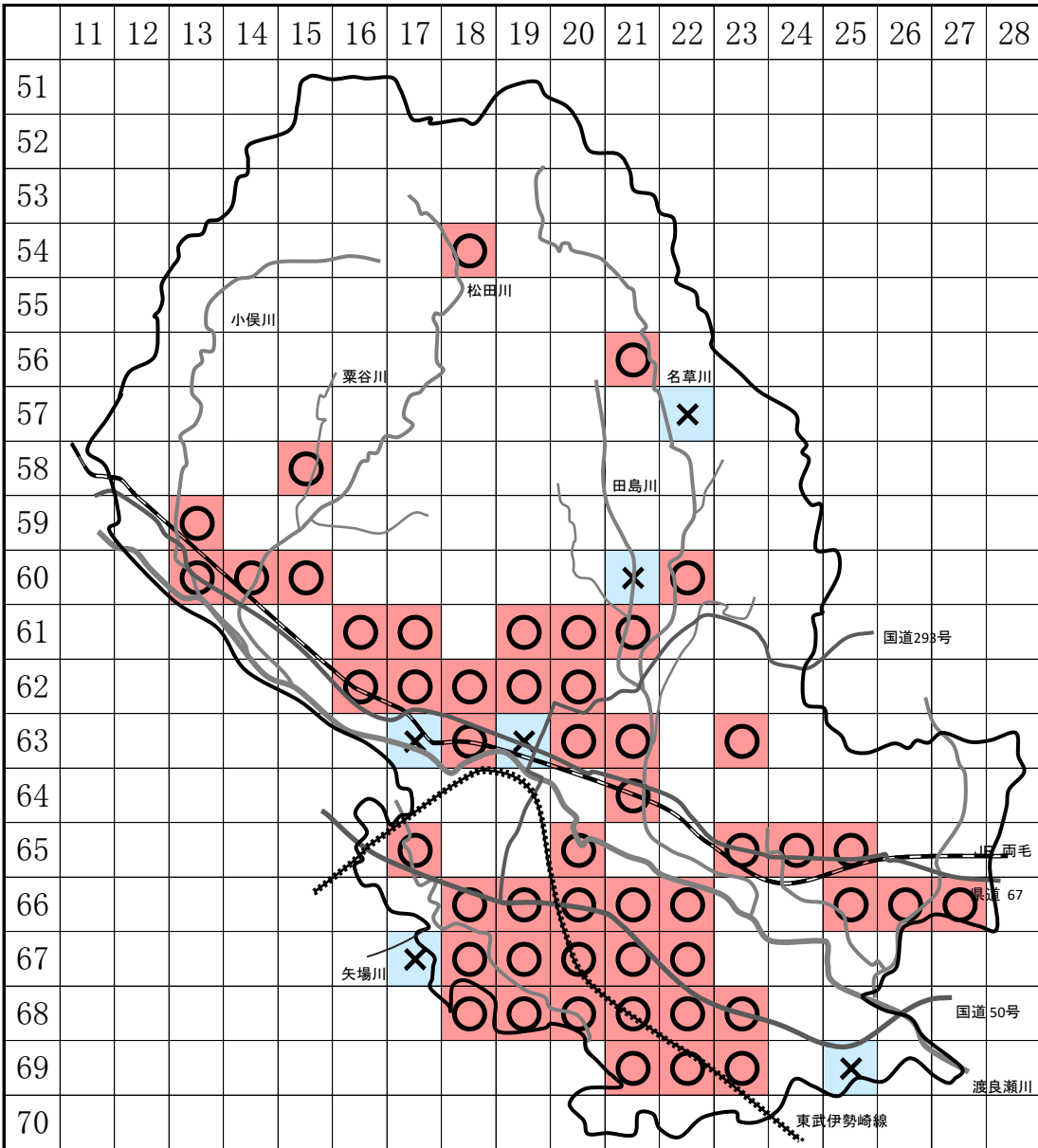
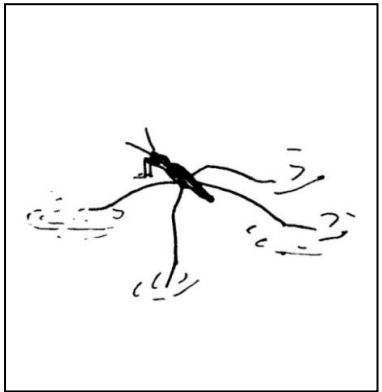
- ・生き物が見つかったメッシュ ○ 印で表示
- ・生き物が見つからなかったメッシュ × 印で表示

調 査 結 果

市の南部に調査範囲を広げていただいたレポーターの方に感謝します。しかし、やはり市の南部ではほとんど棲息しているメッシュは無くなっているようで、心配です。生息している場所が市内全域で限られてきていると言えそうです。

ア メ ン ボ	確 認 数 : 50 メッシュ
	報 告 数 : 56 メッシュ
	2022年度 41/44 2021年度 43/44

※過年度 確認数/報告数



ながあしすいめん
長い足で水面をスイ
かつそう
スイと滑走するおなじ
みこんちゆう
みの昆虫で、あめのよ
うなあま
甘いにおいをもっ
ている。いけぬまかわ
池や沼、川に
ふつうみ
普通に見られる昆虫で
こんちゆう
ある。

かんさつてきき
観察適期
がつがつ
5月～9月

- ・生き物が見つかったメッシュ ○ 印で表示
- ・生き物が見つからなかったメッシュ × 印で表示

調 査 結 果

つね はっけんりつ
常に発見率が100%に近い状況でしたが、ちか じょうきょう
発見率が下がってきているため、やはり気候の変化の
えいきよう
影響がアメンボにも出てきているかのうせい
可能性があるとおもわれます。ひこう
飛行する昆虫なので、せいそく
生息しやすいかんきよう
環境を求めてもと いどう
移動しているようです。こんご
今後さらにこの分布がぶんぷ
変化しないように見守っていきたく
おも
思います。

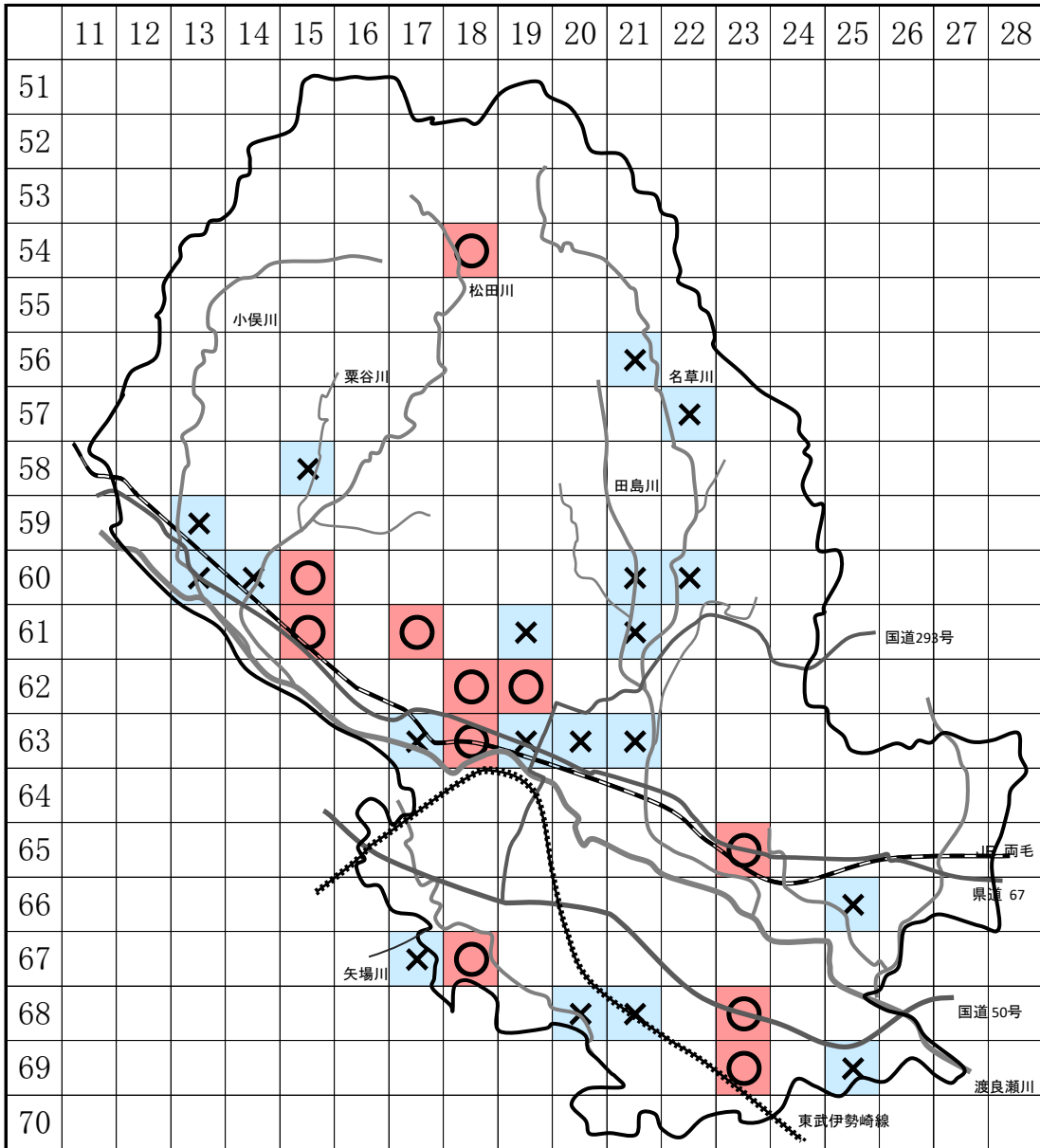
アズマヒキガエル

確認数： 11 メッシュ

報告数： 30 メッシュ

2022年度 12/32 2021年度 10/29

※過年度 確認数/報告数



ふつうガマガエルとよんでいる。平地や山地に見られ、人家の庭などにも現れるが、最近は少なくなっている。産卵期以外は水に入ることはほとんどない。河や池の周囲のくぼみや落ち葉の下などにかくれている。また夜行性のため、あまり人目につかない。

かんさつてきき
観察適期
がつ さんらんき
3月 産卵期
がつ
6月～8月

・生き物が見つかったメッシュ ○ 印で表示

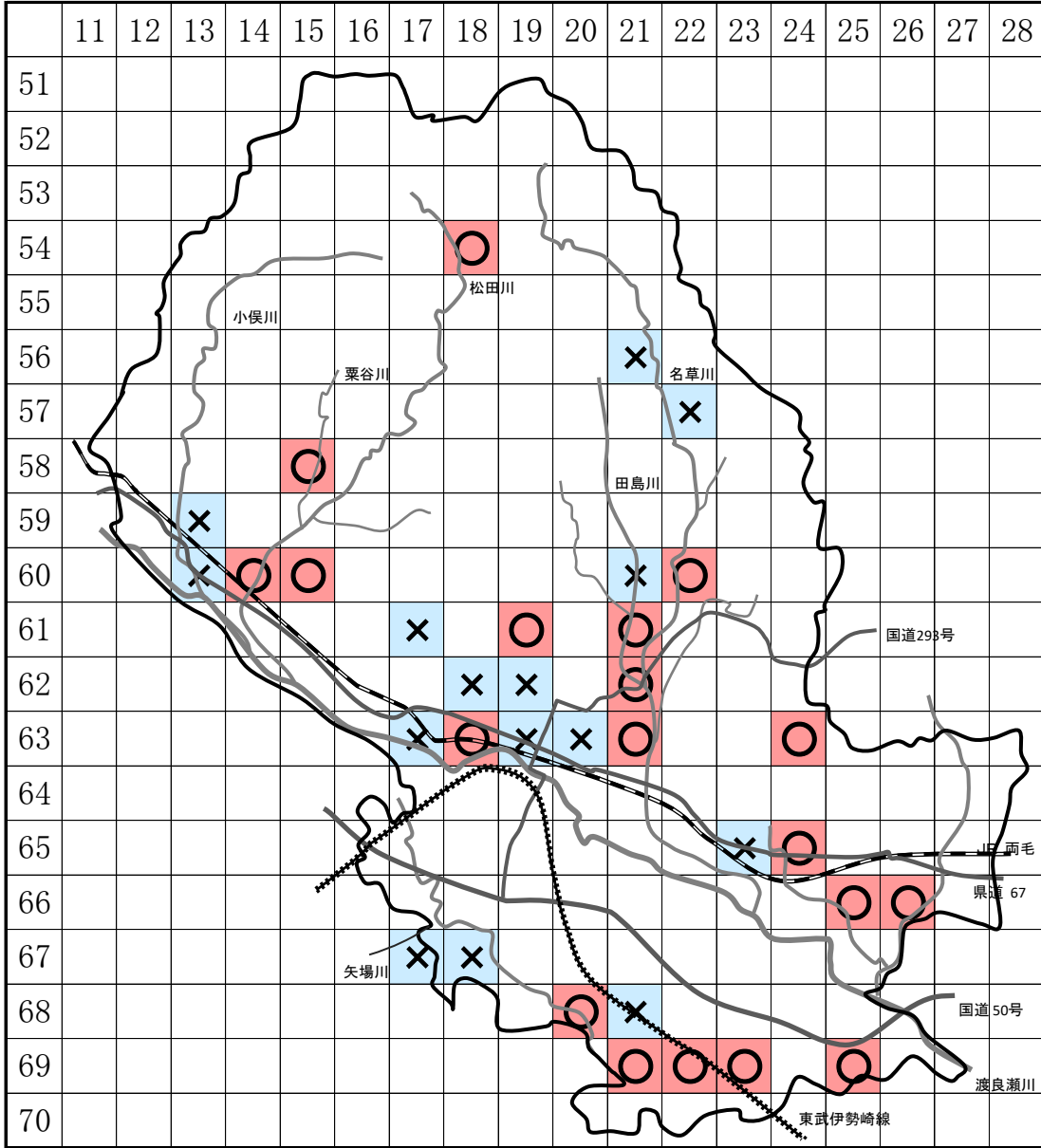
・生き物が見つからなかったメッシュ × 印で表示

調査結果

新しく生息発見報告がされたメッシュが増えているため、少し安心しました。毎年継続して発見報告がされているメッシュとあわせて、今後も観測を継続しつつ、新たな発見場所が増えることを期待しています。産卵から幼生（オタマジャクシ）が育つまでの水辺の環境の大きな変化には注意したいです。

ウシガエル <small>しょくよう</small> (食用ガエル)	確認数： 19 メッシュ
	報告数： 34 メッシュ
	2022年度 21/36 2021年度 21/34

※過年度 確認数/報告数



しょくようのためきた北アメリカから1919年に輸入され日本各地に広がった。平地の池や、幅の広い溝や小川など水量の多い場所にすみ、夜間になるとウシのような大きな声で鳴く。行動はすばやい。

かんさつてききき
観察適期
がつ 6月～がつ 8月

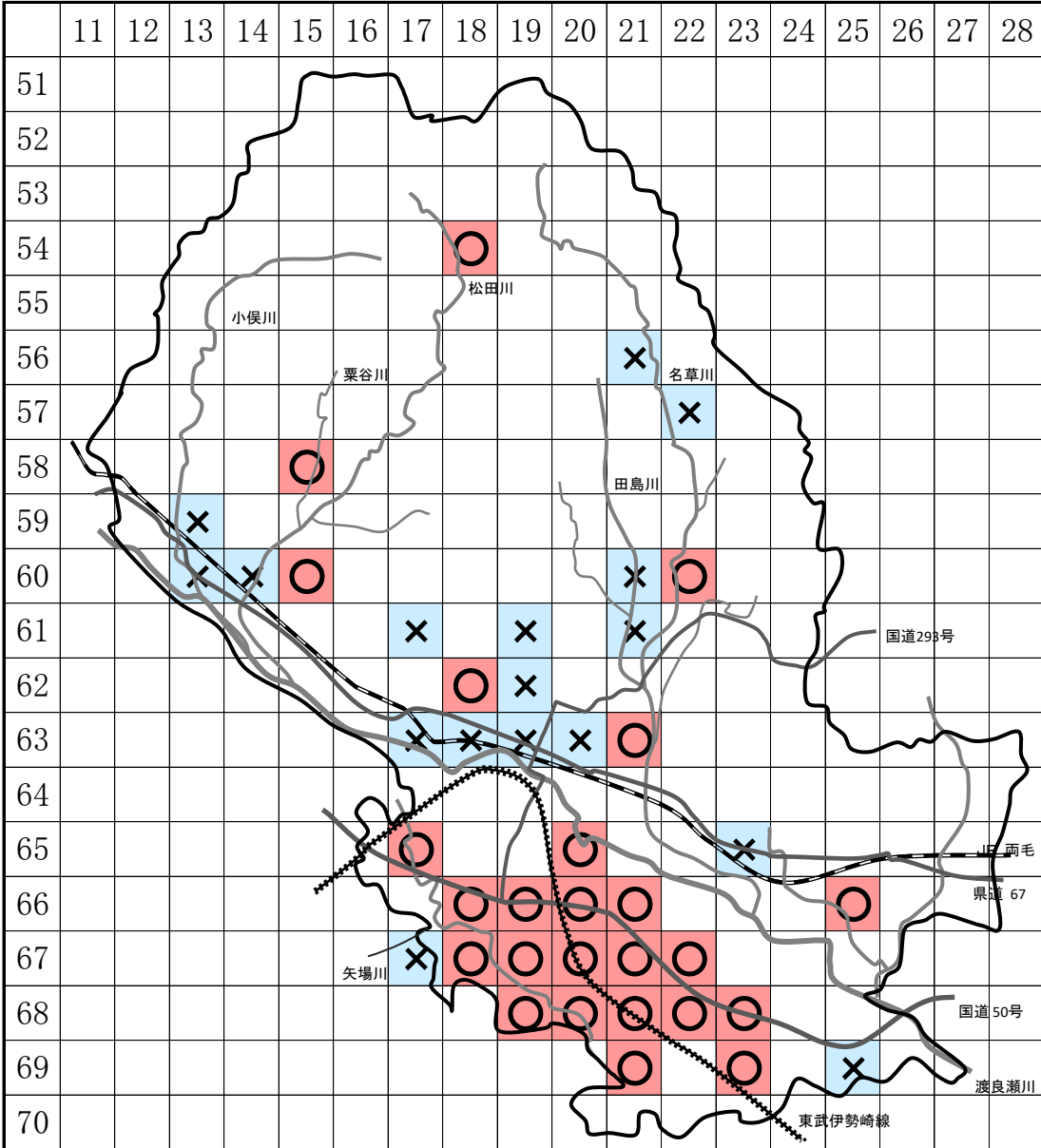
- 生き物が見つかったメッシュ ○ 印で表示
- 生き物が見つからなかったメッシュ × 印で表示

調査結果

河川の岸边から、注意深く鳴き声や動きの様子を観察していただいていることが報告書のコメントから伝わってきます。生息環境が厳しくなっている中で、大きく生息メッシュ数を減らすことなく生息しているようです。ウシガエルでも新しく発見報告メッシュが出ていることから、レポーターの皆さんの熱意を感じます。

トウキョウダルマガエル	確認数： 25 メッシュ
	報告数： 42 メッシュ
	2022年度 20/36 2021年度 19/30

※過年度 確認数/報告数



このあたりではトノサマガエルと言っているが、トノサマガエルは関東にはいない。体長50～60mmぐらいで、トノサマガエルに比べてやや小さく、体形は太めである。口先から後方にかけて灰褐色の地に、一部または全部が緑色をしている。斑紋は黒褐色、ほぼ円形で数が少ない。

かんさつてきき
観察適期
6月～9月

- ・生き物が見つかったメッシュ ○ 印で表示
- ・生き物が見つからなかったメッシュ × 印で表示

調査結果

渡良瀬川の南の多くのメッシュで、発見報告がありうれしく思います。朝の散歩などに合わせて、夏休み前後の水田の用水路などで、鳴き声を頼りに多くの発見が報告されているようですので、今後も広い範囲で継続して調査をお願いします。

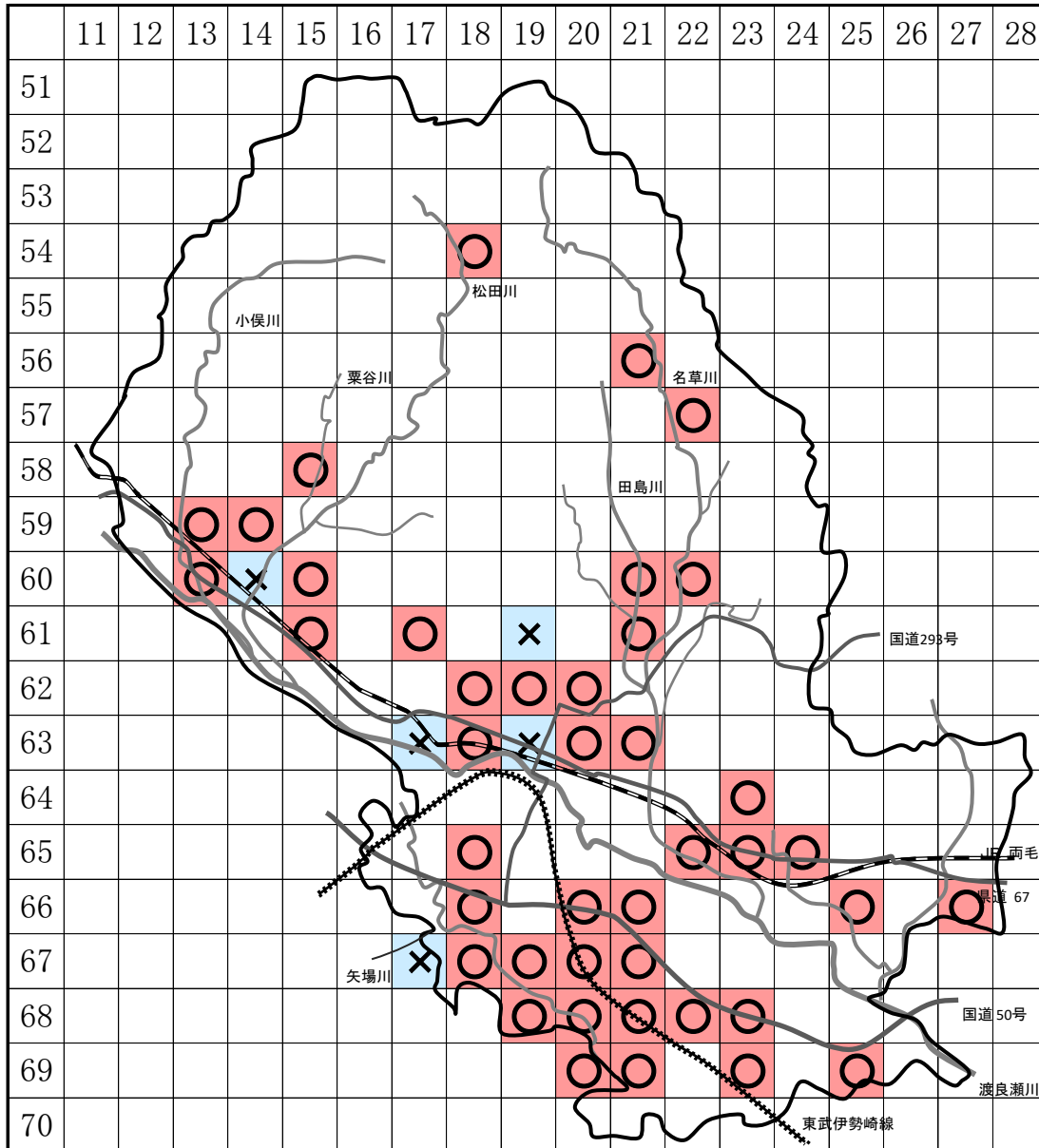
ニホンアマガエル (アマガエル)

確認数： 42 メッシュ

報告数： 47 メッシュ

2022年度 38/41 2021年度 36/42

※過年度 確認数/報告数



人家の植え込みや、
人家に近い低木、葎む
らにすむ。雨が近づくと、
木や草の葉の上で
さかんに鳴く。指の先の
吸盤や緑色の体色は
樹上生活に適している。

周囲のものに合わせ
て体色を変化させる。
秋以降になると土の中
や石垣のすき間で冬眠
する。

観察適期
5月～10月

・生き物が見つかったメッシュ ○ 印で表示

・生き物が見つからなかったメッシュ × 印で表示

調査結果

わが家の裏の水田がなくなり、ここ数年は産卵時期の鳴き声を聞く回数が減って心配していましたが、多くのメッシュで発見報告がされ少し安心しました。しかし、調査対象の水辺の生物全体で調査メッシュあたりの生息数の減少を心配する声が寄せられています。地球沸騰化といわれるようになり、今後も環境の変化をしっかりと見守っていかねばならないと強く感じました。

2 探そう！気になるいきものたち調査結果

どこにいるかな？

探そう！

気になるいきものたち

なかなか出会えないレアな生き物、
市内での分布状況に注目したい生き物など、
「気になる」生き物を集めた企画です。

今年もたくさんの情報をお寄せいただき、ありがとうございました。
引き続きこれらの生き物たちを気にかけていただけますと幸いです。



発見報告のあった
メッシュは、
地図上の該当箇所に
ピンとメッシュコードで
示してあります。

19-63



ホトギス

報告数
11メッシュ

観察適期：5月～10月

5月下旬頃渡ってくる夏鳥。

カッコウの仲間で、ウグイスなどに托卵
(自分の産んだ卵を他の個体に育てさせる
こと)する習性がある。

鳴き声による確認がしやすい鳥。平野部で
どのような分布があるか注目したい種。

調査結果・コメント

メッシュ数は年々減ってきていますが、発見場所はそう変わらないよう
です。今年山前地区での発見がありませんでした。
この鳥は万葉の昔から歌に詠まれ、親しまれた鳥でカッコウの仲間
です。市街地でもよく発見されている様ですね。
夏鳥の代表として来年も観察できるようお願いします。





ミゾコウジュ

報告数

2メッシュ



観察適期：(花) 5月～6月

環境省準絶滅危惧種。市内数か所で確認できる。

シソ科の越年草で、5～6月に淡紫色の小さな唇形花(唇のような形をした花)をつける。この先どのメッシュで増え、また減っているか注目したい種。



調査結果・コメント

2021年の8メッシュを最多に前年度は3メッシュ、今年度は2メッシュと確認メッシュは減少しています。

自生地環境の変化が見逃し等なのか、注目種なので推移を見守りたいと思います。田畑のあぜ道や日当たりのよいやや湿った土手の斜面などが見つけやすいと思います。



ノアザミ

報告数

7メッシュ

観察適期：(花) 5月～6月

花が晩春から夏(5～6月)にかけて咲き、総苞(花の下の緑色になっている部分)に触るとネバネバしている点が特徴。

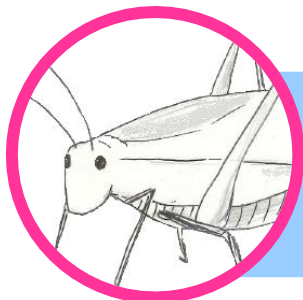
アザミは種類が多いが、この2つの大きな特徴があるので誰でも判別ができる。市内の分布状況に注目したい種。



調査結果・コメント

確認メッシュが昨年度の18メッシュから今年度は7メッシュと半数以下に減少しました。特に河南地域は昨年度は5メッシュ確認できましたが、今年度は確認が0になりましたので、次年度は要注目です。

5月～6月に花を咲かせ、総苞が粘っていればほぼノアザミと思って良いと思います。



クツワムシ

報告数
2メッシュ

観察適期：8月～秋

激レア昆虫。かつては河原にたくさんいたが、クツワムシが好む草地在なくなり数が激減した。令和元年度に市内で数年ぶりに生息が確認された。翅の先まで50mmくらいある大きな虫で、ガチャガチャとたいへん大きな声で鳴く。

調査結果・コメント

2メッシュで確認されました。これまでの報告から生息地はたいへん少ないものと思われ、足利市には確実に生息している場所があります。しかし、大型昆虫であることから環境の変化に弱く、いつまでも生き続ける場所が残ってほしいものです。



タガメ

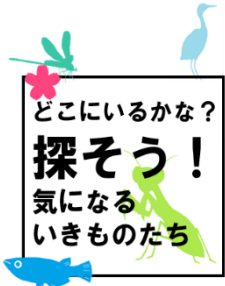
報告数
0メッシュ

観察適期：5月～9月

国の絶滅危惧種で絶滅危惧Ⅱ類。体長45～65mm。メスのほうが一回り大きい。成虫で冬を越す。たんぼや池、流れの緩やかな水路にすることが多く、夜は明かりにも飛んでくる。以前は市内でも見られたが最近の確かな記録はない。レポーターさんのお力で是非見つけて欲しい。

調査結果・コメント

残念ながら報告はなかったですが、足利市のどこかに居るような気がしてなりません。群馬県では板倉町西岡(公民館の灯りに来た)、館林市若宮町(水路に居た)、明和町下江黒(水路に居た)、太田市飯田町(ガソリンスタンドの灯りに来た)が最近の記録としてあります。また、栃木県南では小山市では結構見られるようです。栃木県では県央や県北ではたんぼの水路に普通に見られるところが少なからずあります。灯りやたんぼの水路などが探すポイントです。うれしい報告を待っています。

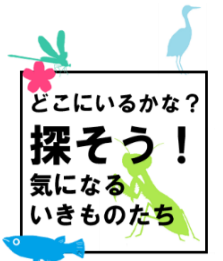




マシジミ

報告数

8マッシュユ



かんきつてきき
観察適期：5月～6月

たんすい かせん すな そこ にまいがい しょくよう
淡水の河川の砂やどろの底にすむ二枚貝で食用になる。

ふつう、シジミと呼んでいる。

ふる かいがら ちようじようぶがん しろ
古くなると貝殻の頂上部分が白くはげ落ちる。

マシジミとよく似たタイワンシジミ種群が侵入して

ぶんぶ かくだい ぜつめつ きき
分布を拡大しており、マシジミは絶滅の危機にある。

調査結果・コメント

はっけん ばしょ ねんねんへんか しょうしょうしんぱい
発見できる場所が年々変化しているため、少々心配です。タイワンシジミとの区別は難しいので、まずは生きているシジミをしっかりと見つけていけると良いと思います。



ミズスマシ

報告数

1マッシュユ

かんきつてきき
観察適期：5月～9月

えんけい くるいろ ていど こんちゆう
だ円形でつやのある黒色をした6mm程度の昆虫で、池や沼などのほか、流れの比較的弱い場所に住む。

すいめん しんどう かいてんうんどう
水面を振動させると回転運動をはじめめる。

ふゆ きし あ かれくさ あいだ どうみん
冬は岸に上がって、枯草の間などで冬眠する。

みつけるのはとても難しい。

調査結果・コメント

はっけんほうこく うれ おも けいぞく せいそくいき かんきよう たいせつ
発見報告があり嬉しく思っています。継続して生息域の環境を大切に保全していきたいですね。





はんしょく かくにん
繁殖が確認できる
す
ツバメの巣

報告数
16マッシュ

かんきつてつき
観察適期：4月～7月

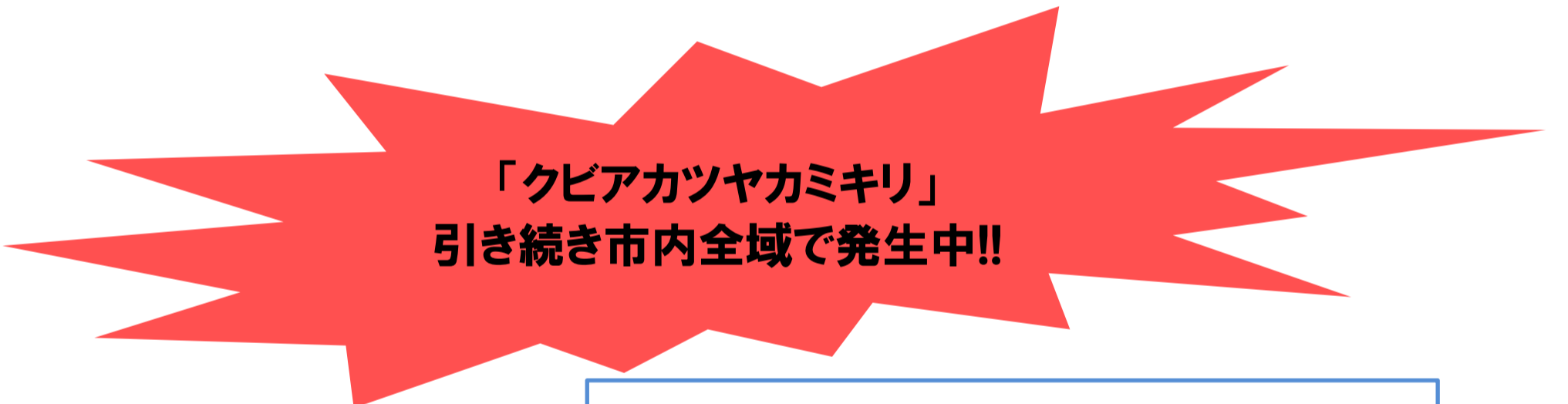
ツバメは人家の軒先や納屋、橋などに泥と枯草等で雄雌協力して巣を作る。巣作り期間は約1週間。

卵を約4～6個産み、卵を温め始めて約2週間で孵化、それから約3週間でヒナが巣立ちを迎える。

ツバメは調査対象種でもあるが、最近では減少が心配されている。

調査結果・コメント

市内全体にまだ巣を作っている様です。
私の考えでは、巣の数は年々減少してきていると思います。ぜひ巣を見つけたら注視して見守ってください。夏鳥の代表で益鳥です。
また、他のツバメ(イワツバメ、コシアカツバメ)等の巣もありましたら、報告をお願いします。




今年度もほぼ市内全域で発見されました。我々も防除に努めておりますが、被害木は累計で2千本以上を超えてしまいました(多くがサクラの被害)。防除への認知度が高まったため、気になるいきものたちの対象から外れていますが、今後も引き続き駆除へのご協力をお願いいたします。皆さんで足利のサクラやウメを守りましょう！



成虫は見つけたら即捕殺！

市民ボランティア「クビアカみつけ隊」も引き続き募集中!!
詳しくは下の2次元コードから！




3 新・珍発見報告

調査対象種以外の生き物を発見された方から報告がありましたのでご紹介いたします。

なお、種名が確定していないものについては、ひらがなで表記しています。

鳥			鳥		
なにを	いつ	どこで	なにを	いつ	どこで
アオサギ	3月16日	17-62	ウグイス	-	21-66
	4月16日	17-62		3月8,28日	22-60
	5月14日	18-62		4月4,11,16,21日	22-60
	6月14日	19-62		7月6,10,19,29日	22-60
	10月14日	19-63		8月5日	22-60
	6月1日	20-68		9月6日	22-60
	4月30日	21-60		10月24,31日	22-60
	6月10日	21-60		3月11日	22-65
	7月17日	21-60		-	22-66
	2022年 12月15日	21-63		4月13日	23-65
	2月27日	22-60		5月9日	23-65
	3月1日	22-60		-	23-66
	4月16,21日	22-60		エゾビタキ	10月11日
	6月29日	22-60	エナガ	8月14日	18-63
	8月5,27日	22-60		4月11,13日	19-61
	9月7,12,13,19日	22-60		10月29日	19-61
	10月16日	22-60		11月15日	19-61
	11月15日	22-60		2022年 11月10日	19-62
	5月26日	23-61		10月11日	19-64
	6月29日	23-61		4月24日	21-56
4月12日	23-65	2022年 11月13日		21-62	
7月26日	23-65	10月30日		21-62	
4月13日	19-61	オオタカ		10月11日	18-62
11月27日	19-61	オオバン	1月24日	19-64	
2022年 11月12日	21-61	オカヨシガモ	2022年 11月13日	21-63	
2022年 11月13日	21-62	カイツブリ	5月26日	21-62	
2022年 11月13日	21-63	カオジロガビチョウ	6月10日	18-63	
アオバト	11月1日		18-59	3月28日	22-60
アカゲラ	3月9日		20-62	4月5,11日	22-60
	4月4日		22-60	11月3日	22-60
イカル	10月11日	22-64	カケス	1月21日	15-58
	1月12日	19-63	カッコウ	5月18日	22-65
	10月25日	19-63	ガビチョウ	5月中	17-61
2月21日	20-60	5月16日		18-62	
イソヒヨドリ	-	18-63		8月10日	18-63
イワツバメ	4月21日	20-64		5月18日	19-63
	6月9日	20-64		4月30日	21-60
ウグイス	-	13-60		5月25日	21-60
	3月9日	15-58		6月6,7,18,19,30日	21-60
	5月9日	15-61		7月1,5,9,10,12日	21-60
	5月11日	18-65		8月21,22,23,24,27日	21-60
	7月11,21,24日	19-61		5月4日	21-61
	10月4,24日	19-61	2022年 11月13日	21-63	
	3月21日	19-62	4月13日	23-65	
	6月28日	19-62	からす	11月1日	18-59
	3月12日	19-63	10月11日	26-63	
	-	19-68	カルガモ	4月11,16日	19-61
	6月5日	20-63		6月12日	19-61
	3月7日	20-65		6月15日	19-63
	-	20-66		4月12,16日	21-60
	-	20-67		6月23,28日	21-60
	-	20-69		6月18日	22-59
	4月20日	21-60		4月15,27日	22-60
	5月11日	21-60		5月16,24日	22-60
	6月21,24,25,27日	21-60		9月14日	25-66
	7月3,5,6,10,20,23日	21-60		10月20日	25-66
	-	21-65	カワウ	1月7日	19-63
		2022年 12月17日	21-62		
		カワラヒワ	7月20日	17-63	
			5月6日	18-65	

鳥			
なにを	いつ	どこで	
カワラヒワ	5月24日	19-61	
	7月24日	19-61	
	2022年 12月15日	21-63	
	4月5,17,21日	22-60	
	5月3,30日	22-60	
	8月12日	22-60	
	4月3,11日	23-65	
	3月21日	15-58	
キジ	7月31日	15-58	
	4月4日	17-62	
	3月15日	18-63	
	5月23日	19-59	
	5月1日	19-62	
	4月14,20,24,28日	21-60	
	5月14,27日	21-60	
	6月7日	21-60	
	1月28日	21-63	
	2月27日	22-60	
	3月1,8,28日	22-60	
	4月4,5,15,16,17日	22-60	
	5月4,16,24日	22-60	
	6月21日	22-60	
	8月25日	22-60	
	9月11,13日	22-60	
	11月7,15,27日	22-60	
	9月21日	22-65	
	5月1日	23-65	
	4月18日	24-69	
	5月7日	25-69	
	キジバト	5月中	17-61
		3月15日	18-63
5月6日		18-65	
3月14日		19-62	
9月9日		19-62	
10月4日		19-63	
4月15,19,23,24日		21-60	
5月22日		21-60	
6月24日		21-60	
7月2,3,7,10,20,23日		21-60	
8月1,4,6,8,10,15,24,25,26,27,28日		21-60	
9月5,6,14,17,18,26日		21-60	
10月2,4日		21-60	
2月27日		22-60	
3月28日		22-60	
4月4,5,11,16,17日		22-60	
5月4日		22-60	
7月24日		22-60	
9月6,13,19,22日		22-60	
11月7日		22-60	
9月26日		22-65	
5月13日		23-64	
4月11,15日		23-65	
キセキレイ	2022年 11月10日	19-62	
	1月28日	21-62	
きつつき	5月10日	18-62	
	5月2日	19-62	
キビタキ	6月4日	19-61	
ゴイサギ	6月27日	21-62	
コウノトリ	6月中	20-68	
コガモ	2月3日	21-62	
コゲラ	10月31日	19-61	
	2022年 11月10日	19-62	
	1月23日	19-62	
	6月5日	19-62	
	8月17日	19-62	
2022年 11月10日	20-62		

鳥		
なにを	いつ	どこで
コジュケイ	3月17日	15-58
	1月25日	19-62
	4月24日	21-56
	5月26日	21-62
	2月27日	22-60
	4月16日	22-60
	5月4,16,30日	22-60
	6月29日	22-60
	7月17,19,23,24日	22-60
	4月11日	21-62
コチドリ	5月24日	23-60
	6月16日	18-63
コムクドリ	-	18-63
	7月中	17-61
さぎ	8月7,10日	21-60
	6月5日	19-62
ササゴイ	5月20日	19-63
	7月14,23日	20-62
サシバ	4月12日	19-64
	1月1日	21-61
	3月14日	21-63
	1月25日	22-60
シメ	2月12日	19-63
	11月11日	17-63
ジョウビタキ	2022年 12月15日	19-61
	10月31日	19-61
	2022年 10月31日	19-62
	2022年 11月5日	19-63
	10月25日	19-63
	10月25日	20-63
	10月中	20-68
	1月1日	22-60
	11月16日	22-60
	9月27日	19-61
	10月29日	19-61
11月21日	19-61	
スズメ	5月3,4,5,6,7,27日	21-60
	6月11,14,25,26,27,28,29,30日	21-60
	7月1,5,8,13,14,16,17,18,19,23,24,25,26,28,30,31日	21-60
	8月1,2,3,4,7,8,10,11,12,14,16,17,18,21,22,23,24,25,26,27,28,29日	21-60
	9月6,7,9,12,14,15,16,18,20日	21-60
	10月7,8,10,13,14,20日	21-60
	4月17日	22-60
	6月21日	22-60
	7月21,24,29日	22-60
	8月5日	22-60
7月6,8,9,10,11,14日	21-60	
せきれい	9月19日	21-60
	10月1,3,20日	21-60
	4月15日	22-60
セグロセキレイ	2022年 11月13日	21-62
	6月20日	22-60
セツカ	7月11日	20-61
	8月25日	22-60
	9月6,9,11日	22-60
ダイサギ	4月20日	19-63
	2022年 12月15日	21-63
	4月16,21日	22-60
	9月12,19,22日	22-60
	10月16日	22-60
6月29日	23-61	

鳥		
なにを	いつ	どこで
タシギ	1月22日	21-62
チョウゲンボウ	6月14日	18-62
	-	18-63
ツグミ	2022年 12月16日	18-65
	2月8日	19-62
	2月17日	19-63
	2月27日	22-60
	3月16日	22-60
	4月4日	22-60
	2月27日	23-61
トビ	6月中	17-61
	4月4日	19-63
	5月6日	21-60
	6月3日	21-60
	7月8日	21-60
	4月16,17,21日	22-60
	5月4,16,30日	22-60
ノスリ	2022年 12月13日	19-58
ノビタキ	2月24日	15-58
ハクセキレイ	5月中	17-61
	5月24日	17-63
	10月4日	19-61
	10月16日	21-60
	4月4日	22-60
	9月6,27日	22-60
	10月24日	22-60
ハシブトガラス	4月12日	19-61
	9月12日	19-61
	10月4日	19-61
	5月23,29日	21-60
	6月1,3,4,5,6,7,8,9,10,12,17,19,21,23,25,26,27,28,29,30日	21-60
	7月1,2,4,5,6,8,9,10,12,13,14,16,20,21,22,23,24,25,26,27日	21-60
	8月1,3,4,5,9,13,15,16,23,25,26日	21-60
	9月7,9,12,13,14,15,16,17,19,21,23,24,25,26,30日	21-60
	10月2,3,4,8,10,13日	21-60
	4月4日	22-60
	5月4,16,30日	22-60
	7月24日	22-60
	8月12日	22-60
	10月24日	22-60
	11月15日	22-60
ハシボソガラス	10月24日	19-61
	11月21日	19-61
	6月14日	21-60
	7月3,31日	21-60
	8月7,8,10,11,12,14,18,19,20,24日	21-60
	9月2,3,5,6,8日	21-60
	10月4,9,10,11,14,19,20日	21-60
バン	9月11日	22-60
ヒクイナ	4月22日	21-65
	3月26日	22-60
	5月16日	22-60
	6月29日	22-60
ヒドリガモ	7月9,10,15,17,23日	22-60
	10月5日	19-63
ヒヨドリ	5月中	17-61
	4月3,21,28日	21-60
	6月2,5,6,8,9日	21-60

鳥		
なにを	いつ	どこで
ヒヨドリ	7月14日	21-60
	8月4日	21-60
	9月18,26日	21-60
	10月9,10,11,13,14,18,19,20日	21-60
	2022年 11月13日	21-62
	3月28日	22-60
	4月5,11,21日	22-60
	5月4,16日	22-60
	6月21日	22-60
	8月5日	22-60
	9月12日	22-60
	10月18,24日	22-60
	11月7,15日	22-60
	4月9日	22-65
	2月25日	19-61
ホオジロ	3月8日	22-60
	11月7日	22-60
	4月3日	19-62
マガモ	1月28日	19-63
	4月21日	19-63
	2月24日	21-64
ミゾゴイ	4月14日	22-60
	3月6日	19-63
ムクドリ	9月中	20-68
	4月20,21日	21-60
	5月15,16日	21-60
	6月13日	21-60
	7月3日	21-60
	3月8,28日	22-60
	4月4,5,11日	22-60
	5月4,30日	22-60
	9月6,12,22日	22-60
	10月18日	22-60
むしくい	9月25日	22-65
	5月17日	15-58
メジロ	9月16日	18-65
	6月4日	19-61
	10月29日	19-61
	8月17日	19-62
	11月16日	19-62
	2月3日	20-65
	10月中	20-68
	2022年 11月13日	21-62
	3月1日	22-60
	10月24日	19-61
モズ	4月1,8,11,13,17,19,20,21,23,27,28,29,30日	21-60
	5月2,6,12,14,21,27,30日	21-60
	6月4,5,8,9,11,12,14,16,19,23,24日	21-60
	7月31日	21-60
	9月5,13,16,17,23,24,26,29日	21-60
	10月2日	21-60
	2022年 11月27日	21-62
	2月27日	22-60
	3月8,28日	22-60
	4月4,5,11,16,17,21日	22-60
5月4,16,24,30日	22-60	
7月20日	22-60	
8月12,25,29日	22-60	
9月6,19日	22-60	
10月2,16,18日	22-60	
11月3,7,15,27日	22-60	
5月25日	23-65	

鳥		
なにを	いつ	どこで
ヤマガラ	3月19日	17-53
	4月1,11日	19-61
	6月4日	19-61
	2022年 11月10,27日	19-62
	10月11日	19-64

植物		
なにを	いつ	どこで
ススキ	10月22日	22-60
スズメウリ	10月2日	22-60
スズメノエンドウ	5月6日	20-68
スズメノカタビラ	3月9日	15-58
	5月6日	20-68
スズメノテッポウ	5月6日	20-68
	4月4,11日	22-60
スベリヒユ	9月13日	22-60
スマレ	3月9日	15-58
	3月9日	20-61
	5月6日	20-68
セイタカアワダチソウ	10月22日	22-60
セリ	7月24日	22-60
センニンソウ	9月23日	15-58
	9月12日	19-61
ゼンマイ	8月25日	15-58
チガヤ	6月28日	15-58
	9月23日	15-58
ツメクサ	3月9日	15-58
ツユクサ	6月28日	15-58
ツルボ	9月23日	15-58
ツルマメ	9月21日	15-58
トウダイグサ	5月6日	20-68
トクサ	5月6日	20-68
ドクダミ	6月28日	15-58
ナガミヒナゲシ	4月8日	23-65
ナズナ	3月9日	15-58
	5月18日	20-60
ナヨクサフジ	5月18日	21-60
	5月18日	21-63
ナンバンギセル	8月25日	15-58
ニワゼキショウ	6月28日	15-58
	5月9日	15-61
ネムノキ	6月18日	22-59
ノアズキ	9月23日	15-58
ノカンゾウ	7月12日	15-60
	6月28日	20-66
ノキシノブ	9月12日	19-61
ノボロギク	5月6日	20-68
ハギ	10月11日	-
ハコベ	5月6日	20-68
	6月25日	15-58
ハルジオン	5月6日	20-68
ヒガンバナ	10月3日	20-60
ヒナマツヨイグサ	5月6日	20-68
ヒメオドリコソウ	3月9日	15-58
ヒメジョオン	5月6日	20-68
ヒルガオ	8月29日	22-60
ヒレアザミ	5月20日	23-65
ふじ	5月1日	19-54
ボタンクサギ	6月18日	22-59
ホトケノザ	3月9日	15-58
	5月6日	20-68
マンサク	2月13日	18-61
	2022年 2月22日	20-61
	3月9日	20-61
ミズオオバコ	11月3日	21-67
ムシトリナデシコ	6月28日	15-58
ムラサキカタバミ	6月28日	15-58
	4月17日	15-60
ムラサキサギゴケ	3月9日	15-58
ヤブガラシ	6月28日	15-58
ヤブカンゾウ	6月29日	22-60
ヤブケマン	4月5日	22-60
(ムラサキケマン)		
ヤブツルアズキ	10月22日	22-60
ヤブデマリ	5月1日	19-54

植物 		
なにを	いつ	どこで
アオツツラフジ	6月18日	22-59
アカバナ	4月8日	23-65
アキノキリンソウ	10月19日	19-62
アキノタムラソウ	8月25日	15-58
アメリカオニアザミ (生態系被害防止外来種)	6月13,28日	19-62
	9月20日	21-63
イヌタデ	10月6日	15-58
イヌムギ	5月6日	20-68
イワニガナ	4月17日	15-60
ウツギの一種	6月18日	22-59
ウマノアシガタ	4月4,11日	22-60
ウルシ	9月23日	15-58
エノキグサ	9月15日	15-58
エノコログサ	6月28日	15-58
オオイヌノフグリ	3月9日	15-58
	5月6日	20-68
オオカワヂシャ (特定外来種)	5月4日	21-61
オオキンケイギク (特定外来種)	5月18日	22-60
	6月8日	17-63
	5月18日	19-61
オオバコ	5月6日	20-68
オナモミ	9月15日	15-58
オニタビラコ	4月17日	15-60
カズノコグサ	4月11日	22-60
カタバミ	3月9日	15-58
ガマ	6月12日	19-61
	7月23,24日	22-60
	10月22日	22-60
カヤツリグサ	9月12日	22-60
カラスウリ	10月2日	19-61
カラスノエンドウ	3月9日	15-58
カラスビシャク	6月28日	15-58
キキョウソウ	5月23日	23-65
キツネアザミ	4月15日	23-65
キュウリグサ	5月6日	20-68
キランソウ	3月9日	15-58
キンラン	3月29日	20-61
ギンラン	3月29日	20-61
ギンリョウソウ	9月20日	15-58
クズ	7月31日	15-58
クマイチゴ	6月18日	22-59
コシカンソウ	9月23日	14-59
コセンダングサ	-	18-62
	-	18-63
コニシキソウ	9月15日	15-58
コブナグサ	10月6日	15-58
コマツナギ	6月18日	22-59
ザクロソウ	9月23日	15-58
ジャケツイバラ	4月29日	19-62
シロツメクサ	5月6日	20-68
スイバ	6月28日	15-58
	4月17日	15-60

植物		
なにを	いつ	どこで
ヤマブキ	4月11日	19-61
ヤマフジ	4月19日	17-62
ヨウシュヤマゴボウ	9月7日	15-58
ヨモギ	3月9日	15-58
ワルナスビ	10月22日	22-60



昆虫		
なにを	いつ	どこで
アオカナブン	7月25日	23-65
アオクサカメムシ	7月26日	23-65
アオスジアゲハ	6月10日	15-58
	4月27日	19-61
	5月2日	19-61
	6月23日	19-62
アオマダラタマムシ	4月25日	19-63
	5月6日	17-61
アオマツムシ	7月3,10,17日	22-60
	8月25日	22-60
	9月13日	22-60
アオモンイトトンボ	7月23日	21-61
アカシジミ	5月18日	19-61
アカタテハ	6月5日	19-61
	4月1,11日	19-61
あかとんぼ	10月31日	19-61
	9月30日	19-62
	6月19,20,21,23日	21-60
	7月10,31日	21-60
	8月12,18,31日	21-60
	9月6,7,9,10,11,12,13,14,17,18,20,21,24,25,26,27,30日	21-60
	10月2,3,12,13,14,18日	21-60
8月21日	23-64	
アカボシゴマダラ	9月30日	23-64
	5月16日	18-62
	5月21日	18-63
	5月24日	19-61
	4月29日	19-64
	8月6日	20-63
	9月14日	20-63
	5月29日	21-62
	5月18日	21-64
9月21日	25-69	
アゲハの幼虫	4月16日	19-61
アサギマダラ	11月1日	18-59
	10月18,30日	19-61
	10月4日	22-65
	10月11日	25-62
アジイトトンボ	10月中	25-66
	9月12日	19-61
	9月5日	20-62
あしながばち	9月3,11日	22-60
	4月20,21,23日	21-60
	5月26,30日	21-60
	6月3,30日	21-60
	7月1,9,10,11日	21-60

昆虫		
なにを	いつ	どこで
あしながばち	10月20日	21-60
	10月6日	23-65
あぶらむし	10月31日	22-60
イチモンジセセリ	10月22日	22-60
いととんぼ	8月10日	23-69
	9月14日	25-69
イナゴ	10月30日	26-66
イボバツタ	9月3日	15-61
	10月16日	19-61
	7月11,18,25日	22-60
9月12日	22-60	
ウスキツバメエダシャク	10月18日	19-61
ウスバキトンボ	7月20,30日	22-60
	8月12,29日	22-60
9月5日	22-60	
ウチワヤンマ	7月中	21-63
ウマオイ	7月18,23,30日	22-60
	8月5日	22-60
ウラギンシジミ	6月6日	19-61
	10月21,24日	19-61
ウラナミシジミ	9月27日	19-61
	10月2,24日	19-61
ウリハムシ	9月3日	23-65
オオアオイトトンボ	10月31日	19-61
	11月21日	19-61
	10月22日	22-60
オオシオカラトンボ	5月29日	19-61
	6月6日	19-61
	7月19,28日	19-61
	9月12日	19-61
	10月2日	19-61
オオスカシバ	9月22日	19-62
	9月15日	19-63
	9月29日	21-60
	6月5日	22-60
	7月13日	22-65
オオセイボウ	6月13日	18-62
オオミズアオ	-	21-63
オカメコオロギ	9月7,19日	22-60
オニヤンマ	9月17日	12-57
	9月12日	15-58
	9月12日	17-61
	6月5日	20-63
	7月31日	20-68
9月3,9日	22-60	
オンブバツタ	10月3,16日	19-61
	7月26,29日	21-60
	8月10,11日	21-60
	8月3日	21-62
蚊	5月20日	20-68
	10月13日	25-66
かいがらむし	7月28日	21-60
	8月11日	21-60
ががんぼ	3月15日	22-60
	5月30日	22-60
カナブン	8月4日	20-68
	10月中	20-68
	6月30日	21-60
	7月4,21,31日	21-60
	7月3,17日	22-60
カネタタキ	8月7,12日	22-60
	9月7日	22-60
	7月18日	24-66
	9月12日	19-61
	10月3,12日	19-61
10月中	20-68	
9月12日	22-60	

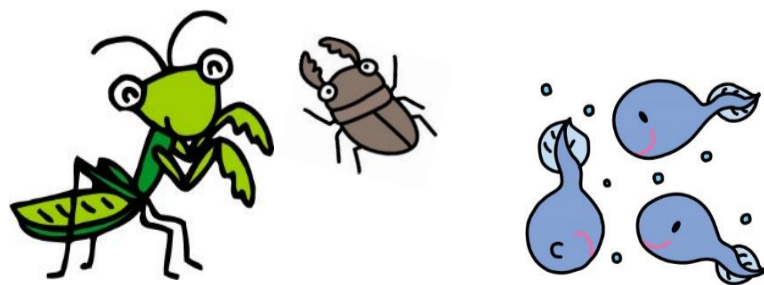
昆虫		
なにを	いつ	どこで
カブトムシ	8月20日	19-62
	7月19日	21-63
かまきり	2月27日	19-61
	6月13日	19-61
かみきりむし	9月21日	25-66
	6月6日	19-61
カメノコテントウ	4月3日	18-62
	4月11日	19-61
かめむし	10月中	20-68
	7月30日	24-66
	9月10日	25-66
	10月5日	25-66
カラスアゲハ	6月29日	15-58
	10月6日	15-58
	6月16日	18-62
	5月1日	19-54
	4月13日	19-61
	6月6日	19-61
	5月16日	19-63
	6月18日	22-59
カワトンボ	5月1日	19-54
	6月12日	19-61
キアゲハ	5月24日	19-61
	6月16日	24-66
キイロシリアゲアリ	9月21日	15-61
キイロスズメ	9月22日	19-61
キクスイカミキリ	4月23日	21-60
キタキチョウ	10月23日	19-61
	4月6日	21-60
	5月30日	21-60
	9月16,17日	21-60
	3月16日	21-63
	3月8日	22-60
	7月24日	22-60
	9月13日	22-60
キタテハ	10月3,16,31日	19-61
	5月24日	22-60
	9月5,19,22日	22-60
キボシカミキリ	10月2日	19-61
	9月30日	19-62
キマワリ	7月27日	15-61
キリギリス	7月2日	19-54
	10月1日	19-63
	8月25日	21-60
	9月17日	21-60
	6月29日	23-61
ギンヤンマ	7月3日	23-61
	8月6日	21-62
くさかげろう	8月14,29日	22-60
	6月13日	22-60
クサヒバリ	9月12日	19-61
クシコメツキ	6月13日	22-60
クビアカツヤカミキリ	7月1日	13-59
	7月25日	19-61
	6月26日	21-62
	7月7日	21-68
	6月19日	22-60
	6月29日	22-65
クビキリギリス	4月5,21日	22-60
クマスズムシ	9月12日	19-61
クマゼミ	8月7日	27-66
クマバチ	4月24日	19-62
	4月12,20,23日	21-60
	7月9,10,11日	21-60
	7月22日	23-65
クロアゲハ	5月3日	15-61

昆虫		
なにを	いつ	どこで
クロアゲハ	6月19日	15-61
	4月29,30日	18-65
	5月6日	18-65
	4月11日	19-61
	4月13日	20-68
	4月11,12,13,19,20,21,23,28,29,30日	21-60
	6月6,9日	21-60
	7月3日	21-60
	9月4日	21-60
	10月10日	21-60
	4月5,15日	22-60
	5月3,18日	22-60
	9月13日	22-60
	4月23日	22-65
	6月2日	23-65
	4月22日	23-69
	7月26日	25-69
クロイトトンボ	4月11日	19-61
	8月13日	23-64
クロウリハムシ	6月6日	15-61
クロスズメバチ	8月29日	15-58
	10月7日	15-58
クロメンガタスズメ	7月16日	15-61
ゲンジボタル	6月27日	15-58
コアシナガバチ	7月31日	15-58
コオニヤンマ	6月6日	15-61
	7月3日	19-61
コガネムシ	8月中	18-63
コカマキリ	6月18日	19-63
コシアキトンボ	6月5日	20-63
	6月19,29日	22-60
コツバメ	3月10日	19-61
ゴマダラカミキリ	6月19日	15-61
	6月29日	19-63
	6月21日	20-62
	7月23日	23-65
コムスジ	4月11,13日	19-61
	10月2日	19-61
	6月24日	22-60
サトクダマキモドキ	8月5日	22-60
	8月3日	15-61
	9月7日	17-61
	10月8日	19-61
シオカラトンボ	7月28日	19-61
	8月14日	19-61
	9月12日	19-61
	6月25日	19-62
	7月18日	19-63
	7月中	20-68
	8月中	20-68
	9月中	20-68
	7月16,23日	21-60
	8月10,18日	21-60
	9月14日	21-60
	4月30日	21-62
	6月29日	22-60
8月25日	22-60	
9月2日	22-65	
6月30日	23-65	
シオヤトンボ	4月15,27日	19-61
	5月24,29日	19-61
しじみちょう	4月13日	23-65
ジャコウアゲハ	4月11日	21-62
シャチホコガ	11月2日	19-61
ショウジョウトンボ	6月5日	19-61
	6月23日	19-62

昆虫		
なにを	いつ	どこで
ショウリョウバッタ	5月24日	19-61
	6月19日	22-60
シロシタホタルガ	6月18日	15-58
シロスジカミキリ	6月18日	20-61
スジグロシロチョウ	4月13日	19-61
すずめばち	6月19日	15-58
	4月27日	19-61
	10月31日	19-61
	6月29日	21-60
	9月12日	21-63
セスジイトンボ	10月11日	25-63
セスジズメ	9月9日	21-62
ダイモウセセリ	9月12日	22-60
タマムシ	7月23日	22-60
	7月31日	20-63
	8月8日	20-64
チョウトンボ	7月20日	22-60
	-	24-58
ツクツクボウシ	7月24日	19-61
	7月31日	15-58
	7月11,19日	19-61
	8月15日	20-62
	8月19日	20-68
	8月1,2,8,9,13,14,15,16,17,18,19,20,22,24,25,27,28日	21-60
	9月1,2,4,5,6,10,11,12,13,14,15,16,17,18,21,22,23,24,26,27日	21-60
ツチイナゴ	7月30日	22-60
	8月12,25日	22-60
ツヅレサセコオロギ	7月13日	22-65
	4月21日	19-61
ツマキチョウ	10月11日	19-61
	8月5日	22-60
ツマグロヒョウモン	9月12日	22-60
	4月13日	19-61
	7月2日	13-59
	6月17日	15-58
	5月9日	15-61
	10月21日	19-61
	6月3日	19-63
	4月28日	21-60
	5月8,9,10,11日	21-60
	6月23,24,28,29日	21-60
	7月3,6,7,8,9,10,11,14,15,23,26日	21-60
	8月3,6,8,12,21,24日	21-60
	9月2,11,16日	21-60
	10月5,13日	21-60
	6月23日	21-62
	7月19日	22-60
	9月8日	22-60
10月21日	22-60	
5月3日	23-65	
4月13日	23-69	
ツマグロヒョウモンの幼虫	8月27日	23-65
ツマジロエダシャク	5月9日	15-61
テングチョウ	2月27日	19-61
テントウムシ	4月11,16日	19-61
トドノネオオワタムシ(ユキムシ)	5月10日	25-66
トノサマバッタ	2022年 11月13日	17-64
	10月19日	19-62
とんぼ	9月7日	21-60
	8月7日	24-66
	9月26日	25-66

昆虫		
なにを	いつ	どこで
ナガサキアゲハ	5月16日	18-62
ナガメ	7月26日	23-65
ナツアカネ	7月19日	19-61
	9月22日	19-61
	6月23日	19-62
	8月1日	23-69
ナナフシ	4月11日	19-61
ナナフシモドキ	7月6日	19-62
ナミテントウ	9月10日	18-59
ニイニイゼミ	6月20日	22-60
	7月3,28日	19-61
	8月15日	19-62
	6月27日	19-63
ニジュウヤホシテントウ	7月17,23,24,29,30日	22-60
ニホンミツバチ	5月3日	22-60
はきりばち	5月5日	18-66
ばった	6月27日	15-58
	6月19日	17-61
ハラオカメコオロギ	10月7日	20-68
ハラグロオオテントウ	9月12日	22-60
	7月6日	13-59
ハラビロカマキリ	5月2日	20-63
	8月16日	15-61
ハラビロトンボ	10月21日	19-61
ハルゼミ	5月4日	22-60
ヒゲコメツキ	5月16日	18-62
ヒメアカタテハ	4月23日	18-63
	10月23日	19-61
ヒメウラナミジャノメ	3月10日	21-63
	9月27日	19-61
ヒメクロホウジャク	9月12日	22-60
ひめばち	9月27日	22-60
ひょうもんちょう	8月2日	19-62
ビロードツリアブ	11月1日	18-59
	3月10日	19-61
フクラスズメ	4月16日	19-61
	9月27日	19-61
フタオビキョトウ	9月27日	22-60
ベニシジミ	5月20日	22-60
	4月13日	19-61
	11月21日	19-61
	3月16日	21-63
	4月3,15日	22-60
	4月7日	22-65
ほうじゃく	4月5日	25-66
	9月22日	19-61
	10月2,4,20日	19-61
ホソミイトンボ	9月12,18日	22-60
ホタルガ	9月26日	22-65
マイマイカブリ	10月7日	19-61
マダラスズ	9月5日	20-68
	6月13日	22-60
	8月12日	22-60
	9月22日	22-60
マツムシ	11月16日	22-60
マツモムシ	10月中	21-65
マユタテアカネ	3月10日	19-61
まるはなばち	10月2,18,23,31日	19-61
ミイデラゴミムシ	5月5日	18-66
	4月13日	19-61
ミツバチ	6月18日	22-59
緑色のアゲハ	4月18日	25-66
みのむし	8月9日	25-69
	通年	20-63
	6月1,19日	21-60
	8月11日	21-60
	5月26日	21-62
通年	21-65	

昆虫		
なにを	いつ	どこで
ミヤマアカネ	7月21,24日	19-61
	8月4日	19-61
	10月2日	19-61
	6月25日	19-63
	10月16日	20-62
ミヤマカワトンボ	4月24日	21-56
ミヤマセセリ	3月10日	19-61
ミンミンゼミ	7月31日	15-58
	7月3日	18-62
	7月11,19,21,28日	19-61
	7月14日	19-62
	7月9日	19-63
	8月15日	20-68
	7月20日	21-60
	7月17,30日	22-60
	7月21日	22-65
	8月5日	23-65
モートンイトトンボ	7月28日	19-61
モンキアゲハ	6月11日	15-58
	10月6日	15-58
	10月3日	21-63
	10月3日	22-65
モンキチョウ	3月23日	15-58
	3月10日	19-61
	4月5,13日	19-61
	10月20日	20-68
	4月5日	22-60
モンシロチョウ	5月4日	22-60
	3月23日	15-58
	5月5,22日	18-65
	4月16日	19-61
	4月4,6,9,11,12,16,17,20,21,23,28日	21-60
	5月3,4,6,8,9,10,11,16,17,21,26,27,30,31日	21-60
	6月4,5,6,8,28日	21-60
	7月13日	21-60
	8月17,18,19日	21-60
	9月2,12日	21-60
	3月8日	22-60
	4月5,12,15日	22-60
	5月16,30日	22-60
	3月15日	23-65
	4月7日	23-65
4月5日	25-66	
10月20日	25-66	
ヤマトシジミ	10月21,31日	19-61
	6月13日	22-60
	7月17日	22-60
	9月12日	22-60
ヤマトシリアゲ	5月10日	19-61
ヤマユガ	9月23日	18-62
よとうがの幼虫	5月3日	22-60
ルリクチブトカメムシ	6月27日	15-58
ルリタテハ	4月5,12,13日	19-61
	10月16日	19-61
	9月12日	22-65



水辺の生物 		
なにを	いつ	どこで
ウシガエルのオタマジャクシ	3月10日	19-61
	6月6日	19-61
かえる	8月19日	19-62
	4月27日	22-60
カジカらしい魚	-	24-58
カブトエビ	7月11日	19-67
	6月22日	20-68
カワエビ	6月27日	21-62
	6月20日	18-62
カワニナ	3月19日	22-62
クサガメ	10月22日	22-60
小魚の群れ	4月23日	21-63
	6月7日	22-60
白いカエル	7月4日	23-65
スッポン	8月30日	25-69
	4月6日	19-62
タニシ	7月11日	19-63
	10月22日	22-60
とびけら	10月22日	22-60
	7月9,24日	22-60
ナマズ	10月22日	22-60
	5月24日	21-63
ニホンザリガニ	6月3日	21-68
	10月29日	18-66
ヌマエビ	10月22日	22-60
ヌマガエル	10月22日	22-60
	6月18日	22-59
ヒキガエル	9月12日	22-60
ホウネンエビ	5月17日	15-58
	6月27日	21-62
ミシシippアカミミガメ	6月1日	23-65
	8月1日	23-65
ミナミメダカ	-	18-63

その他 		
なにを	いつ	どこで
アオダイショウ	5月17日	15-58
	7月16日	18-59
	7月11日	19-63
アナグマ	5月25日	23-69
	9月7日	15-58
アブラコウモリ	4月5日	17-62
	4月4,5,11,23,28日	21-60
	5月28日	21-60
	6月4日	21-60
	7月26日	21-60
アミガサタケ	8月20,22日	21-60
	4月11日	22-60
イタチ	4月18日	18-59
	9月17日	22-60
イノシシ	2022年 11月19日	15-58
	7月12日	15-60
	4月20日	17-62
	3月28日	18-62
	6月3日	20-58
オオミスジコウガイビル	10月29日	20-62
	7月28日	19-61
オニグモ	7月6日	22-60
	8月12日	22-60
	10月18日	22-60
かたつむり	9月10日	20-68
ニホンカナヘビ	4月17日	15-61

その他		
なにを	いつ	どこで
ニホンカナヘビ	11月16日	19-62
	8月9日	20-68
ギンメッキゴミグモ	5月10日	19-61
黒いヘビ	6月18日	23-65
コガネグモ	7月5日	18-62
ゴミグモ	10月31日	22-60
ザトウムシの一種	10月2日	19-61
シカ	2022年 11月20日	15-58
	9月12日	15-58
	5月中	17-60
	1月14日	18-62
	3月28日	18-62
	10月29日	20-62
	6月17日	22-60
ジョロウグモ	8月14日	19-61
	9月22日	19-61
	9月12,13日	22-60
タヌキ	2022年 11月20日	15-58
	4月15日	18-54
	4月27日	18-66
	11月2日	24-68
タヌキ(子供)	4月14日	23-65
ツマミタケ	5月20日	22-60
	7月19日	22-60
トカゲ	10月1日	19-62
	5月30日	21-60
	7月6,12日	21-60
	8月2,8日	21-60
	9月13,18日	21-60
ドブネズミ	4月5日	19-62
ドヨウオニグモ	6月13日	22-60
	9月11,12日	22-60
ナガコガネグモ	10月24,30日	19-61
なめくじ	2022年 11月29日	15-58
	5月20日	21-60
ニッポンマイマイ	6月18日	15-61
ニホンカナヘビ	6月13日	19-63
ニホンカモシカ	7月16日	18-59
	5月10日	18-62
	3月10日	19-62
ニホントカゲ	8月25日	23-69
ノウサギ	2022年 12月29日	18-60
	6月8日	23-60
	-	24-58
ハクビシン	5月15日	18-62
	6月23日	19-62
	8月中	20-68
	8月12日	22-60
	9月19日	22-60
	4月21日	23-69
ミミズ	4月12日	21-60
へび	10月1日	19-62
マムシ	6月28日	15-58
ヤマカガシ	5月25日	15-58
	6月7日	21-60
	10月6日	21-60
	5月30日	22-60
ヤモリ	8月25日	15-58
	8月中	17-61
	11月20日	18-63
	6月25日	19-63
	6月15日	20-62
	7月1日	21-60
	9月3日	21-60
	10月7日	21-60
	8月23日	21-62
8月21日	23-69	



2023年度（令和5年）〈新・珍発見報告〉昆虫のまとめ

いつもたくさんの報告をありがとうございます。結果は身近な当市の昆虫を知る大切な資料となります。拝見するのを毎年楽しみにしております。

〈絶滅危惧種〉

以下のような絶滅危惧種の報告がありました。かっことはメッシュ番号です。

なお参考までに当市から知られる絶滅危惧種は、国が67種、栃木県が154種を確認していますが、絶滅したものも含まれます。詳しく知りたい方は、学校の図書館や足利市立図書館、市環境政策課にある「2018レットデータブックとちぎ」がインターネットでご覧になってください。

- ・マツムシ (21-65) (栃木県：要注目)
- ・モートンイトトンボ (19-61) (国：準絶滅危惧、栃木県：要注目)
- ・ハルゼミ (18-62) (栃木県：要注目)
- ・アオマダラタマムシ (17-61) (栃木県：要注目) ※【写真1】
- ・ゲンジボタル (15-58) (栃木県：要注目)
- ・ジャコウアゲハ (21-62) (栃木県：要注目)
- ・オオセイボウ (18-62) (国：情報不足、栃木県：情報不足)
- ・クツワムシ (栃木県：要注目) ※38ページをご覧ください。
- ・ハルゼミ (15-62) (栃木県：要注目)

〈外来種や地球温暖化に伴う北上昆虫〉

- 【外来種】・アカボシゴマダラ※【写真2】 ・クビアカツヤカミキリ ・アオマツムシ
- 【北上】・ツマグロヒョウモン ・クマゼミ ・ハラグロオオテントウ※【写真3】
- ・クロメンガタスズメ ・ナガサキアゲハ

※アオマツムシは1976年に栃木県では本市で初めて見つかりました。今では市内各地に多く見られます。大陸から渡来したという説が有力です。

※クマゼミは2021年度（令和4年）の報告に詳しく述べました。館林市では植木由来（植木の根に幼虫が紛れ込んだ）のものが定着しています。

※ハラグロオオテントウは急速に分布北上中の昆虫で、栃木県からは2022年に初めて当市で見つかりました。

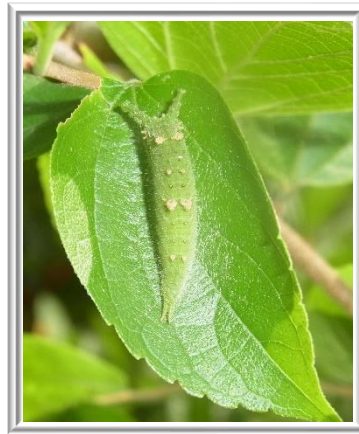
※ナガサキアゲハは2012年頃から当市で見られるようになりました。

※モンキアゲハは北上昆虫として書いていませんが、当市で頻繁に見られるようになったのは1970年代以降です。これも北上昆虫となります。

※アカボシゴマダラ、ツマグロヒョウモンは画像鑑定依頼をご覧ください。



【写真1】
アオマダラタマムシ
(レポーター提供)



【写真2】
アカホシゴマダラ幼虫
(大川検討委員撮影)



【写真3】
ハラグロオオテントウ
(レポーター提供)

《その他》

レポーターのなかには詳しく名前を調べてくださった方がいました。例えば次のような名前の虫です。アオモンイトトンボ、ウスキツバメエダシャク、キロシリアゲアリ、シロシタホタルガ、セスジイトトンボ、トドノネオオワタムシなどです。名前調べにたいへんなお時間と労力を要したと思われま。おかげさまで貴重な資料となりました。画像による鑑定依頼もたくさんありました。興味深い虫をたくさん寄せてくださいました。こちらも当市の虫を知る貴重な資料となります。

なかにはテントウムシによく似て成虫では区別が難しいクリサキテントウのことまでご存じの方がいました。クリサキテントウは松につくアブラムシのみを食べますが、私は松にいるクリサキテントウを見たことはありません。織姫山の歩道の手摺にいた幼虫を見つけましたので、テントウムシとクリサキテントウの幼虫を掲載します。また同じ場所でクリサキテントウの成虫と思われるものがありましたので画像を掲載しておきます。



ナミテントウ幼虫
(大川検討委員撮影)



クリサキテントウ幼虫
(大川検討委員撮影)



クリサキテントウ成虫
(大川検討委員撮影)

2 みんなの意見・感想

今回の調査におけるアンケートにご回答いただきありがとうございました。レポーターの皆様から様々なご意見やご感想をいただきました。

※皆様からお寄せいただいた意見・感想から抜粋し、漢字や文章の表現など意図を変えない範囲で修正を加えて掲載しています。

<とり>

- ホトトギスやハルゼミ、オオタカなどの声を聴く回数が増えたように感じます。

ホトトギスやオオタカの鳴き声を聞く回数が増えたとのことで、羨ましいです。

ホトトギスはカッコウの仲間です。渡来してすぐの頃は高木や目立った場所で独特な鳴き声で縄張り（テリトリー）や繁殖行動のためにさえずります。夏場になると鳴き声は少なくなります。

オオタカは「ギギッ」と独特な鳴き声ですね。

最近は個体数も多くなり、人里近くでも見る機会が多くなりました。

- カワセミが増えたように感じます。

- 袋川にもカワセミが居てびっくりしました。

カワセミは調査報告にも記載しましたが、完全に都市鳥化して今ではどの河川でも見られます。しかしながら、その優美な姿は変わらずです。

- モズのはやにえをあまり見かけなくなりました。

モズのはやにえが少なくなっているのは本当の様です。こちらについてはカエルやバッタが少なくなっているといった食糧事情からではないでしょうか。

トゲのある樹木を注視して探してみてください。

- 水鳥をあまり見つけることができず、心配です。

水鳥の発見があまりできないとのことですが、水鳥を探するときのポイントとしては、川の流が速いところではなく、岸辺や流がよどんでいる場所、中洲の石の間などを探してみてください。近くに川がない場合は調整池や溜め池の周りの木々を含めて注意して見てください。

サギ類、カモ類（冬場）等は大きな鳥ですので、発見しやすいと思います。

セキレイ類や他の鳥も見られるかもしれません。もしカワセミが見られたら万々歳です。

- ヒバリが巣の子供を守るべく擬態に及んでいるのを発見しました。また、鳥類としては体に比べて長い脚であること、しかもバック歩行までするというのも新発見でした。

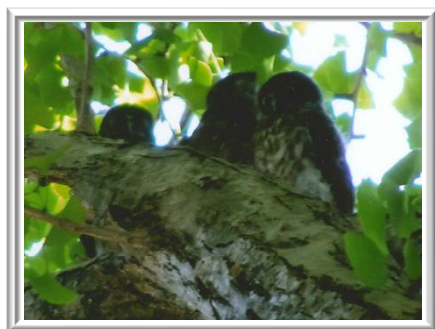
ヒバリの観察お見事です。

バック歩行まで発見できるとは、私はまだヒバリのバック歩行は見たことがありません。

今度は冠羽を立てた姿や飛び立つときの様子、さえずって地上に降りてくる様子なども見てください。また報告をお待ちしています。

- アオバズクの鳴き声が聞こえました。

- 調査を終える頃、例年ならばウグイスのさえずりも笹鳴きに戻る筈が、春さながらに「ホーホケキョ」と鳴いたのを聴き、正直我が耳を疑いました。モズがウグイスを真似たのではと再び耳を澄まして待っていたところ、また「ホーホケキョ」と数回鳴き数日後もまた鳴いていました。



アオバズク
(レポーター提供)



ヒドリガモ
(レポーター提供)

<植物>

- 今年ことしの夏なつは暑あつく長ながかったので、うるしの花はなが遅おそく咲さいたように感じかんました。
- 今年ことしの記録きろくてき的な暑あつさで枯かれてしまった樹木じゅもくが結構けっこうあり痛いた々いたしかったです。
- 夏なつが過酷かこくな暑あつさになっているため、徒花あだばなを咲さかせた植物しょくぶつが多おほかったという印象いんしょうが強いつよです。

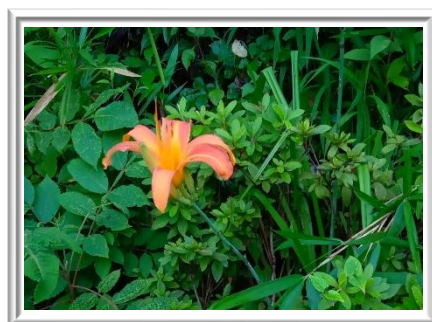
今年ことしの夏なつは高温こうおん少雨しょううの影響えいきょうで植物しょくぶつにとっても大変たいへんな夏なつだったようです。
植物生理学しょくぶつせいりがくの様ような難むずかしい事ことはわかりませんが、今いままでの夏なつとは違ちがう環かん境きょうになったため、
多分たぶん植物しょくぶつも戸惑とまどっているとおもいます。
これから先さき、今年ことしのような夏なつの気候きこうが続つづき、様々さまざまな生物せいぶつにとって大変たいへんな時代じだいにならない
よう願ねがっています。

- ナラ枯れがが急きゅうそく速すに進すすんでいるように感じかんました。

本市ほんしの里山さとやまに自生じせいするブナ科か植物しょくぶつ（コナラ、クヌギ、フモトミズナラ）が周囲しゅういの緑みどりの
中なかで茶色ちやいろに枯かれた状じょう況きょうを目めにすることがあります。
ナラ枯れがの原因げんいんとしては、カシノナガキクイムシはこが運こび込こむナラ菌きんの繁殖はんしょくにより、
水みずの吸すい上げを阻そ害がいして枯死こしさせる伝染病でんせんびょうだそうです。
このナラ枯れがを防止ぼうしする一つの方法ひとは、ブナ科かの大木たいぼく（直徑ちよっけい約やく30cm以上）を伐採いじょうし
て萌芽更新ぼうがこうしんをして若木わかぎ中心ちゅうしんの森もりにすると被害ひがいは減げん少しょうするそうです（カシノナガキクイムシ
は太ふとい木きに集あつまりやすい）。



カシノナガキクイムシ
(大川検討委員提供)



ノカンゾウ
(レポーター提供)

● 秋になっても自宅のヤマブキが咲き続け、10月にはハナズオウがちらほら、モクレンも一花咲いてしまい、どうしたものかと心配になりました。

● 山火事の爪痕もまだ残っているようで、焼け跡に咲くはずだった山野草が戻っていませんでした。

今年に限らず、春に咲く花も稀に秋～冬に咲くことがあります。今年の夏の高温と少雨の影響もあるかもしれません。

今まで、季節になると花を咲かせた植物が、急に見られなくなるのは淋しい事だと思います。しかし、もう少し様子を見てみましょう。復活するかもしれません。

● 始めてネナシカズラを見ました。色が綺麗で目立ちます。まさか植物とは思いませんでした。

ネナシカズラの仲間は全国に3種類あると知られていますが、いずれも宿主の植物に寄生する寄生植物です。

最初は普通の根を持ち、宿主の植物に寄生すると元の根は消え、宿主に寄生して養分を吸い取るそうです。

細いツルを四方八方に伸ばし、宿主を覆いつくすほど繁茂します。

● アシについては矢場川の県境(南大町と太田市高瀬の間)や渡良瀬川との合流(瑞穂野町)辺りに生育していることを認識していますが、正確な確認は来年に持ち越そうと思います。



ツマグロエダシャク
(レポーター提供)



サトクダマキモドキ
(レポーター提供)

＜昆虫＞

- 最近^{さいきん}はカメムシ^{おお かん}が多く^{おお}感じ^{かん}ます。

年^{とし}によって違^{ちが}うかもしれ^{おお}ませんので、続^{つづ}けて観^{かん}察^{さつ}して^{おお}みて^{かん}くださると嬉^{うれ}しいです。

- いろい^おろな場^ば所にカメムシ^{おお}がいてと^おても怖^{こわ}か^いった^いです。行^いって^いる塾^{じゅく}の壁^{かべ}に80匹^{ひき}以上^{いじょう}い^おました。カメムシ^{おお}が寄^より付^つか^{かん}ない対^{たい}策^{さく}はあ^おり^{かん}ますか？

塾^{じゅく}の壁^{かべ}に80匹^{ひき}以上^{いじょう}いた^おということ^おですが、集^{しゅう}団^{だん}で冬^{ふゆ}を越^こすカメムシ^{おお}が^{かん}いる^{かん}こと^{かん}から、冬^{ふゆ}越^こしの準^{じゅん}備^びのため集^{あつ}ま^{かん}って^{かん}いた^{かん}感じ^{かん}が^{かん}し^{かん}ます。

カメムシ^{おお}が寄^より付^つか^{かん}ない対^{たい}策^{さく}として^おイン^おター^おネ^おット^おで「カメムシ^{おお} 忌^き避^ひ剤^{ざい}」^{けん}で^{けん}検^{けん}索^{さく}して^おみて^おくださ^おい。た^おく^おさ^おん^おの薬^{やく}品^{ひん}が^お販^{はん}売^{ばい}さ^おれて^おい^おます。多^おく^おの^おカメムシ^{おお}は^お怖^{こわ}い^お虫^{むし}では^おあ^おり^おま^おせ^おん。捕^{つか}ま^おえ^おると^お臭^{くさ}い^お匂^{にお}いが^おし^おま^おす^おが、私^{わたし}は^お素^す手^てで^お捕^{つか}ま^おえ^おて^おい^おます。慣^なれ^おると^お気^きにな^おら^おな^おく^おな^おり^おま^おした^お。

トコジ^おラ^おミ^おや^おア^おメ^おン^おボ^お、タ^おガ^おメ^おも^おカメムシ^{おお}の^お仲^{なか}間^まです。カメムシ^{おお}に^おつ^おいて^お詳^{くわ}しく^お知^しり^おた^おい^お方^{かた}は『カメムシ^{おお}博^お士^お入^お門^{もん}（出^お版^お：全^お国^お農^お村^お教^お育^お協^お会^お）』^{ぜんこくのうそんきょういくきょうかい}』^{ほん}とい^おう^お本^{ほん}が^お大^お変^お参^お考^おに^おな^おり^おま^おす^おので、興^お味^おの^おあ^おる^お方^{かた}は^おご^お覧^{らん}に^おな^おつ^おて^おくださ^おい。

- 祖^お母^おの^お家^おの^お柿^{かき}が^おへ^おこ^おん^おで^おい^おる^おもの^おが^お多^おく^お見^おら^おれ^お、調^おべ^おて^おみ^おると^おそ^おの^おく^おぼ^おみ^おは^おカメムシ^{おお}の^お吸^お汁^{じゅう}に^およ^おる^お被^お害^{がい}ら^おしい^おと^おわ^おか^おり^おま^おした^お。

柿^{かき}を^お害^{がい}す^おる^おカメムシ^{おお}は^お多^おく^おいて、な^おか^おで^おも^おク^おサ^おギ^おカ^おメ^おム^おシ^お（写^お真^お左^さ）^{しゃしんひだり}や^おチャ^おバ^おネ^おア^おオ^おカ^おメ^おム^おシ^お（写^お真^お右^{みぎ}）^{しゃしんみぎ}が^お有^お名^{めい}です。



クサギカメムシ



チャバネアオカメムシ

●クロメンガタスズメの幼虫は緑色型と褐色型があり、毎年両方いて、なすの葉を食べているのを見ることができました。色の変化は卵からかえる時に決まるのでしょうか？

クロメンガタスズメではありませんが、レタス、トマト、ナスなどの野菜類のほか、花き類など多くの作物を害するオオタバコガを用いた山崎 梓博士の研究の要約がインターネットにありましたので少し難しいのですが一部紹介します。クロメンガタスズメの幼虫も同じことが言えそうです。

『オオタバコガの幼虫は体色に様々なパターンが存在し、特に終齢期において緑色から褐色、黒色まで非常に顕著な色彩多型がみられます。利用する寄主植物の部位によって体色発現頻度が異なり、特に葉を摂食すると緑色を高い頻度で発現する傾向がみられました。また緑色幼虫の体液中には餌由来のカロチノイド色素が多く存在していることから、餌が体色発現に影響を与えていることが示唆されました。

体色決定に影響を与える可能性のある他の環境要因についても検証を行いました。まず、様々な温度条件下で飼育を行った結果、高温条件下ほど体色の明度が上がり、逆に低温下では体色の黒化が見られました。また、秋季の野外において幼虫体温を測定した結果、褐色幼虫の方が周辺気温に対する体内温度が相対的に高い傾向がありました。このことから、気温の低い環境条件下では褐色幼虫の方が体温上昇において有利であると考えられました。緑色幼虫は高い隠蔽度から視覚を利用する捕食者から回避することが考えられました。

その他にも背景色が体色発現に与える影響を検証したが、背景の色そのものではなく明度が関係しているとも考えられる結果となりました。』

●セミ、蚊の発生タイミングが狂っていたように感じます。

●ナガサキアゲハやくロメンガタスズメ、ツマグロヒョウモンなどが増えたように感じます。

おそ おんだんか ぶん おも おんだんか ぶん むし
恐らく温暖化により増えているものと思います。ほかにも温暖化で増えている虫がたくさんいます。特に足利市は栃木県のなかでも暖かい場所ですので、真っ先に侵入します。これからも関心を持って観察してみてくださいと嬉しいです。

●アキアカネ、ツバメなどは増えましたが、ヒグラシやハグロトンボなどは減っていたように感じます。

●アブラゼミは今年、昨年よりは増えた印象でしたが、逆にニイニゼミは少なかったかと思われました。

とし ちが つづ かんしん も かんさつ
年によって違うかもしれませんので、続けて関心を持って観察してみてくださいをお勧めいたします。確かにニイニゼミは少ない印象がありました。

●チョウ類を見つけるのが難しかったです。

●チョウやトンボ等の種類が分かりづらいです。

じかん きせつ かんきょう であ こと すかん
時間や季節、環境によって出会えるチョウは異なりますので、図鑑やインターネットで調べて探してみると、見つけた時の喜びは大きいと思います。織姫山のような身近なところでもきれいなチョウに出会えると思います。

また、種類を覚えるには身近なものからまず覚えてみてはいかがでしょうか。チョウの場合、本市で知られるチョウは約90種ですが、身近にみられるものは、20~30種ほどですので、まずここから覚えてみてはいかがでしょうか。新書版程度のハンドブックもありますので、自分に合ったものを見つけてトライしてはいかがでしょうか。インターネットにも見分け方がたくさん出ています。

●フラワーパーク内のフジバカマに来るアサギマダラの数がここ1~2年すごく減っているように思います。

とし かす そうげん ひ つづ かんしん も うれ
年によって数の増減はありそうですので引き続き関心を持っていただくと嬉しいです。

●^{いま}まで^き聞いたことのない^{こえ}ミンミンゼミ^きの声を聞きました。

ミンミンゼミの^{こえ}声^きが^よ聞いて良かったですね。ミンミンゼミは^{たか}高い^き木^はが^は発達^{した}樹林^をを好^む傾向^があり、^{けいこう}市街地^{より}も^{やま}山^よりで^き良く聞^くことができます。

●^か蚊^がを^み10月^みになっても見^かけました。

^{もうしょ}猛暑^の時は^か蚊^がが^{すく}少なく、この^{きかん}期間^は活動^に適^{した}温度^でではありません。ニュース^やワイドショー^{でも}も^{もうしょ}猛暑^で蚊^がが^{すく}少ないと^{ほうどう}報道^{され}ていました。10月^が頃^にになると^{かつどう}活動^に適^{した}温度^となり^み見^かける^{きかい}機会^がが多^なったもの^と思います。11月^{でも}も蚊^に刺^さされた^{ひと}人は^{おほ}多い^{よう}です。

●^{あつ}暑^さのせい^か、^{れいねんたいぐん}例年^み大群^で見る^{アキアカネ}アキアカネ^をを^{おほ}ほとんど^み見^かけられませんでした。

●^{あか}赤^{かす}トンボ^{すく}の数が^{おち}少^なかった^{よう}に思^いました。

^{あか}赤^{ねんねんげんしょう}トンボ^は年々^な減^少している^{よう}です。この^{なま}仲間^は国^や県^の絶滅^危惧種^になっている^{もの}が多^いです。いつ^までも^{あか}赤^いトンボ^いが^い生きて^いける^{かんきょう}環境^が残^ることを^{ねが}願^っています。

●^{ことし}今年^は猛暑^で昆^{ちゅう}虫^の発生^がが^{おち}あまり^なかった^{よう}に思^います。

^{はんば}半端^でではない^{もうしょ}猛暑^でした。虫^に影^{むし}響^{えい}を^{あた}与^えた^{こと}は^{たし}確^かだ^と思^います。^{わたらせゆう}渡良瀬遊^{すいち}水地^で夜間^{やかん}明^あかり^ををつけて^{ちようさ}調^さ査^{した}結果^だと^{けっか}明^あらかに^{もうしょ}猛暑^の影^{えい}響^{きよう}が^{かん}感^じられ^ました。

●^{ことし}今年^はアサギマダラ^をを^み見^ることが^なく^{ざんねん}残念^でした。

^{しん}新^{ちんはっけんほうこく}・珍^{はっけんほうこく}発見^{報告}報告^がが^いく^つか^あり^ました。^{うつく}美^{しく}優^{ゆう}雅^がに^ま舞^まう^{すがた}姿^にには^{かんげき}感^げ激^します。^{らいねん}来^{ねん}年^は見^られ^ると^よ良^いです^ね。

- 夏に頭上の手の届かないところを大量のタマムシが飛び回っていて、見たことがない光景でした。

タマムシ成虫は盛夏の日差しの強い日中のみ活発に活動し、エノキ・ケヤキ等の広葉樹の梢の上を飛翔しているものがしばしば観察されています。また輝いて目立つことから鳥に襲われそうですが、CDが鳥よけに使われるように鳥はタマムシを嫌うことがわかっているそうです。しかし、なかなか見ることができない光景に出会ったのは幸運だと思います。

- 虫の世界は不思議がいっぱいで楽しいです。

おっしゃる通り、本当に虫の世界は不思議がいっぱいです。私も同じ思いですが、年々少なくなっているのが残念でなりません。

- ナガコガネグモ、ジョロウグモ、ハエトリグモ等を今年も発見しました。

- 軒下に巣を構えるオニグモの生態を夏から今に至るまで気にかけて見ていますが、日中は巣にはいないのに夜になるとどこからともなく現れて、巣を補修しつつ、待ち伏せて巣の中央に陣取っています。毎晩通ってくる様を見ていると、カオジロガビチョウに捕食されずに良かったと都度思っています。

- 今年シロカネイソウロウグモには会えませんでした。ゴミグモやアリグモは会えました。

- 春先の蚊柱のようにまとまって小さな昆虫が多く飛び交っているのをよく見たらアブラムシでした。植物の茎や葉にびっしり密着している姿ばかりを見てきたので、飛ぶ虫だということを忘れていましたが、見方を変えて観察してみると意外な発見があり更に好奇心が沸いて来ます。

＜水辺の生き物＞

- 数年前にはよく見られたアメンボ、どじょう、ザリガニの数が減っているように思います。
- 夏が暑かったからかカエルがあまり見られなかったです。
- 昔に比べ、カエルやヘビが激減しているように感じる。(イノシシの影響でしょうか?)
- トウキョウダルマガエルは今年も発見できずに終わりました。
- スジエビは小さなものしか見つからず、タニシは減り、ドジョウもあまり見られなくなりました。

夏の暑さや、雨の降り方の変化など、水辺の生き物にとってますます生存に困難な状況になってきているように思います。冬でも気温の高い状況の日が出てきており、わが家で保護して育てているミシシippアカミミガメは、12月中旬を過ぎてても動き回っている日が多くなりました。冬眠できずに困っているようです。また、裏の水田がなくなり、今年は庭のヌマガエルがほとんど見られなくなりました。多くの生き物が、生息場所が限られたり、生息数が減少したりしているようです。結果として他の生物に集中的に食べられてしまうなどの悪循環が始まっているように思われます。現在、それぞれの生物が持っている生存力のおかげで何とか持ちこたえているものの、いったんバランスが崩れてしまうと、急激に影響が出てしまう恐れがあるといえます。

今後も引き続き観察を継続し、変化を見逃さないようにしていくことが、ますます大切になってきていると思います。今後ともよろしくお願ひします。

- 相変わらずヌマガエルが圧倒的に多く発生しています。
- アマガエルは数回遭遇でき嬉しく思いました。
- メダカやカワニナ、アメリカザリガニは見受けられました。

- タガメを探そうと市内の田んぼや用水路を複数箇所回ってみましたが見つけることはできなかったので、来年こそは発見報告をしたいです。

タガメは、私も県外（茨城県、学生時代；35年前）でしか発見したことはありません。足利市内で発見できると大発見だと思います。頑張ってください。

- ナマズが「はたき」（釣り人と言う魚類の産卵の俗語）に夢中で、傘を開いて水中に入れて途中まですくい上げられるまで気が付かないことに動物の本能を垣間見た気がしました。

産卵期の魚類は、捕獲するための絶好のチャンスですね。私も子供の頃、コイやオイカワなどを産卵期に大量に捕まえた思い出があります。

- マシジミの棲息する水路についても、今年は久しぶりに調査しましたが、時期が遅かった影響もあるとは思いますが、マシジミの生きた個体を探すのに若干難儀しました。

<外来生物など>

- クビアカツヤカミキリの被害が大きく、桜の木が枯れていたり、枝を切られたりして痛々しいです。

- 桜の木が枯れていくのが残念です。

<その他の生き物>

- 大岩の山にシカが増えているように思います。（毎晩鳴き声がする）

- 川沿いでは、20cmくらいの浅い穴の真ん中に種が大量に入った大きなフンが点々とありましたが、クマでしょうか。

- 蛇に会えたのは何年かぶりです。ほっとしたような気持ちになりました。

＜気候・自然環境の変化など＞

- 水田がなくなり、耕作者がいなくなり農業用水の水も不安定となり、棲みついた生き物も干上がってしまい姿を消してしまいました。
- 耕作放棄地が増えて、水田が減り、水中生物の減少が心配されます。
- 水辺に生物が多いが、小川や下水道（暗渠を含め）にごみ、特にプラスチックが目につき、生物が誤飲しないのかと心が痛みます。
- 猛暑日がとても多く、そのころは蚊もあまり見かけませんでした。
- 初冬に入ろうという時期とは到底思えない夏日もあり「スーパーエルニーニョ」と言われる現象と見聞きするにつけ環境に目を向ける習慣が付いて以来、年々早いペースで変化が起こっていると肌で感じます。
- 野鳥の勘違い＝植物の徒花＝人の体調不良（飛躍しすぎですが）地上の生物の異常が多重に発生しているように思えます。自分の周囲の小さなエリアからも分かることになってしまっているのは脅威でもありますが何か一つでも環境保護に通じることを手の届く所から始めていこうと思いました。

＜全体的な感想＞

- 環境がとても大切と感じています。
- 家の周辺に気づかない生き物がたくさんあると楽しめました。
- 今年はいろいろな生物が少なかったように思いました。
- 年をとり、行動半径もせまく、近所の数メッシュしか調査できませんでした。が、日々、自宅の庭だけでも花や昆虫、カエル等多種の生き物が見られ、楽しみにしています。

- 小学生だった近所の子供達も中学生や高校生になり、忙しく調査から離れて行ってしまうのは残念です。
- 暑さのせいかな今年は大いぶ怠けてしまったようです。メモするのを忘れてしまったこともありました。
- 調査中に不審者と間違われぬように環境レポーターであることを示す腕章のようなものが欲しい。
- 今年は暑くてあまり外に出られなかった。
- レポーターに加えていただき2年目でした。我ながら要領がつかめてきたと感じています。
- 植物は不得意(どちらかと言えば嫌い)な分野でレポートもままならない内容と反省しています。

なまえ
名前がわからない
いのもの
生き物を
み
見つけたら



市環境政策課にご質問をお寄せください！
検討委員の先生方に鑑定していただき、
回答します。
あなたの質問が貴重な発見につながるかも？

つぎ
次のことに気を付けて
よく観察してください。

- ①いつ ②どこで
おお いろ
③大きさ ④色
な こえ と かた
⑤鳴き声、飛び方などの
とくちょう
特徴

市環境政策課にメール・手紙・電話等で
これらの情報とともに
ご質問をお寄せください。
(連絡先は裏表紙の裏側をご確認ください。)



写真があると
より鑑定しやすいので
可能な場合は撮影し、
写真も一緒にお送りください。

※お寄せいただいた写真は、報告書の表紙等に掲載させていただく場合がございますので、ご了承ください。

3 レポーターからの画像鑑定依頼

このページでは、みなさんの生き物調査の参考になるよう、令和5年度中にレポーターの方から質問（写真つき）や現物の提供があった生き物と、その鑑定結果について掲載しています。今年もたくさんのご質問をいただきました。レポーターの皆さん、ご回答いただいた検討委員の皆さん、ありがとうございました。

【鳥】

<p>キジ</p> <p>ももたろうでも知られる鳥で非常に美しい緑色の体色をしています。明るい草地に生息していて、飛ぶことよりも走ることが得意な鳥です。</p>		<p>アカゲラ</p> <p>キツツキ科の鳥で、繁殖期にはくちばしで1秒間に20回も木をつつくドラミングという行動をします。</p>	
<p>ツグミ</p> <p>冬鳥で、大陸から渡ってきます。日本ではほとんど鳴かず「口をつぐむ」からツグミと名付けられたとされています。</p>		<p>モズ</p> <p>林の周りや河畔林などに生息していて、「モズのはやにえ」という捕まえた餌を木の枝などに刺し、保存食とする行動が見られます。</p>	
<p>トビ</p> <p>「ピーヒョロロ」という鳴き声をして上空を円を描きながら飛びます。飛んでいる時の尾羽が三角形に見えます。</p>		<p>アオサギ</p> <p>流れの遅い河川や湿地、水田で良く見られます。松林などに集団で集まり巣を作ります。</p>	

しょくぶつ
【植物】

フジ

みなさんご存じのとおり、本市の花です。マメ科の植物で日本の固有種です。あしががフラワーパークでは毎年多くの観光客が訪れますね。



ヤブデマリ

5月～6月ごろに水平に伸びた枝に5枚のうち1枚だけとても小さいユニークな花びらをもつ花をつけます。



スッポンタケ(幼菌)

初夏から秋にかけて発生します。成熟するとスッポンの頭部に似た形になることからこの名前となりました。また、独特な悪臭ともいえる強い臭いを発します。



ネムノキ

似た葉にはクサネム、カワラケツメイ、オジギソウ等があります。



アオツツラフジ

ツルを伸ばしてほかの植物に巻き付きながら成長します。名前はこのツルを使った「つづら」というカゴを編んでいたことから付いたとされています。



ムラサキシキブ

6月～7月ごろに写真のような淡い紫色の花をつけ、実も熟すと紫色になります。名前の由来は花や実の色から平安時代の女性作家、紫式部に例えたとされています。



ウツギの一種

ウツギは茎が空洞になっており、「空木」と言われたことが名前の由来とされています。また、花が4月に咲くことからウノハナともいわれます。



キハギ

日当たりの良い山野に多く生え、花期は7～9月頃です。花はハギ特有の蝶形で、花びらは白と濃紫色の花を付けます。



クマイチゴ

山間部の日当たりのよ
り林道沿いなどで生育
します。集合果の実を
つけ、熟した実は食べ
ることができます。



ヒガンバナ

秋の彼岸頃に鮮やかな
紅色の花が咲くことに
由来しています。土手や
堤防、墓地やあぜ道に並
んで咲いているのを見る
ことができますね。



オモダカ(調査対象種)

田んぼや湿地などに
生え、アギナシと非常
に似た葉と花を付け
ます。葉は独特な矢じ
り形をしており、見つ
けやすいですね。



スベリヒユ

畑やあぜ上でよく見
られます。乾燥に強く、
増えやすいことから
畑作農家からは害草と
して知られています。



アミガサタケ(老菌)

春頃に林内や庭園内の
地上に生え、傘の部分
独特な網状になることが
名前の由来とされていま
す。微量ですが毒があるた
め注意が必要です。



ミズオオバコ

栄養がある浅い水域に自生しますが、水田
の環境変化や水質汚濁等により生息数が
激減しており、日本では絶滅危惧種となっ
ています。ビオトープなどで水域の環境が
回復してい
る場所では
復活するこ
ともあるよ
うです。



こんちゅう
【昆虫】

コガネムシの一種(幼虫)

写真に写っているものは15~20mmくらいで、コガネムシの仲間の中で植物の腐ったものや根を食べる種類のクロコガネの仲間と思われます。



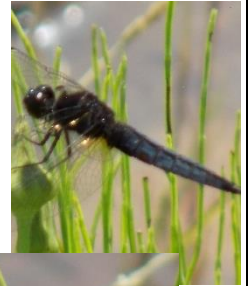
アオスジアゲハ

大きさは32~45mmで幼虫はクスノキやタブノキを食べます。市内では多く見ることができます。



ハラビロトンボ(オス)

大きさは32~42mmでハラビロトンボは植物の多い池や沼にいますが、市内では少なくなっています。写真を撮られた地域には良好な場所があるということだと思います。全国的に減少していて、7つの都道県で絶滅危惧種となっています。



令和5(2023)年度 環境に関する大きなできごと①

◆アメリカザリガニとミシシippアカミミガメが条件付特定外来生物に指定

6月1日、環境省はアメリカザリガニとミシシippアカミミガメ(通称:ミドリガメ)を条件付特定外来生物に指定しました。

飼育はこれまでどおり可能ですが、野外へ放したり、逃がすことが法律で禁止されることになりましたので、気を付けて飼育してください。

◆ツヤハダゴマダラカミキリの被害が県内で初確認

8月29日、那須塩原市内の小学校のトチノキ1本にツヤハダゴマダラカミキリによる被害が確認されました。その後、野木町や小山市でも見つかっており、栃木県内に広く生息している可能性があります。

トチノキやカエデといった様々な広葉樹に卵を産み付け、幼虫は樹幹を食害するため、今後の動向に注意が必要です。

ゴマダラカミキリ

おお
大きさは20~35mmで
ようちゆう
幼虫はいろいろな
こうようじゆ た
広葉樹を食べます。
しない ふつう み
市内には普通に見られ
ます。



アカボシゴマダラ

おお
大きさは40~53mmで
しない ねんごろ
市内では2012年頃か
ら見られるようになり、
いまでは良く見掛ける
ようになりました。
がいらいしゆ ようちゆう
外来種で幼虫はエノキ
を食えます。



ヤマトシリアゲ(メス)

おお
大きさは13~20mm
しないぜんいき せいそく おお
で市内全域に生息し多
く見られます。オスは
なか さき ま
お腹の先が曲がってお
り(把握器)、名前の
ゆらい
由来となっています。



キアゲハ(幼虫)

せいちゆう おお
成虫の大きさは36~
70mmで幼虫はセリ・
ニンジン・パセリなどを
た しない やまよ
食べます。市内では山寄
りのあか あ ばしよ
の明るく開けた場所に
おお
多くいます。



オオカマキリ(幼虫)

がつけじょうじゆん
8月上旬から
げじゆん おや
下旬にかけて親
になります。
ようちゆうきかん
幼虫期間は3か
げつ ほど (ちようさ
たいしょうじゆ
対象種)。



フタオビキョトウ

おお
大きさは18~25mm
に しゆるい
で似た種類のものがい
るため別の種かもしれ
ません。幼虫はヨシな
どをた しない
食べます。市内の
せいそくしょうきょう ふめい
生息状況は不明。



クシコメツキ

おお
大きさは14~20mm
そうきはやし ひろ
で雑木林などに広く
せいそく あ
生息します。明かりに
も良く飛んで来ます。
コメツキムシのなかま
はうらがえ は
裏返すと跳ねる
しゅうせい
習性があります。



マダラスズ

おお
大きさは6~8mmで
かわら ひら ばしよ
河原など開けた場所を
この しない おお
好み市内には多くいま
す。チリチリチリとい
うな ごえ な
鳴き声で鳴きます。



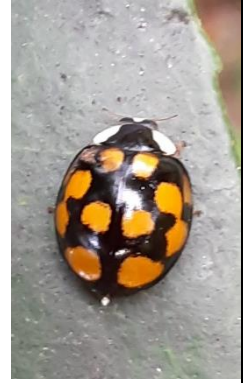
ヤマトシジミ

おお
大きさは 9~16mm
で、^{ようちゆう}幼虫はカタバミ
を^{た ひ あ よ}食べ、日当たりの良
い^{ばしよ この}場所を好みます。
市内では^{しない もっと おお}最も多いチョウの
ひとつです。



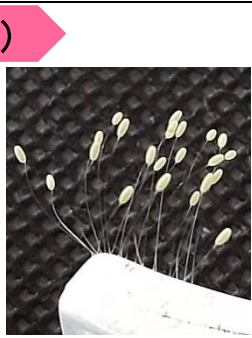
ナミテントウ

おお
大きさは 4.7~8.2mm で
いろいろな^{もよう}模様があり、ア
ブラムシを^{た しない}食べます。市内
では^{ひろ はんい おお み}広い範囲で多く見ら
れます。



クサカゲロウの一種(卵)

クサカゲロウの^{なかま}仲間の
^{たまご}卵で優曇華(うどんげ)の
花と言われることがあ
り、よからぬことが起る
^{おこ}言い伝えがありました。
^{ようちゆう}幼虫はアブラムシを^た食べ、^{しない すうしゆ}市内には数種の
クサカゲロウの^{なかま}仲間がいます。



ショウリョウバッタ

おお
大きさはオスが 30~
40mm、メスが 63~
66mm で河原などの
日当たりの^{かわら}良い開けた
^{ひ あ たい ひら}場所に^{おお}住みます。オス
は^と飛ぶときにチキチキと音を出すのでチキ
チキバッタとも^い言われます。市内には^{しない おお}多く
^み見られます。



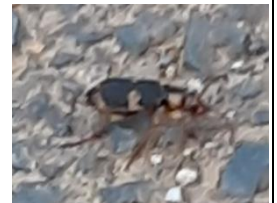
ココマキリ(幼虫)

^{ようちゆう}脚の^{もよう}まだら模様が
^{あし}特徴で、^{とくちゆう}成虫の^{せいちゆう}大き
さはオスが 36~
55mm、メスが 46~
63mm。^{しないかくち}市内各地で
^{おお み}多く見られます。



ミイデラゴミムシ

おお
大きさは 12~19mm。
^{ようちゆう}幼虫はケラの^{たまご た}卵を食
べ、^{せいちゆう}成虫はガス^{ぶんしゃ}を噴射す
ると^{とくい しゅうせい}いう特異な習性が知られています。
^{しない}市内ではケラがいなくなっていることから
^{み まれ}見られるのは稀です。



シロスジカミキリ

おお
大きさは 40~55mm
で^{そうきはやし}雑木林に^{せいそく}生息してい
て、^あ明かりにも^き来ます。
^{にほん}日本では^{さいだいきゆう}最大級の^{おお}カミ
キリ^{ほんし}ムシですが、本市で
は^{すく}少なくなってしまうました。



ウラナシジミ(メス)

おお
大きさは 4.7~8.2mm
で^{ほっぽう}北方へ^{いどうかくさん}移動拡散する
^{せいしつ}性質があり、^{しない}市内では^{あき}秋
に^{おお}多く見られますが、^{さむ}寒
くて^{ふゆ}冬を越すことができ
ません。^{ようちゆう}幼虫は^{まめ}豆の^{なかま}仲間
を^た食べて^{せいちゆう}成長します。



ヒメウラナミジャノメ

おお
大きさは 18~24mm
で、本市では最も多い
チョウのひとつです。
あか ひら ばしよ おお
明るく開けた場所に多
くいます。幼虫はイネ
やカヤツリグサの仲間
を食べます。



ミヤマアカネ

おお
大きさは 30~40mm で、本市ではかなり
すく 少ないトンボです。全国的に減少してお
り、17都府県で絶滅危惧種となっていま
す。

▼メス



▼オス



令和5(2023)年度 環境に関する大きなできごと②

かんきょう
環境アプリケーション「あしかがエコ」が
はいしんかいし
配信開始

れいわ ねん がつ にち
令和6年2月20日、スマートフォン向け環境
アプリケーション「あしかがエコ」の配信を
かいし
開始しました。CO2排出削減のために身近
なところから環境にやさしい取り組みを
じっせん きろく
実践・記録し、2050年ゼロカーボン社会の
じつげん めざ
実現を自指しましょう！



はいしょくゆ かいしゅう
廃食油の回収とリサイクルについて民間
きぎょう れんけいきょうてい ていけつ
企業との連携協定を締結

れいわ ねん がつ にち
令和6年2月26日、廃食油の回収とリサ
イクルについて ENEOS (株) 及び (株) 吉
川油脂と連携協定を締結しました。

ごみの減量、CO2 排出量削減につながる
取り組みです。ご家庭から出る廃食油を、
ぜひ市内スーパー等の回収拠点へお持ちくだ
さい！

Android
スマートフォン用



iPhone 用



詳しくはこちらから→



サトクダマキモドキ

おお
大きさは 18~24mm
で、^{ひとごと}人里に多く見られ
ます。市内では少なく
ないですが、^き樹の上で生活するため気が付
かないと思います。明かりにも来ます。本市
には^{さんかんぶ}山間部によく似たヤマクダマキモドキ
がいます。



ウスバカゲロウ

おお
大きさは 36~41mm
で、^{ようちゆう}幼虫はアリジゴ
ク。^{のきした}軒下など^{あめ}雨のあた
らない^{かわ}乾いた場所に多
くいます。^{はかげ}葉陰などの
ちょっとしたところにも
アリジゴクがあります。



ルリタテハ(幼虫)

せいちゆう おお
成虫の大きさは 25
~44mm で^{ようちゆう}幼虫はユ
リ類・サルトリイバラ
などを^た食べます。本市
には^{ふつう}普通にいて、
^{せいちゆう}成虫で^{ふゆ}冬を^こ越します。



ホタルガ

おお
大きさは 24~34mm
で 4月から見られ、
^{ひるま}昼間に^{かつどう}活動する蛾で
す。^{ようちゆう}幼虫はヒサカキな
どを^た食べます。本市で
は^{ふつう}普通に見られます。



カネタタキ

おお
大きさは 7~11mm
で、「^{ちん}チン・^{ちん}チン」と小
さな音で鳴きます。本
市では^{じんか}人家の^{まわ}廻りなど
にも^{ふつう}普通にいますが、^みなかなか見かけられ
ない^{こんちゆう}昆虫です。



アジアイトトンボ

おお
大きさは 24~34mm
で 4月から見られま
す。当市では^{もっと}最も多
いトンボです。



ツマグロヒョウモン(メス)

おお
大きさは 27~38mm
で、オスには^{まえはね}前翅の黒
い部分がありません。
パンジーなど^{すみれ}スミレ
の^{なかま}仲間を^た食べます。
^{だんちせい}暖地性のチョウで、^{おんだんか}温暖化に伴い本市では
2006年頃から見られるようになり、^{いま}今で
は^{かくち}各地で多く見られます。



セスジズメ(幼虫)

ようちゆう
幼虫はヤブガラシ・ノ
ブドウ・サツマイモな
どを^た食べます。市内に
多くいます。地面を這
っているのを^み見かける
ことも^{おお}多いです。



ヒメクロホウジャク

おお
大きさは 21～22mm
ひるまかつどう が
で、昼間活動する蛾で
す。ホバーリングしな
がら ぎゅうみつ
ながら吸蜜するホウジ
ャクの仲間です。秋に
み
見られます。本市の
かうち ふつう み
各地で普通に見られます。写真からこの種
と鑑定しましたが、よく似た別の種である
かのうせい
可能性もあります。



フクラスズメ(幼虫)

しゃしん わか
写真のものは若い
ようちゅう
幼虫でフクラスズメ
の幼虫ではないかと
おも
思われます。幼虫はイラクサ・カラムシな
どを食べ、本市では河原などの明るく開け
た場所に生息し、非常に数が多くいること
があります。幼虫は危険を感じると頭部を
そ みどりいろ えきたい は だ
反らせ、緑色の液体を吐き出しながら頭部
を激しく横に振ります。成虫で冬を越しま
す。



キボシカミキリ

おお
大きさは 15～30mm
で、幼虫はクワイチ
ジクなどを加害しま
す。本市では普通にい
るカミキリムシです。



キロスズメ(幼虫)

ようちゅう た
幼虫はヤマイモを食べ、
せいちゅう おお
成虫の大きさは 40～
53mmになります。本市で
の生息状況は不明です。



ウラギンシジミ(オス)

おお
大きさは 19～27mm で、
せいちゅう ふゆ こ
成虫で冬を越します。翅
の裏側が銀色をしており、
うらがわ ぎんいろ
一目で本種と区別できま
す。市内に広く生息しています。幼虫はマ
メ科のクズやフジの花や蕾を食べるとい
われています。



ヒメアカタテハ

おお
大きさは 25～33mm
で本市では最も多い
チョウです。移動能力
の高いチョウとして良
く知られています。よく似たアカタテハよ
りは多いようです。幼虫はキク科のヨモギ
やハハコグサなどを食べることが知られて
います。温暖化による北上昆虫のひとつ。



オオアイトトンボ(メス)

大きさは 34～48mm で出現期が長く、成虫は晩秋まで見られます。本市ではそれほど多くない



ようで、どこでも見られるというトンボではないようです。

ヒゲコメツキ(オス)

大きさは 19～30mm で雑木林の葉上などにいて、明かりにも良く飛んできます。市内では普通に見られますが、初めて見た人は特徴ある櫛のようなオスの触覚に驚くと思います。



【水辺の生き物】

クサガメ

最大30cmにもなると言われるカメです。オスよりもメスの方が大きくなります。甲羅に3本の筋状の突起が特徴です。



ヌマガエルまたはツチガエル

お腹側の模様で判別ができます。場合によってはそもそも区別がつかない可能性もあります。



ウシガエル

水草の生える流れの緩やかな水辺に生息します。警戒心が強く、暗いところに隠れます。「プオー、プオー」という牛に似た鳴き声をしています。



アマガエル

水辺の植物の上や森林などに生息します。鳴くのはオスのみで、鳴のうという袋を膨らませて鳴きます。



スジエビ

前足の部分で判別できます。体の模様と形からスジエビと思われま



マシジミ

台湾マシジミ等と交雑している可能性が大いにあります。判別するためには遺伝子レベルで調べないと断定できません。



アメリカザリガニ

体色は赤色と茶褐色とその混合で、水田や池など水深が浅く流れの緩い場所に生息します。令和5年6月1日より、条件付特定外来生物に指定されました。



カワニナ（幼虫）とトビケラ（幼虫）

それぞれを詳しく判別するには石粒の殻から本体を取り出さないと判別することができません。



【その他】

ギンメッキゴミグモ

大きさは3～7mmで本市における生息状況は不明です。インターネット等によれば林の周辺や公園、庭先などで見かけるありふれた種とのことです。



ナガコガネグモ

大きさはオスが6～12mm、メスが20～25mmで本市には広範囲に多く生息しています。8月～10月の明るい草地や水田付近にも多く見られます。刺激を受けると巣を強く揺さぶります。



ドヨウオニグモ

大きさは4～10mmでメスのほうが大きくなります。本市では河原や田んぼなどに普通にみられ、初夏と秋の土用の時期に多く発生することからこの名前がつけられたとされています。



ザトウムシの一種

この仲間には市内山間部で良く見ることができます。脚が非常に長く、地面を歩いて小さな虫やその死骸を食べます。



この報告書は、次の方々の協力を得て作成しました。

環境レポーター検討委員

(敬称略)

氏 名	担 当	現 ・ 旧 役 職
谷 津 勝 利	鳥	日本野鳥の会栃木県支部足利分会会員
桑 島 正	植 物	自然観察指導員
大 川 秀 雄	昆 虫	栃木県自然環境調査員
宮 本 歩	水辺の生物	元足利市立西中学校校長

足利市民憲章

(昭和45年5月5日制定)

私たちは、自然にめぐまれ、はるかなる昔から文化がひらけていた学問のまち、産業のまち足利市を心から愛し、より美しく、より豊かにするためにこの憲章を定めます。

- 1、足利市は日本最古の学校のあるまちです。
- 1、足利市は美しいまちです。
- 1、足利市は善意のまちです。
- 1、足利市は希望にみちたまちです。
- 1、足利市は伸びゆくまちです。

わたしたち足利の自然
市民環境レポーター調査結果報告書
令和5年度版

令和6年3月 発行

足利市 生活環境部 環境政策課

〒326-8601
栃木県足利市本城三丁目 2145 番地
電話 0284-20-2151
FAX 0284-20-2140
E-mail kankyou@city.ashikaga.lg.jp



**SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS**